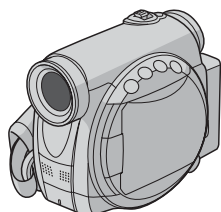
取扱説明書

デジタルビデオカメラ

型名 **GR-D230**

外国人のお客さまへ
メニュー表示などを英語に変更するには、P.138 をご覧ください。
For non-Japanese users
To change the Menu indications etc. to English, see page 138.

e-movie! MiniDV NTSC i.LINK

お買い上げありがとうございます

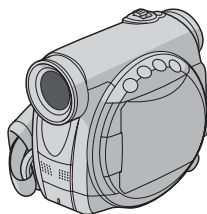
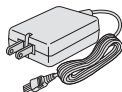
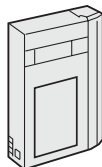
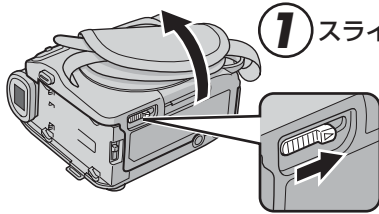
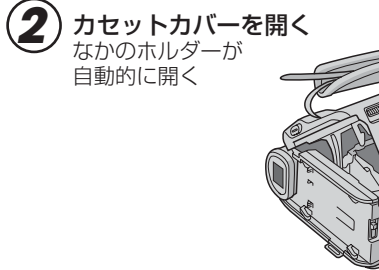
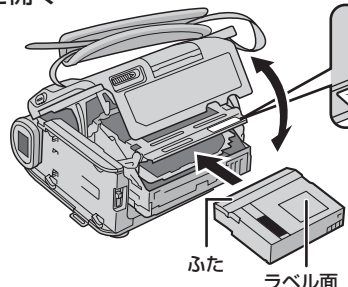
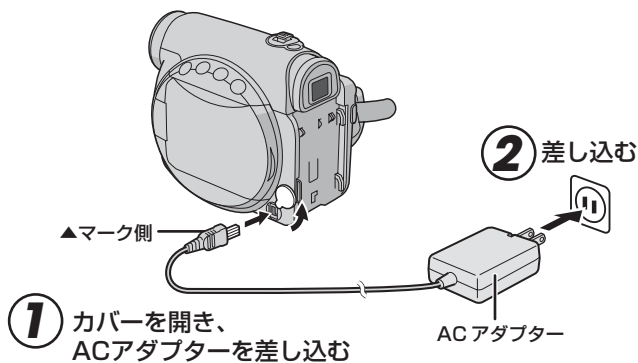
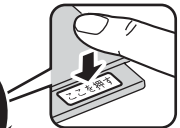
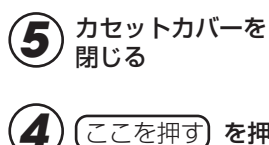
ご使用のまえに

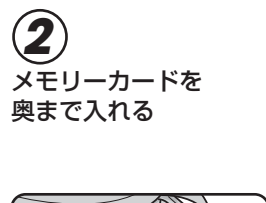
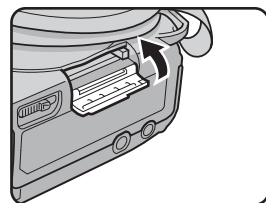
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」(☞P.27) は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
・ビデオカメラの製造年は、本体底面に表示されています。

LYT1267-001B

いますぐ撮影してみよう

箱を開けたら、何はともあれビデオを撮影してみましょう！
最初はバッテリーが充電されていないので、コンセントにつないで撮影し、再生してみます。ボタンやランプの名前なんて知らなくても大丈夫。ともかく、このとおり操作すれば撮影できます。

用意するもの

ビデオカメラ

ACアダプター
AP-V14

ミニDV
カセットテープ(別売)

メモリーカード(8MB)
(あらかじめビデオカメラに
取りつけられています)

コンセントにつなぐ

カセットテープを入れる

カセットを逆向きに入れないでください。(☞P.42)

メモリーカードを入れる

※お買い上げ時には、あらかじめビデオカメラに取りつけられています。

撮影できる状態にする

動画を撮影する (テープに記録する)

1 スイッチを「ビデオ」の位置にあわせる

ビデオ メモリー

2 撮影ボタンを押し、撮影を開始する

画面表示: 録画

SP 0h18m

録画

画面の状態が表示される

3 もう一度押し、撮影を停止する

画面表示: ストップ

SP 0h18m

ストップ

画面の状態が表示される

静止画を撮影する　（メモリーカードに記録する）

1 スイッチを「メモリー」の位置にあわせる

2 静止画ボタンを押す
画面表示：➡P

3 手順2を繰り返す

撮った動画を見る

1 スイッチを「ビデオ」の位置にあわせる

2 ロック解除ボタンを押したまま

3 「再生」の位置にあわせる

4 「◀◀」ボタンを押して巻き戻す
画面表示：◀◀
テープの先頭まで巻き戻ると、停止する

5 「▶/II」ボタンを押して再生する
画面表示：▶

6 「■」ボタン を押して停止する

M 撮影 切 再生
電源/充電
ビデオ メモリー
逆光補正 フォーカス 明るさ ナイトアイ

撮った静止画を見る

1 スイッチを「メモリー」の位置にあわせる

2 ロック解除ボタンを押したまま

3 「再生」の位置にあわせる
静止画が表示される

4 「◀◀」ボタンを押して1枚まえの静止画を再生する

5 「▶▶」ボタンを押して次の静止画を再生する

M 撮影 切 再生
電源/充電
ビデオ メモリー
逆光補正 フォーカス 明るさ ナイトアイ

電源を切る

1 ロック解除ボタンを押したまま

2 「切」の位置にあわせる
ランプが消灯し、
画面が消える

3 閉じる

機能デモを見てみよう

このビデオカメラには、場面切替 (☞P.103) やプログラム AE (☞P.105) などの機能を確認するためのデモモードがあります。ビデオカメラをお使いになるまえに、ぜひ一度ご覧ください。

機能デモを表示させるには
テープを入れずに電源スイッチを「撮影」または「Ⓜ」の位置にあわせてから３分経つと、液晶画面にビデオカメラの機能デモが自動的に表示されます。
機能デモを途中でやめるには、電源を切ってください。

機能デモを表示しないようにすることもできます ☞P.74、81

ビデオ撮影、本番へ GO!

すぐに撮影をしてみるステップはこれで終了。次は、いよいよ撮影本番！
バッテリーを使って、いろいろなシーンを撮影しましょう。
バッテリーの充電には時間がかかります (☞P.162)。この待ち時間を利用して、まず次のページに目を通してみてください。撮影のときに、きっと役立ちます。

はじめに ☞P.8 ～
基本操作 ☞P.38 ～
バッテリーで撮影する ☞P.39 ～
撮影の基本 ☞P.67 ～

本書の読みかた

取扱説明書は、デジタルビデオカメラの使いかたに応じて次のように分かれています。

■はじめに
このビデオカメラの特徴、各部の名前とはたらき、画面表示の見かたなどについて説明します。ビデオカメラをお使いになるまえに、必ずご覧ください。

■1 章 基本操作
このビデオカメラをはじめて使うときの準備、テープを使った撮影や再生の基本的な手順を説明します。お買い上げ後にはじめて使われるとき、必ずご覧ください。

■2 章 メニューと設定
メニュー画面の操作方法と基本的な設定について説明します。

■3 章 撮影活用
画像の明るさや色のバランスを手動で調節する方法や、ビデオ撮影中にさまざまな効果を挿入する方法などを説明します。
ほとんどの機能は、メモリーカードに撮影するときにも使えます。

■4 章 メモリーカード
メモリーカードを使った撮影や再生の基本的な手順を説明します。さらに、静止画の一覧表示の方法や、テープからメモリーカードへの画像のコピーなどを説明します。

■5 章 ビデオ編集
撮影したビデオを編集して、個性的な作品に仕上げるための機能について説明します。

■6 章 その他
故障かなと思ったときの対処方法や、使用上のご注意、日常のお手入れ、おもな仕様などについて説明します。

著作権について

あなたがビデオカメラで録画、録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。

記号の意味

本文中には、次の記号が使われています。

	操作上の注意などが記載されています。		使用上の制限や、知っていると便利な内容が記載されています。
	使用中に起こりうるトラブルや、トラブルのように見える現象が記載されています。	☞	関連するページを示しています。
◆準備◆	操作のまえに準備しておくことが記載されています。	次へ続く	次のページに操作説明が続きます。

各機能を使うまえの準備

3 章～ 5 章では、操作説明のまえに◆準備◆という項目があります。各機能を使うまえに、モード選択スイッチと電源スイッチの設定などを確認してください。

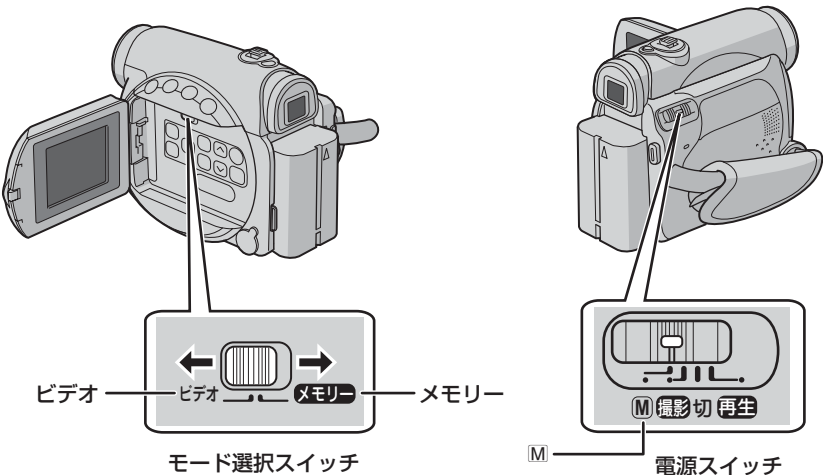
■準備の例

◆準備◆

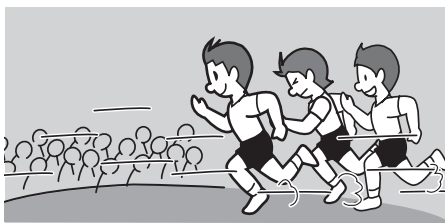
- モード選択スイッチ：ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ　：Ⓜ
- リモコン (RM-V720 または RM-V717)

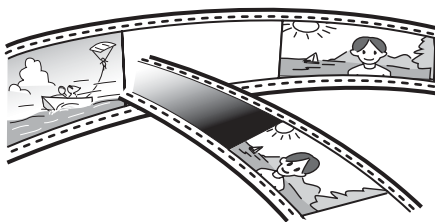
モード選択スイッチは、「ビデオ」と「メモリー」のどちらの位置にあわせてもかまいません。

電源スイッチは、「Ⓜ」の位置にあわせます。

操作には、リモコンが必要です。

さまざまな撮影を楽しめます

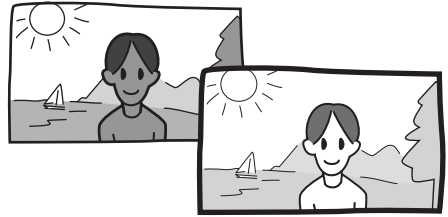
運動会ならスポーツモード

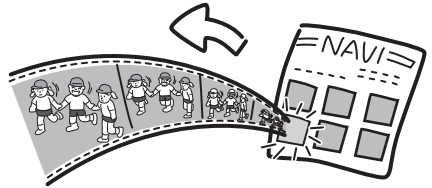
走っている人や自動車を撮影すると、被写体がブレてしまいがちです。そんな場合もスポーツモードでブレずに撮影できます(☞P.105)。

あなたも映画監督

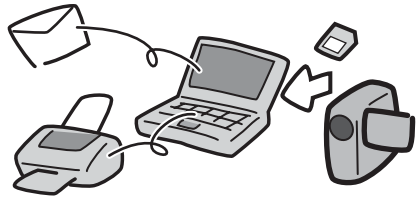
場面切替の効果を使って、映画のように演出できます (☞P.103)。さらに、ビデオを編集して、あなただけの映像作品を作ることができます (☞P.126)。

暗い場所でも大丈夫

LED ライトを使うと、動画や静止画の明るさを補って撮影できます (☞P.90)。ナイトアイ機能を使えば、暗い場所でも撮影できます (☞P.91)。

逆光でも安心

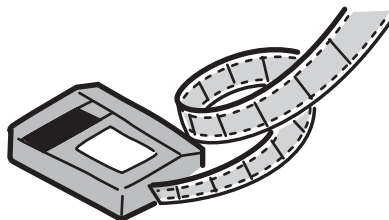
太陽などを背景にして撮影すると、被写体が暗くなりがちです。そんな場合も逆光補正ボタンできれいに撮影できます（☞P.92）。被写体が明るくなりすぎる場合には、スポット明るさ補正が役立ちます（☞P.93）。

DV ナビで頭出し

頭出しデータを記録しておくと、頭出し再生が簡単になります（☞P.98）。見たい場面を探してテープを早送り。そんな手間から解放されます。

静止画をワクワク活用

静止画をパソコンに取り込めば、プリンターで印刷するほか、メールで送ったり、ホームページ作りなどに活用できます。

テープとメモリーカードを使い分けましょう

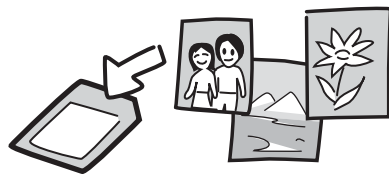
このビデオカメラでは、動画のほかに静止画を撮影することもできます。また動画と静止画は、2 種類のメディア（テープとメモリーカード）のどちらにも記録できます。
どちらのメディアにも記録できますが、目的によって適したメディアは異なります。撮影時は、目的にあわせてメディアを使い分けましょう。

動画はテープに記録します

動画を撮影する場合は（☞P.56）、テープ(ミニ DV カセットテープ）に記録しましょう。高画質の DV 形式で撮影できます。テープに記録する場合は、ビデオカメラのさまざまな機能をフルに活かすことができます。

静止画も記録できます

映画やテレビでは、場面を印象的にするために、数秒間だけ静止画を挿入することがあります。テープに記録する場合は、動画のあいだに静止画を撮影することで、このような映像を作成できます（☞P.57)。

静止画はメモリーカードに記録します

静止画を撮影する場合は（☞P.110)、メモリーカード（SD メモリーカードまたはマルチメディアカード）に記録しましょう。印刷に適した JPEG 形式で撮影できます。また、メモリーカードに記録する場合は、ビデオカメラの高画質メガピクセルCCD をフルに活かすことができます。

メール用の動画を作成できます

撮影した静止画や動画をパソコンに取り込み、メールに添付して送ることができます。動画をメールで送るには、静止画と同じようにメモリーカードに動画を記録します。撮影するときにメモリーカードを選んで動画を記録する（☞P.111）ほか、テープに記録した動画をメモリーカードにコピーすることもできます（☞P.116)。

記録メディアはスイッチで選びます

テープとメモリーカード。撮影時に記録するメディアは、モード選択スイッチを切り替えて選びます。

モード選択スイッチ	記録メディア	おもな用途	参照
ビデオ	テープ	動画撮影	P.56
メモリー	メモリーカード	静止画撮影	P.110

本書の用語

本書では、動画と静止画を総称する場合、記録メディアごとに次のように総称します。

ビデオ　：テープに記録した動画と静止画
ファイル：メモリーカードに記録した動画と静止画

付属品について

付属品をお確かめください。万が一、不足品がございましたら、お買い上げの販売店、または最寄りのサービス窓口にお問いあわせください。

その他の別売アクセサリー　(詳しくは弊社のカタログをご覧ください)

バッテリーパック	BN-V416-H	PC カードアダプター	CU-V51
バッテリーパック	BN-V428	フロッピーディスクアダプター	CU-V41
バッテリーパック	BN-V438	USB リーダー / ライター	CU-V70
バッテリーキット	VU-V840KIT	シューアダプター	CU-V415
バッテリーキット	VU-V856KIT	シューアダプター	CU-V418
AC アダプター / チャージャー	AA-V40	ワイヤレスリモコン＊	RM-V717
DC コード	VC-VBN800		(LY20750-002A)
DV ケーブル	VC-VDV204	編集延長コード＊	QAM0515-001
DV 動画編集パック	GV-DV1500		

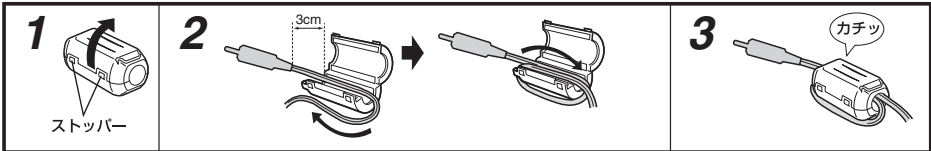
＊印のアクセサリーは、最寄りのサービス窓口にてお買い求めください (☞P.156)。

コードやケーブルをお使いになる場合は、フェライトコアを必ず取りつけてください。ビデオカメラと外部機器を接続したときに発生するノイズを軽減できます。

コード（ケーブル）別使用フェライトコア

使用コード	使用フェライトコア
USBケーブル	(中)
ACアダプター S/AV/編集コード マイクコード	(小)

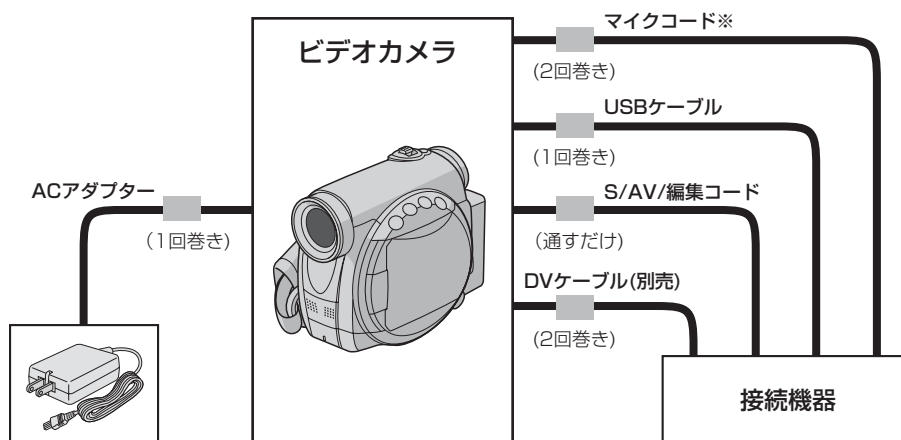
使用コード	使用フェライトコア
DVケーブル(別売)	(大)

フェライトコアの取りつけかた（イラストは 1 回巻きの説明）

1 両端のストッパーをはずして開く

2 フェライトコアにコードを指示された回数巻く(位置と回数は次のページを参照)

- 端子から約3cmの位置にフェライトコアを取りつけます。

3 コードをはさみ、カチッと音がするまで閉じる

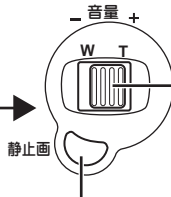
フェライトコアの取りつけ位置

フェライトコアのついている側の端子をビデオカメラ側に接続してください。

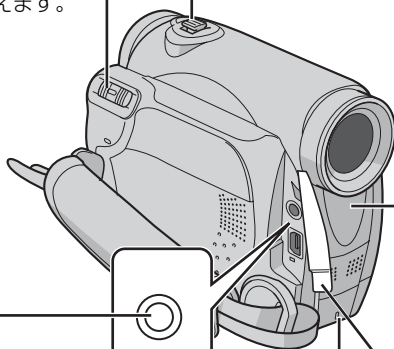
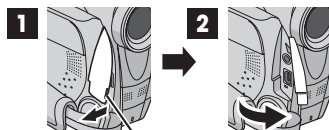
※マイクコードはビデオカメラとマイク（市販）を接続するときに使います。マイクを接続する場合は、別売のシューアダプター（CU-V415 または CU-V418）でマイクを固定することをお勧めします。

各部の名前とはたらき

電源スイッチ
電源の入切、撮影と再生などを切り替えます。

Ⓜ .... 撮影方法を細かく設定して、撮影できます。
撮影 ... 全自動で撮影できます。
切 .... 電源を切ります。
再生 ... 動画や静止画を見るときに切り替えます。

音量 − +
W T
静止画

ズーム／音量スイッチ
撮影中に映像をズームします。再生時には、音量を調節します。

静止画ボタン
メモリーカードまたはテープに静止画を撮影します。

LED ライト
LED ライトを使うときは、ここが点灯します。
コンバージョンレンズによっては、ライトが隠れることがあるために効果がなくなります。

マイク端子
市販のマイクを取りつけます。

S/AV 端子
S/AV/ 編集コードでテレビやビデオデッキを接続します。

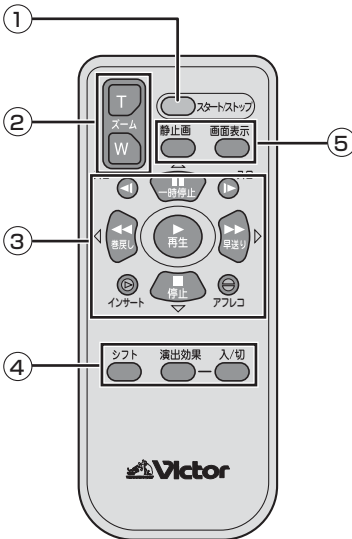
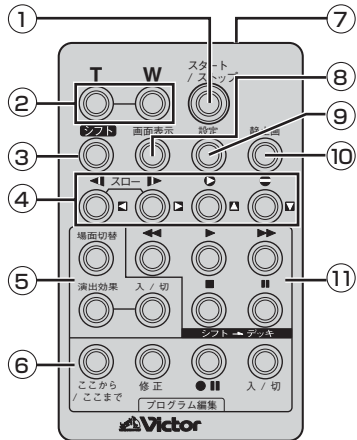
端子カバー
なかの端子を利用するときに開けます。

1 2
引く

撮影ランプ
撮影中は点灯します。

フォーカス（◀◀）ボタン
ピントあわせに使います。
再生時には、動画を巻き戻します。
逆光補正（■）ボタン
逆光補正やスポット明るさ補正に使います。
再生時には、動画の再生や静止画の連続再生を停止します。
液晶画面
撮影中、再生中に映像が映ります。また、メニューもここに表示されます。
端子カバー
なかの端子を利用するときに開けます。
USB 端子
USB ケーブルを接続します。
DV 端子（i-LINK*）
DV 端子つきのビデオ機器やパソコンなどと接続します。
*：i-LINK は、IEEE1394-1995 仕様およびその拡張仕様です。
i.は i-LINK に準拠した商品につけられるロゴマークです。
モード選択スイッチ
テープへの撮影・再生とメモリーカードへの撮影・再生を切り替えます。
選択ボタン
ファイルの種類を選択するときに使い、メモリーセレクト画面を表示します。
ナビ書込みボタン
頭出しするためのデータを記録します。
インデックスボタン
メモリーカード内の静止画・動画を一覧表示します。
また、あらかじめ設定した場面の頭出しにも使います。
明るさ（▶/Ⅱ）ボタン
被写体の明るさを手動で調節します。再生時には、動画や静止画の再生操作に使います。
ナイトアイ（▶▶）ボタン
暗い場所で撮影するときに使います。再生時には、動画を早送りします。
ファインダー
撮影するときに引き出します。
撮影中、再生中に映像が映ります。
撮影ボタン
動画の撮影を開始または終了します。
端子カバー
DC 端子
ACアダプターを取りつけます。
動画メモリー／インフォボタン
メモリーカードに動画を撮影するときに使います。また、静止画・動画の情報を表示します。
上下（へ・∨）ボタン
メニューなどを操作します。また、画面の明るさを調節します。
ライトボタン
LED ライトを点灯します。
決定ボタン
メニュー内で項目を決定します。また、静止画や動画を選びます。
メニューボタン
メニューを表示します。
逆光補正
フォーカス
明るさ
ナイトアイ
ビデオ
メモリー
メモリーカード
選択
動画メモリー
インフォ
インデックス
書込み
DV・ナビ
メニュー
モニター明るさ
ライト
決定

リモコン

付属のリモコン（RM-V720）をはじめてお使いになるときは、絶縁シートをリモコンから引き出して捨ててください。

RM-V720（付属）　RM-V717（別売）

メモ

- 別売のリモコン（RM-V717; LY20750-002A）を使うと、自動編集ができるようになります（☞P.126）。ご購入の際は、ビクターサービス窓口にお問い合わせください（☞P.156）。

リモコン RM-V720（付属）の機能

	ボタン	機能	参照
①	スタート / ストップボタン	動画の撮影をスタートまたはストップする。	P.56 P.111
②	「T」ボタン（ズームボタン） 「W」ボタン（ズームボタン）	静止画や動画が大きくなる。 大きくした静止画や動画が元に戻る。	P.55
③	「❚❚」ボタン（上ボタン）	動画を一時停止する。 再生ズームした静止画や動画を上へ動かす。*1	P.60
	「▶▶」ボタン（右ボタン）	動画を早送りする。次のファイルを再生する。 再生ズームした静止画や動画を右へ動かす。*1	P.60 P.115
	「■」ボタン（下ボタン）	動画を停止する。連続再生をやめる。 再生ズームした静止画や動画を下へ動かす。*1	P.59 P.114
	「◀◀」ボタン（左ボタン）	動画を巻き戻す。まえのファイルを再生する。 再生ズームした静止画や動画を左へ動かす。*1	P.60 P.115
	「▶」ボタン（再生ボタン）	動画を再生する。 静止画を連続再生で再生する。	P.59 P.114
	「◀❙」ボタン（スロー（逆転）ボタン）	動画をスローで巻き戻し再生する。*2	P.60
	「❙▶」ボタン（スロー（正転）ボタン）	動画をスローで再生する。*2	P.60
	「⏵」ボタン（インサートボタン）	インサート編集を行う。	P.135
	「⊖」ボタン（アフレコボタン）	アフレコ編集を行う。	P.136
④	シフトボタン	再生ズームした静止画や動画を上下左右に動かすときに押す。	–
	演出効果ボタン	再生中にプログラム AE の効果を選ぶ。*3	–
	演出効果　入 / 切ボタン	再生中にプログラム AE の効果を加える。	–
⑤	静止画ボタン	静止画を撮影する。	P.57 P.110
	画面表示ボタン	テレビに出てくる日時表示を出す、または消す。	P.62

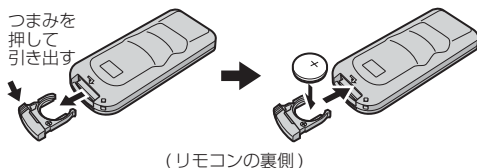
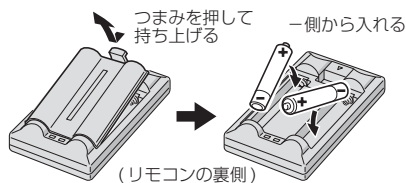
*1　再生ズームした静止画や動画を動かすには、シフトボタンを押したまま、これらのボタンを押します。
*2　1 回ずつ押すことでコマ送り再生になります。スロー再生するには、約 2 秒間押し続けます。
*3　セピア、白黒、映画効果、ストロボを選ぶことができます。

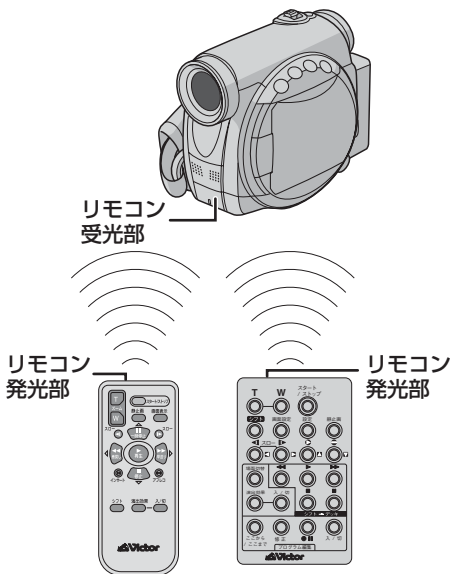
リモコン RM-V717（別売）の機能

	ボタン	機能	参照
①	スタート / ストップボタン	動画の撮影をスタートまたはストップする。	P.56 P.111
②	「T」ボタン（ズームボタン） 「W」ボタン（ズームボタン）	静止画や動画が大きくなる。 大きくした静止画や動画が元に戻る。	P.55
③	シフトボタン	ビデオデッキを操作する。	P.128
④	「◀❚」ボタン（スロー（逆転）ボタン／左ボタン）	動画をスローで巻き戻し再生する。*2 再生ズームした静止画や動画を左に動かす。*1	P.60
	「❚▶」ボタン（スロー（正転）ボタン／右ボタン）	動画をスローで再生する。*2 再生ズームした静止画や動画を右に動かす。*1	P.60
	「▶」ボタン（インサートボタン／上ボタン）	インサート編集を行う。 再生ズームした静止画や動画を上に動かす。*1	P.135
	「⊖」ボタン（アフレコボタン／下ボタン）	アフレコ編集を行う。 再生ズームした静止画や動画を下に動かす。*1	P.136
⑤	場面切替ボタン	自動編集中、場面切替効果を選択する。	P.130
	演出効果ボタン	再生中や自動編集中、プログラム AE の効果を選ぶ。*3	P.132
	演出効果　入 / 切ボタン	再生動画にプログラム AE の効果を加える。	─
⑥	「ここから / ここまで」ボタン	自動編集のはじまりと終りを指定する。	P.130
	修正ボタン	自動編集を修正する。	P.132
	「●❚❚」ボタン（ビデオ準備ボタン）	自動編集でビデオデッキを録画一時停止にする。	P.130
	「入 / 切」ボタン	自動編集表示画面を表示する。	P.130
⑦	リモートポーズ（入力）端子	編集コードを接続する。	P.130
⑧	画面表示ボタン	テレビに出る日時表示を出す、または消す。	P.62
⑨	設定ボタン	編集に使うビデオデッキのメーカーを設定する。	P.128
⑩	静止画ボタン	静止画を撮影する。	P.57 P.110
⑪	「◀◀」ボタン（巻き戻しボタン）	動画を巻き戻す。 まえのファイルを再生する。	P.60 P.115
	「▶」ボタン（再生ボタン）	動画を再生する。 静止画を連続再生で再生する。	P.59 P.114
	「▶▶」ボタン（早送りボタン）	動画を早送りする。 次のファイルを再生する。	P.60 P.115
	「■」ボタン（停止ボタン）	動画を停止する。 連続再生をやめる。	P.59 P.114
	「❚❚」ボタン（一時停止ボタン）	動画を一時停止する。	P.60

*1　再生ズームした静止画や動画を動かすには、シフトボタンを押したまま、これらのボタンを押します。
*2　1 回ずつ押すことでコマ送り再生になります。スロー再生するには、約 2 秒間押し続けます。
*3　セピア、白黒、映画効果、ストロボを選ぶことができます。

リモコンの電池の入れかた

リモコン RM-V720（付属）の場合

リモコン RM-V717（別売）の場合

リモコンの使いかた

操作範囲は屋内で約 5m です。
ビデオカメラのリモコン受光部に向けて操作してください。角度によっては操作できない場合があります。また、ビデオカメラのリモコン受光部に直射日光や照明の強い光が当たると、ビデオカメラが誤動作したり、動作しないことがあります。

ビクターのデジタルビデオカメラを使う人が近くにいる場合は

運動会など、半径約 5m 以内にビクターのデジタルビデオカメラをリモコンで操作する人がいる場合、ビデオカメラがつられて動作してしまうことがあります。このような場合は、システムメニューの「リモコン」(☞P.81) を「切」に設定することをお勧めします。

画面表示の見かた

撮影時の表示

すべての撮影に共通の表示

ズーム倍率表示
(☞P.55)

ナイトアイ表示
(☞P.91)

LED ライト表示
(☞P.90)

白バランス表示
(☞P.96)

明るさ補正表示
(☞P.92)
逆光補正
スポット明るさ補正
数字 明るさ補正

プログラム AE 表示
(☞P.105)

ズーム表示
(☞P.55)

10x W T

A

±2 L

画面明るさ－ ＋

2004. 12. 1
PM 2:00

セルフタイマー表示
(☞P.79)

明るさ固定表示
(☞P.94)

画面の明るさ表示
(☞P.53)

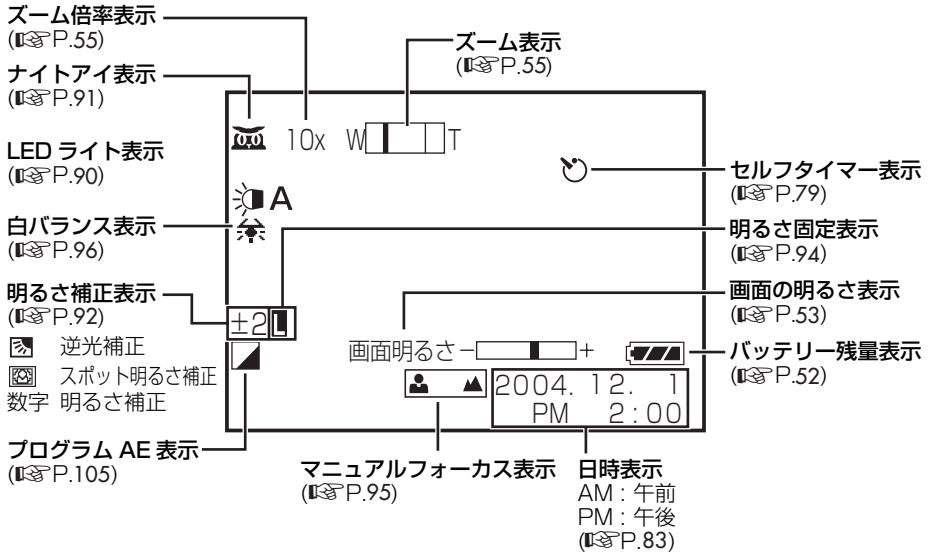
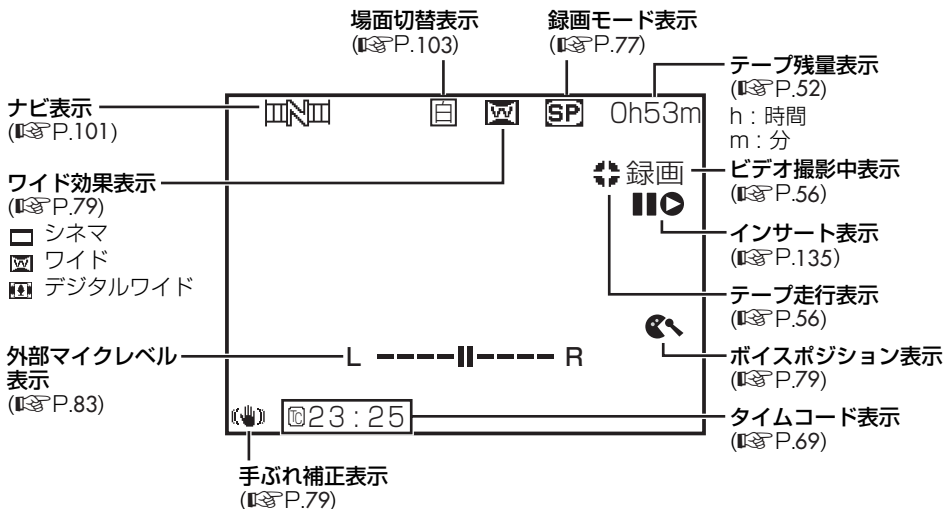
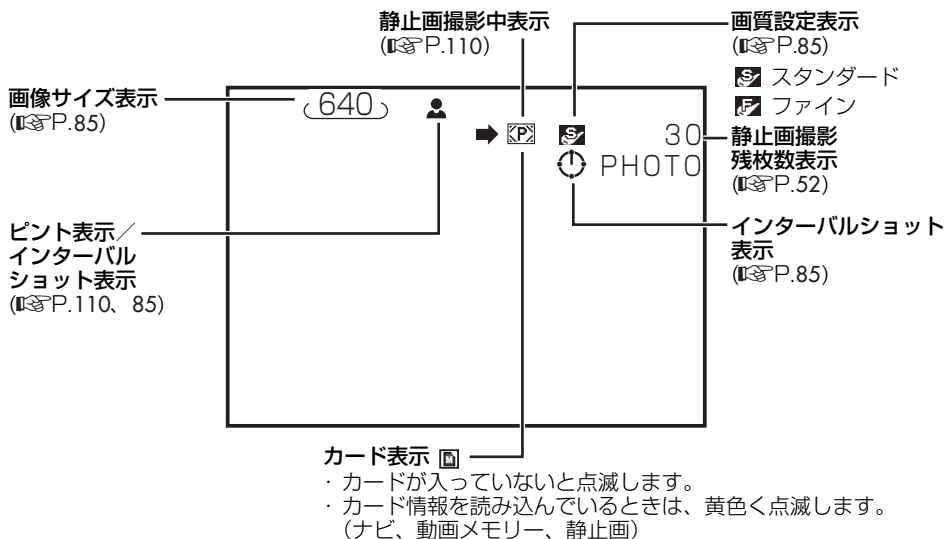
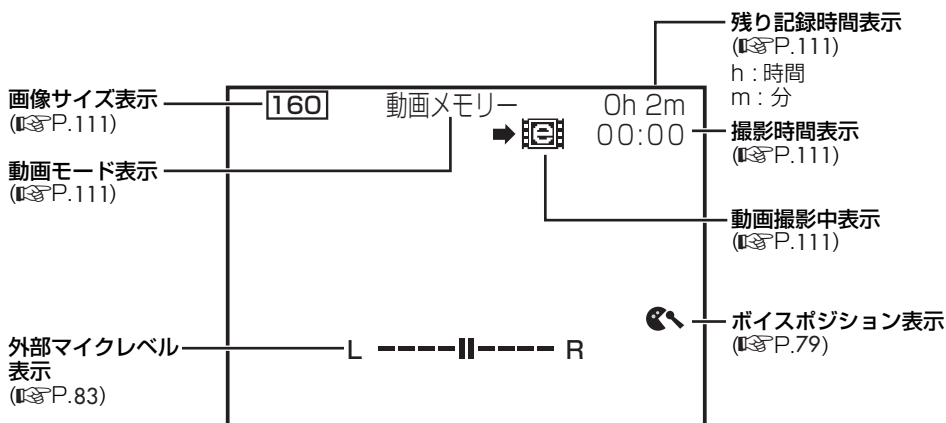
バッテリー残量表示
(☞P.52)

マニュアルフォーカス表示
(☞P.95)

日時表示
AM：午前
PM：午後
(☞P.83)

ビデオ撮影

静止画撮影（メモリー）

· カードが入っていないと点滅します。
· カード情報を読み込んでいるときは、黄色く点滅します。
（ナビ、動画メモリー、静止画）

動画撮影（メモリー）

メモ

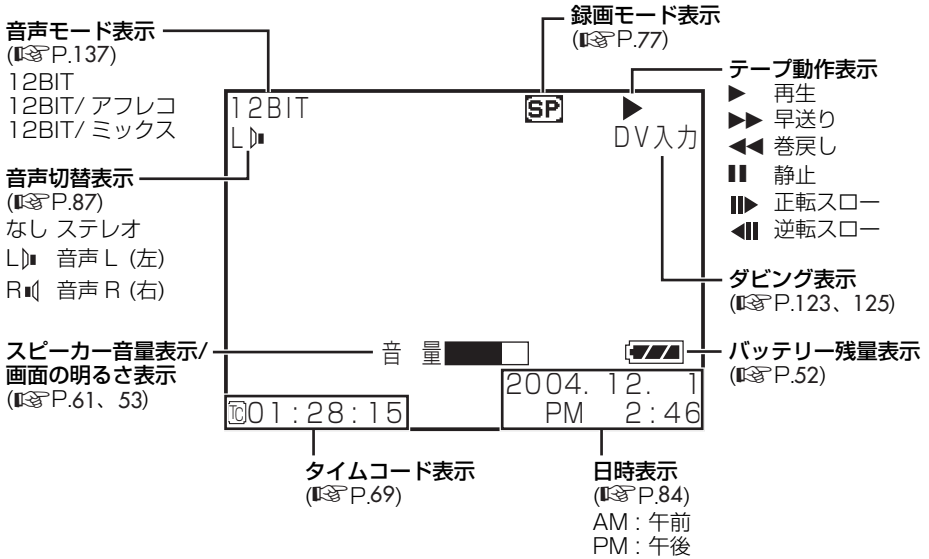
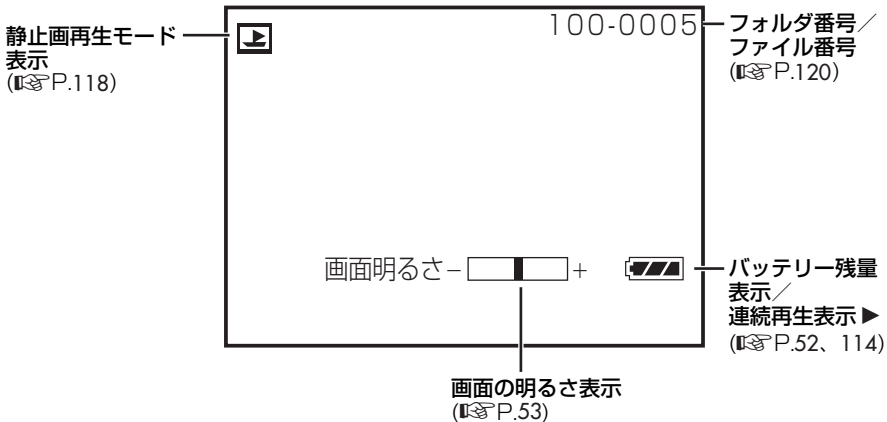
- アイコンが青く点滅している場合やアイコンが表示されない場合、その機能は動作しません。
- 場面切替、プログラム AE および白バランスのアイコンの詳細については、記載されている参照ページをご覧ください。

再生時の表示

ビデオ再生

静止画再生（メモリー）

動画再生（メモリー）

動画メモリー
DVC00002.ASF
ファイル名表示
バッテリー残量表示
動画画面
動画再生表示
▶ 再生
❚❚ 静止
スピーカー音量表示
音量スイッチで操作できます。

安全上のご注意

安全のために必ずお守りください

絵記号について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵記号が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵記号の意味をよく理解して本文をご覧ください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の説明

●注意（危険、警告を含む）が必要なことを示す記号

一般的注意　手がはさまれる

●してはいけない行為（禁止行為）を示す記号

禁止　水場での使用禁止　接触禁止　分解禁止　ぬれ手禁止　水ぬれ禁止

●必ずしてほしい行為（強制、指示行為）を示す記号

一般的指示　プラグをコンセントから抜く

⚠危険

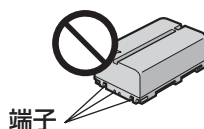
■バッテリーは絶対に分解、加工（はんだづけなど）、加熱、火中投入などをしない

・液漏れ、発熱、破裂、発火し、火災やけがの原因となります。

■高温の場所（60 ℃以上）にバッテリーを置かない

・発熱、破裂、発火の原因となります。

■バッテリーの端子部に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・ショートして発熱し、火災やけがの原因となります。
・持ち運びの際にはキャップを取りつけて、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■電池の端子部（⊕と⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・液漏れ、発熱の原因となります。
・持ち運びの際にはビニール袋などに入れ、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■電池は絶対に分解、加工（はんだづけなど）、充電、加熱、火中投入などをしない

・液漏れ、破裂などの原因となります。

■ACアダプターは指定以外のビデオカメラやバッテリーに使わない

・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
・指定されたものか確かめ、ビデオカメラの取扱説明書もよくご覧ください。

■AC アダプターの分解や改造をしない

・火災や感電の原因になります。
・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対におやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

■AC アダプターを指定の電源電圧以外で使わない

・火災や感電の原因となります。

⚠警告

■液漏れを起こしたバッテリーを使わない

・液漏れを起こしたバッテリーはショートによる発熱で、さわるとやけどをする原因となります。
・バッテリーの液が漏れたときは、バッテリー取りつけ部の液をよく拭き取ってから新しいバッテリーを取りつけてください。
・万一、目などに液が入った場合はきれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。

■ぬれたバッテリーは使わない

・故障、感電、発熱、発火の原因となります。

■煙が出たり、へんな臭いがするときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■落としたり、壊れたときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■内部に水や異物が入ったときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■電源コードが傷んだときは、電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・芯線が露出していたり、断線したままで使用すると、火災や感電の原因になります。

警告

■指定以外の電池は使わない、また液漏れを起こした電池を使わない

・液漏れを起こした電池はショートによる発熱で、さわるとやけどをする原因となります。
・電池を入れるまえに品番をよく確かめてください。
・電池の液が漏れたときは、電池取りつけ部の液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
・電池の液が身体や衣服についたときには、水でよく洗い流してください。万一、目などに液が入った場合はきれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。

■電池は幼児の手の届かない所に置く

・万一、誤って飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

■持ち運ぶときには、液晶画面やファインダーを持たない

・液晶画面、またはファインダーを持って運ぶと、故障したり落として、けがの原因となります。

■不安定な場所に置かない

・ぐらついた台の上や傾いた所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして、故障やけがの原因となります。

■指定の電源電圧以外で使用しない

・火災や感電の原因となります。

■電源コードを傷つけない

・火災や感電の原因となります。
・次のようなことをすると、傷つく原因となります。ご注意ください。
加工する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、熱器具に近づける。

警告

■内部に物を入れない

・カセットテープの出し入れ口などから、金属類や燃えやすいものなどを入れないでください。火災や感電の原因となります。
・特にお子さまがふれたりしないようにご注意ください。

■内部の部品にさわらない

・カセットテープの出し入れ口から見える部品にさわらないでください。
・感電や故障の原因となります。

■機器を接続するときは、電源を切る

・電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因となります。

■分解や改造はしない

・火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対におやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

■自動車などの運転中に使用しない

・運転をしながら、撮影、再生をすることは絶対におやめください。交通事故の原因になります。

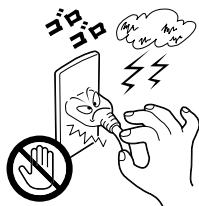
■レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けない

・レンズやファインダーを太陽に向けたまま放置しておくと、集光により内部部品が破損して発熱し、火災や故障の原因となります。

■ぬらさない

・火災や感電の原因となります。
・風呂場では使用しないでください。
・雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときは、ご注意ください。
・水などの入った容器（花びん、植木鉢、コップ、化粧水、薬品など）は、こぼれると故障の原因となりますので、機器の近くに置かないでください。

■雷が鳴り出したら、電源プラグにはふれない

・感電の原因となります。

■電源プラグが不完全な接続状態で使用しない

・接触不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・最後までしっかりと接続してください。

■電源プラグにほこりや金属物を付着させない

・ほこりや金属物を伝わって電気が流れ、ショートや絶縁不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・ほこりや金属物が付着しているときは、電源プラグを抜き、取り除いてください。

■上に乗らない

・倒れたり、こわれたりして、けがの原因になります。特に小さなお子さまがいるご家庭ではご注意ください。

⚠注意

■充電中のバッテリーに長時間ふれない
・温度が上がり、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

■電源コードはコードの部分を持って抜かない
・コードの部分を持って抜くと、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。プラグの部分を持って抜いてください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
・感電の原因となることがあります。

■次のような場所には置かない、使わない
・砂浜などの砂ぼこりのある所
・湿気やほこりの多い所
・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気の当たる所
・熱器具の近くなど
・真夏の車内など高温になる所
・直射日光の強い所
火災や感電、故障の原因となることがあります。

■上に重い物を置かない
・バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■カセットテープの出し入れ口に手を入れない、ファインダーの取りつけ部に指を入れない
・手や指をはさまれてけがをする原因となります。
・特にお子さまにご注意ください。

⚠注意

■電池を入れるときは、極性表示（⊕と⊖）の向きに注意する

・機器の指示どおりに電池を入れてください。間違えると電池の破壊、液漏れにより、火災やけが、周囲を汚す原因になることがあります。

■通電中のAC アダプターに長時間ふれない

・温度が上がり、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

■ビデオカメラに衝撃を与えない

・けがをするおそれがあります。また、ビデオカメラが故障する原因となります。

■指定以外のアクセサリーを使わない

・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。製品に指定されたものか確かめてください。

■別売の照明用ライトなどを使うときはライト部に顔、素手、髪の毛などを近づけない

・高温のため、やけどや髪の毛が燃える原因となります。

■ビデオカメラやアクセサリーなどを布などでおおった状態で使用しない

・熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。

■コード類は正しく配置する

・AC アダプターの電源コードや接続用コードなどは、足にひっかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。十分注意して接続、配置してください。

■長期間使用しないときはバッテリーをはずし、電源プラグを抜く

・電源が「切」でも機器に電気が流れていますので、安全のためにお守りください。

⚠注意

■別売の三脚を不安定な状態で使用しない

・足などの上に倒れて、けがをする原因となります。また、ビデオカメラが故障する原因となります。
・足などを引っかけないようにご注意ください。強風にもご注意ください。

■移動するときは、電源プラグや接続コード類をはずす

・接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
・カセットテープも取り出しておいてください。

■バッテリーやグリップベルトは正しく取りつける

・正しく取りつけられていないと、落下によりけがや故障の原因となることがあります。

■お手入れするときは、バッテリーをはずし、電源プラグを抜く

・電源が「切」でも機器に電源が流れていますので感電の原因となることがあります。

■5 年に一度は内部の点検を販売店に依頼する

・内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないで使用し続けると、火災や感電の原因となることがあります。
・湿気の多くなる梅雨期のまえに点検すると、より効果的です。
・費用については、販売店にご相談ください。

■強い電波や磁気の発生する所、または雷が近いときは使用しない

・故障の原因となることがあります。
・テレビの上や近くでは使用しないでください。
・AC アダプターを使用しているときは、なるべくビデオカメラから遠ざけてご使用ください。

■飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

・ビデオカメラが出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与える原因となります。

⚠注意

■CD-ROMをオーディオ用CDプレーヤーで再生しない
・オーディオ用CDプレーヤーやCDラジカセでソフトウェアCD-ROMを再生しようとすると、過大な信号が流れて、回路やスピーカーに障害を与えることがあります。

■CD-ROMの鏡面（文字などが印刷されている面と反対の面）を汚したり、傷をつけない
・汚れたときは柔らかい布で中心孔から外側へ放射状に軽く拭き取ってください。

■CD-ROMに従来のレコード・クリーナーやスプレーは使わない
・変形の原因となります。

■CD-ROMの裏表どちらの面にも文字を書いたり、シールなどを貼らない
・読みとりができなくなる原因となります。

■CD-ROMディスクを曲げたり、鏡面にふれたりしない
・読みとりができなくなる原因となります。

■CD-ROMを次のような場所に長時間置かない
・湿気やほこりが多い所
・直射日光の当たる所

■リモコンを高温になる場所に置かない
・晴天の閉めきった車内など、高温になる場所に放置しないでください。

■リモコンを次のような場所に長時間置かない
・直射日光などにさらされる場所
・ゴムまたはプラスチック製品に接触する場所

1章 基本操作

このビデオカメラをはじめて使うときの準備、テープを使った撮影や再生の基本的な手順を説明します。

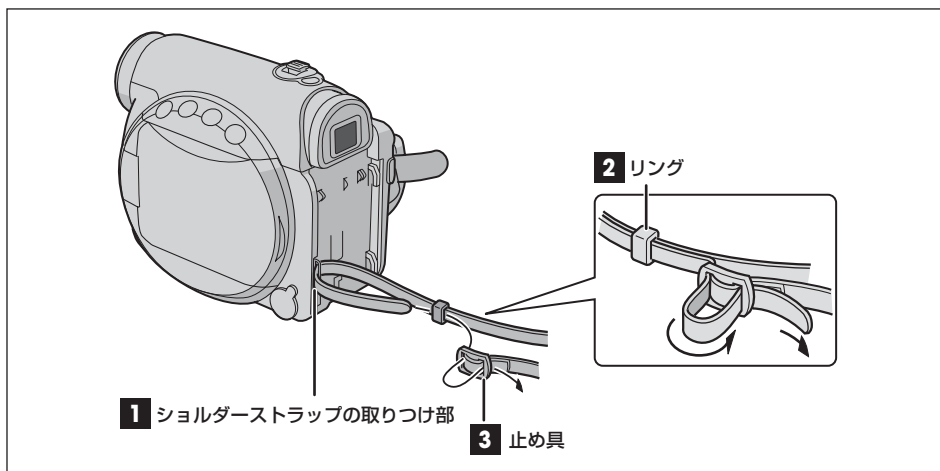
メモ

- お買い上げ後、はじめて使われるときは各ページを順番にご覧ください。特に「準備する」については、必ず Step1 から順にご覧ください。

準備する

Step1 ショルダーストラップを取りつける

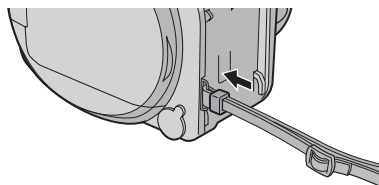
ご注意

- 落下することがないように、しっかりと取りつけてください。

1 ショルダーストラップの先を取りつけ部に通す

2 リングに通す

3 長さを調節し、止め具で固定する

- 止め具を通っているショルダーストラップを少しゆるめて、長さを調節します。

4 リングをショルダーストラップの取りつけ部によせる

5 ショルダーストラップを引っぱり、確実に取りつけられたことを確認する

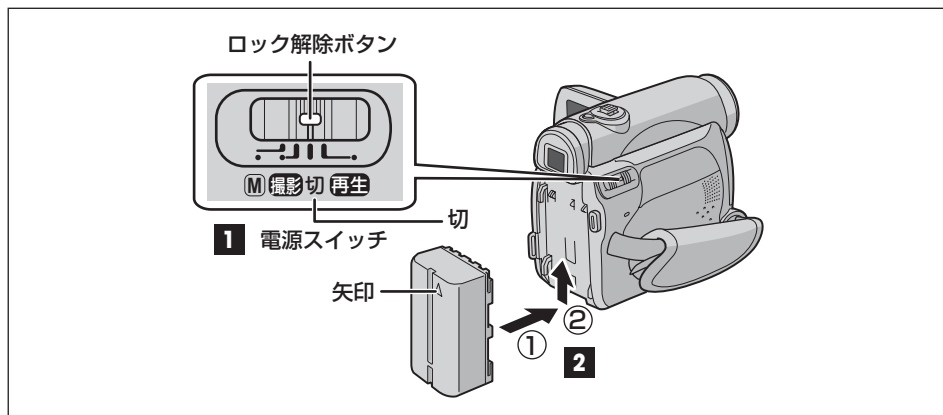
- ゆるんでいる場合は、取りつけなおしてください。

Step2 バッテリーを取りつける

バッテリーは出荷時には充電されていません。AC アダプターで充電してからお使いください。充電が終わっていない場合など、必要に応じて AC アダプターを取りつけて使うこともできます（☞P.64）。
バッテリーを取りつけるときは、バッテリーのキャップを取りはずしてください。

バッテリーを取りつけるには

ご注意

- バッテリーはカチッと音がするまで確実に取りつけてください。確実に取りつけられていないと、使用中にバッテリーが落下することがあります。

1 電源スイッチが「切」の位置にあっていることを確認する

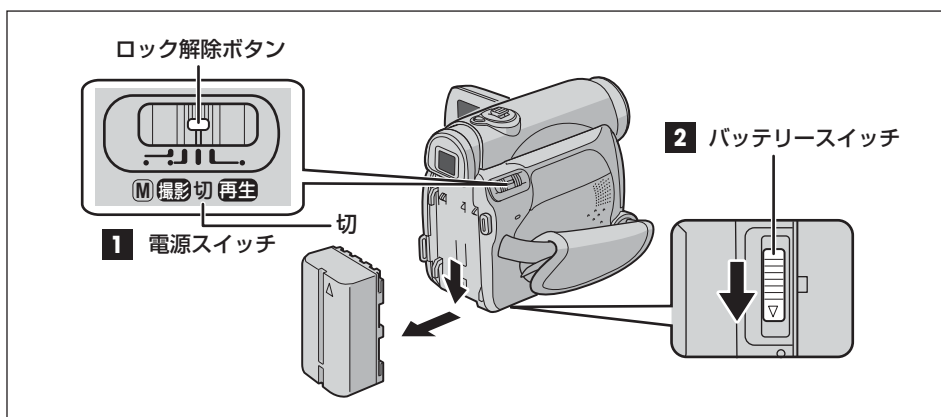
- あっていないときは、ロック解除ボタンを押したまま、「切」の位置にあわせてください。

2 バッテリーを取りつける

① バッテリーの矢印を上向きにしてビデオカメラに押しつけます。
② カチッと音がするまで上へスライドさせて取りつけます。

バッテリーを取りはずすには

ご注意

- バッテリーを取りはずすときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずにバッテリーを出し入れすると、故障する恐れがあります。

1 **電源スイッチが「切」の位置にあっていることを確認する**

- あっていないときは、ロック解除ボタンを押したまま、「切」の位置にあわせてください。

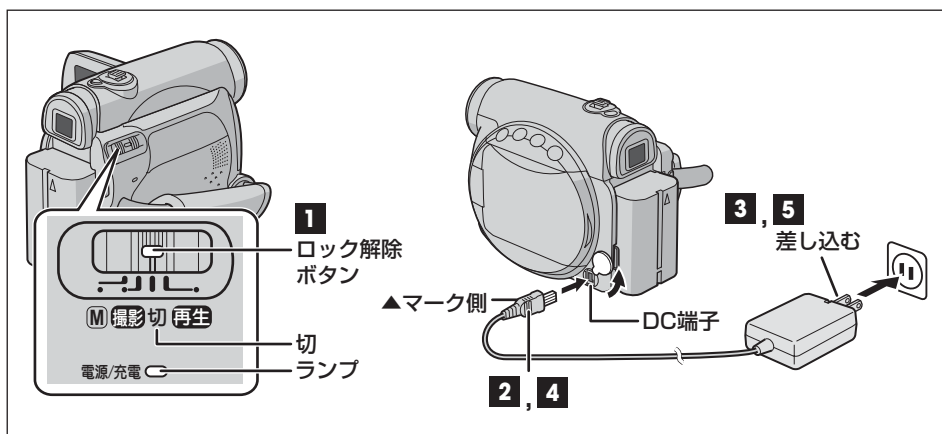
2 **バッテリースイッチを矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーを取りはずす**

- 上から下へスライドさせ、手前に引いて取りはずします。

メモ

- 取りはずしたバッテリーを持ち運んだり、保管したりするときには、キャップを取りつけてください。

Step3 バッテリーを充電する

バッテリーをビデオカメラに取りつけ、AC アダプターを使って充電します。

1 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「切」の位置にあわせる

2 AC アダプターをビデオカメラの DC 端子に差し込む

3 AC アダプターをコンセントに差し込む

ランプが点滅し、充電がはじまります。

4 ランプの点滅が終わり消灯したら、AC アダプターをビデオカメラから抜く

5 AC アダプターをコンセントから抜く

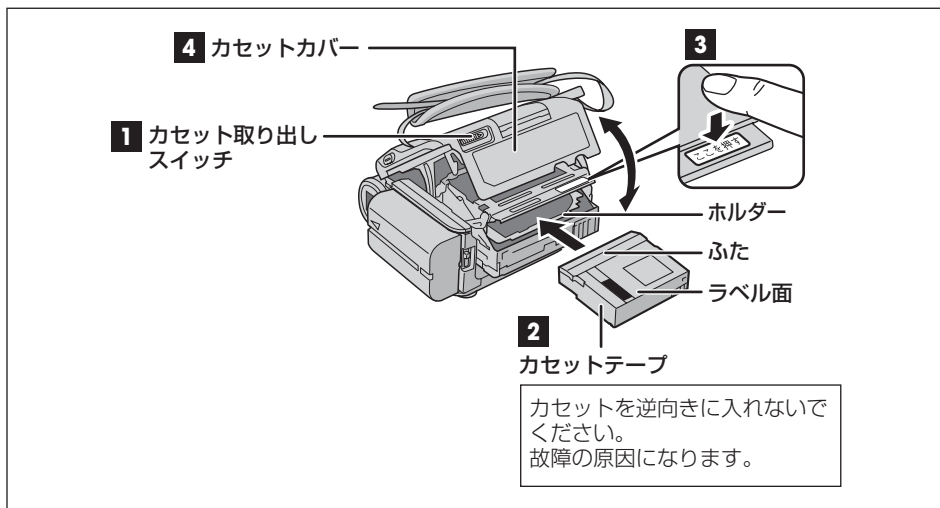
メモ

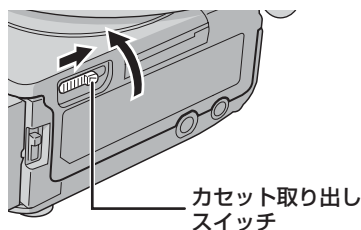
- 充電時間については「充電時間の目安」(☞P.162) をご覧ください。
- 海外でもバッテリーを充電できます (☞P.155)。
- 別売の AC アダプター / チャージャー (AA-V40) でもバッテリーを充電できます。

Step4 カセットテープを入れる

動画を撮影するには、ミニ DV カセットテープを使います。

ご注意

- カセットテープを出し入れするとき、指などをはさまれないようにご注意ください。
- カセットテープがからまるなど、一度トラブルのあったカセットテープは使わないでください。故障の原因となります。

1 カセット取り出しスイッチを矢印の方向にスライドさせたまま、カセットカバーを手で開ける

ビデオカメラ内部のホルダーが自動的に開きます。

2 カセットテープをホルダーに入れる

- カセットテープのラベル面をカセットカバー側に、カセットテープのふたの部分を奥にして入れます。
- カセットテープを指で軽く押して、ホルダーの奥まで確実に入れてください。

3 **ホルダーの「ここを押す」を押す**

ホルダーが自動的に収納されます。

- ホルダーが収納されない場合、カセットカバーを完全に開いてカセットテープを取り出し、少し待ってから入れ直してください。

4 **カセットカバーをカチッと音がするまで押して閉める**

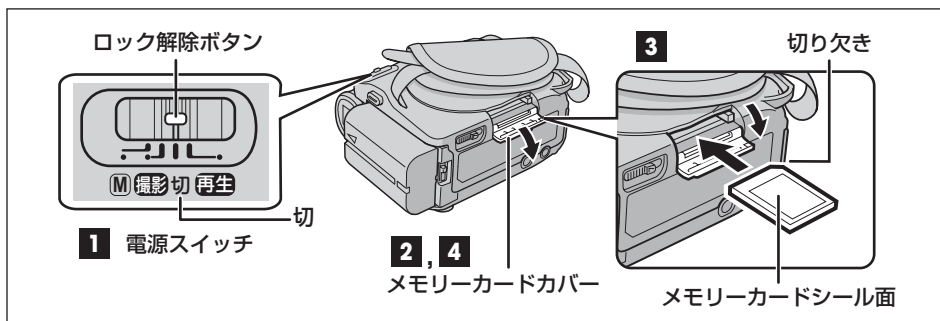
カセットテープを取り出すには

1 **「Step4 カセットテープを入れる」(☞P.42) の手順 2 で、カセットテープを引き出す**

Step5 メモリーカードを入れる

静止画を撮影するには、メモリーカード (SD メモリーカード、またはマルチメディアカード) を使います。
また、テープを使って動画を撮影する場合でも、ナビ機能にはメモリーカードを使います (☞P.98)。

ご注意

- 電源を切らずにメモリーカードを出し入れすると、故障する恐れがあります。
- メモリーカードの金属部分を触らないでください。
- 新たに購入したメモリーカードを使う場合は、ビデオカメラで初期化 (フォーマット) してください (☞P.118)。
- 付属のメモリーカードは、初期化されています。

1 電源スイッチが「切」の位置にあっていることを確認する

- あっていないときは、ロック解除ボタンを押したまま、「切」の位置にあわせてください。

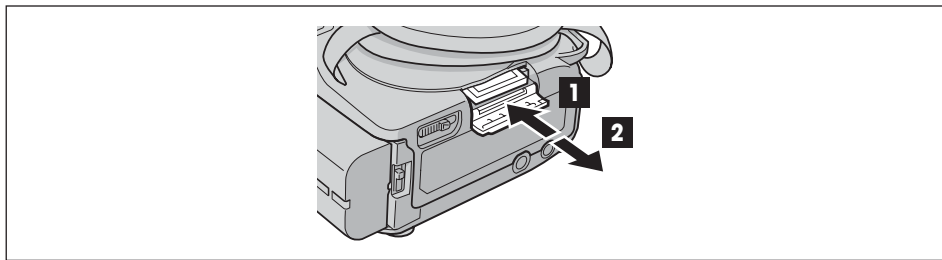
2 メモリーカードカバーを開ける

3 メモリーカードの切り欠き部分を奥にして、図の方向に差し込む

- 奥までしっかりと、まっすぐ差し込んでください。

4 メモリーカードカバーを閉める

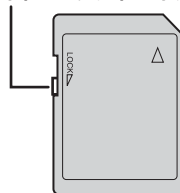
- メモリーカードカバーを上げてから、カチッと音がするまで押し込んでください。

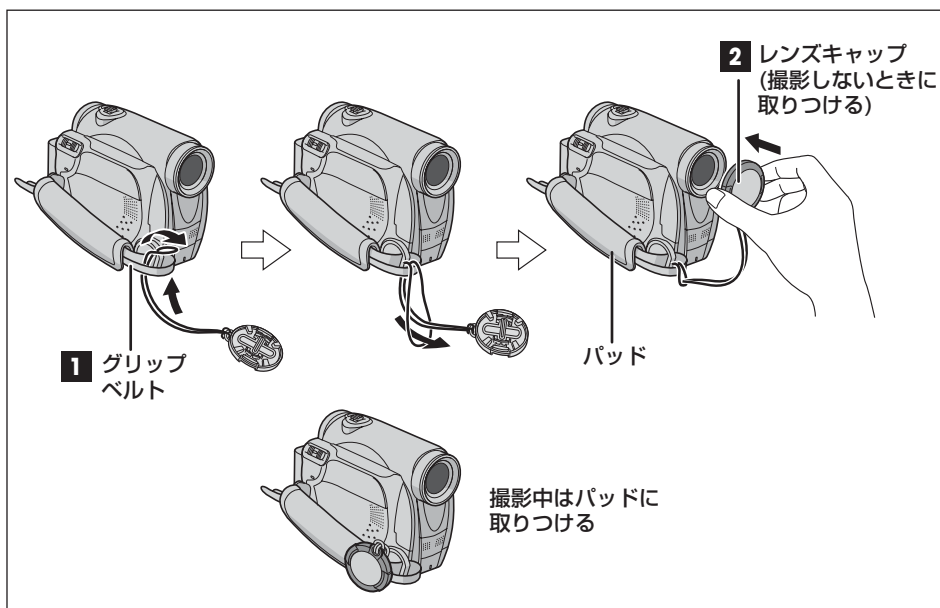
メモリーカードを取り出すには

1 「Step5 メモリーカードを入れる」(☞P.44) の手順3でメモリーカードを押す

メモリーカードが少し出てきます。

2 出てきたメモリーカードを引き抜く

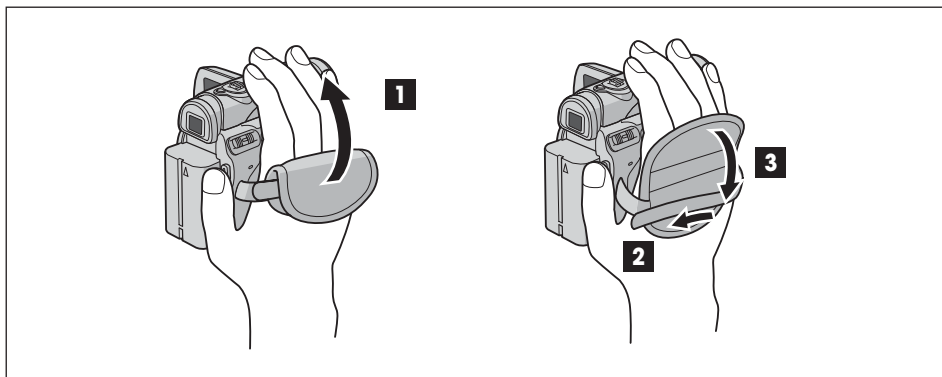
ファイルを失わないためには

SD メモリーカードをお使いの場合、大切なファイル (撮影した静止画や動画など) を消してしまわないように、SD メモリーカードへの記録と消去をできなくすることができます (ライトプロテクト)。
ライトプロテクトをかけるには、SD メモリーカード側面のライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置にあわせてください。もう一度記録できるようにするには、スイッチを元の位置に戻します。
なお、マルチメディアカードにはライトプロテクトスイッチはありません。

Step6 レンズキャップを取りつける

撮影しないときは、レンズキャップを取りつけます。

1 レンズキャップをグリップベルトに取りつける

2 レンズキャップを取りつける

Step7 グリップベルトを調節する

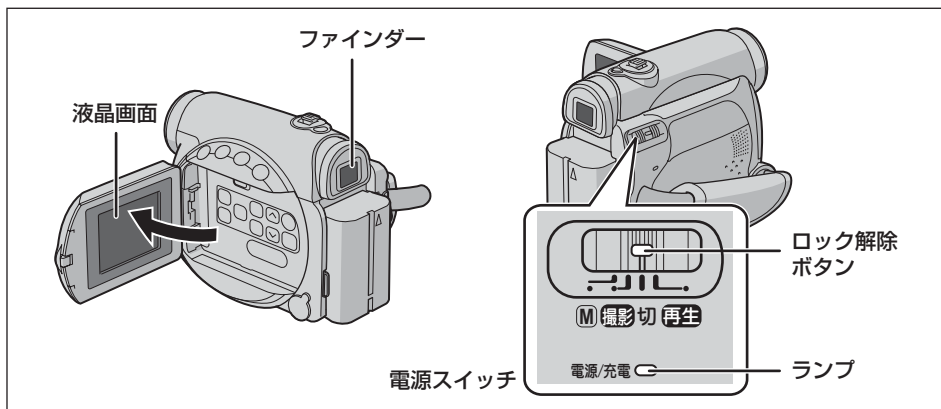
グリップベルトを調節すると、長時間でも楽に撮影できます。

1 パッドをはがす

2 グリップベルトの長さを調節する

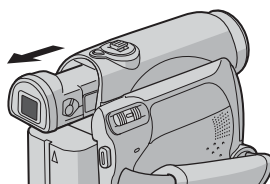
- 親指を撮影ボタンの位置にあわせて構えたときに、ビデオカメラがぐらつかない程度にベルトを締めてください。

3 パッドを貼りつける

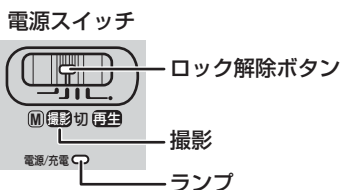
電源を入れる

電源は液晶画面やファインダーと連動しています（クイックパワーオフ機能）。
液晶画面を開く（またはファインダーを引き出す）とすぐに撮影をはじめられ、液晶画面とファインダーを元に戻すだけで電源が切れます。

撮影するために電源を入れる

1 レンズキャップを取りはずす

2 液晶画面を開く（またはファインダーを引き出す）

3 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「撮影」または「M」の位置にあわせる

電源が入り、ランプが点灯します。液晶画面には映像が表示されます。

- 手順2と手順3の順序を逆にしても構いません。
- レンズキャップがついている場合、液晶画面またはファインダーに「レンズキャップ」と表示されます。

電源を切る

ご注意

- ファインダーを元に戻すときは、指をはさまないようにご注意ください。
- ランプが点灯していると、電源が入ったままでバッテリーを消費し続けます。
- 長期間使わない場合は、電源スイッチを「切」にあわせ、バッテリーと AC アダプターを取りはずしてください (☞P.40、41)。
- ビデオカメラをカバンにしまうときや使わないときには、レンズ保護のためにレンズキャップを取りつけてください。

1 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「切」にあわせる

- または、液晶画面を閉じ、ファインダーを奥まで押し込みます。

2 ランプの消灯を確認する

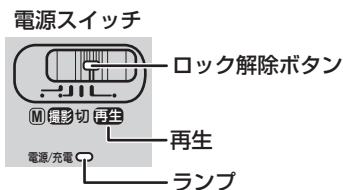
- バッテリーの無駄な消費を防ぐため、ランプの消灯を必ず確認してください。

メモ

- 液晶画面を開いて、ファインダーも引き出している場合、液晶画面とファインダーのどちらに映像や文字、記号を表示させるかを選ぶことができます (☞P.81)。
  お買い上げ時には、液晶画面が優先されるように設定されています。

再生するために電源を入れる

1 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「再生」の位置にあわせる

電源が入り、ランプが点灯します。

電源を切る

ご注意

- 長期間使わない場合は、バッテリーと AC アダプターを取りはずしてください (☞P.40、41)。

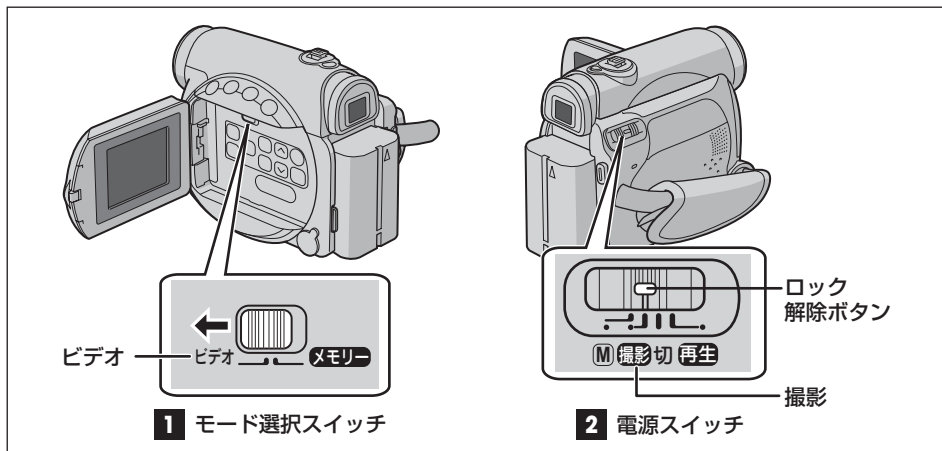
1 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「切」にあわせる

2 ランプの消灯を確認する

- 液晶画面を閉じていても電源が入ります。バッテリーの無駄な消費を防ぐため、ランプの消灯を必ず確認してください。

撮影する

設定を確認する

撮影まえに、撮影モードなどの設定とテープやメモリーカード、バッテリーの残量を確認します。まず、電源スイッチとモード選択スイッチの設定を確認します。

上図のように設定されていない場合は、下記の手順で設定してください。

1 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置にあわせる

- ビデオ　→テープを使って動画を撮影します。
- メモリー　→メモリーカードを使って静止画を撮影します。

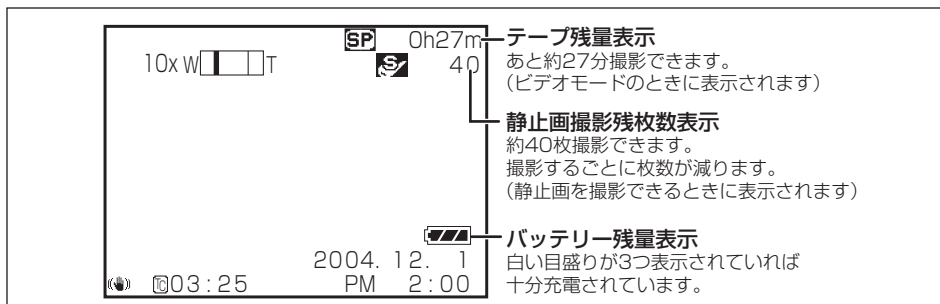
2 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「撮影」の位置にあわせる

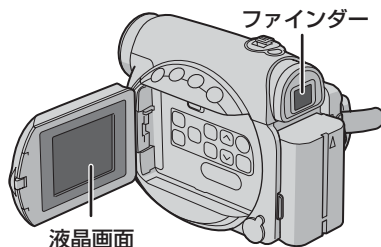
はじめて使うときは

ビデオカメラには出荷時に日時を設定してありますが、お客様のお手元に届くまでに時刻がずれたり、設定が消えることがあります。日時の設定が消えても撮影できますが、正しい日時を設定することをお勧めします（☞P.83）。
また、国外へ旅行するときは、現地の時刻にあわせることをお勧めします。

- 「日時を設定して下さい」と表示されたときは、AC アダプターを取りつけて時計用電池を 24 時間以上充電してください（☞P.149）。

画面表示を確認する

テープ、メモリーカード、バッテリーの残量を確認します。

1 液晶画面を開く（またはファインダーを引き出す）

撮影画面が表示されます。

2 画面表示を確認する

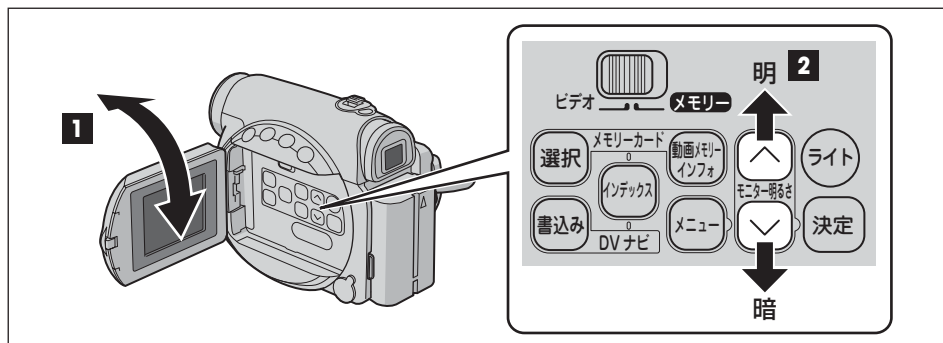
- バッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してください（☞P.41）。

残量が少なくなると点滅

- テープ残量がたりない場合は、テープを交換してください。または、録画モードをLPにしてください（☞P.42、77）。
- 静止画撮影残枚数がたりない場合は、メモリーカードを交換してください。または、不要な静止画を削除してください（☞P.44、118）。
- 静止画撮影残枚数は、撮影画像、画像サイズ、画質モードの変更などによって増減します（☞P.160）。
- 入れたばかりのテープの場合、テープ残量は「－h－－m」と表示されます。テープを10秒間ほど走行させて表示してください。
- テープ残量は目安としてお使いください。
  使用するテープによっては、正しく表示されない場合があります。80分テープの巻きはじめでは、正しい残量表示が出るまでに多少時間のかかることがあります。

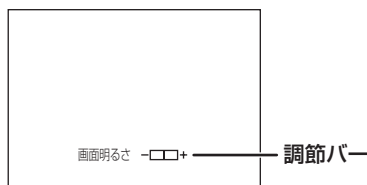
液晶画面やファインダーを調節する

液晶画面を使うとき

画面表示や映像を見やすいように、液晶画面を調節します。

1 液晶画面枠の上下に手を添えて、見やすい角度に傾ける

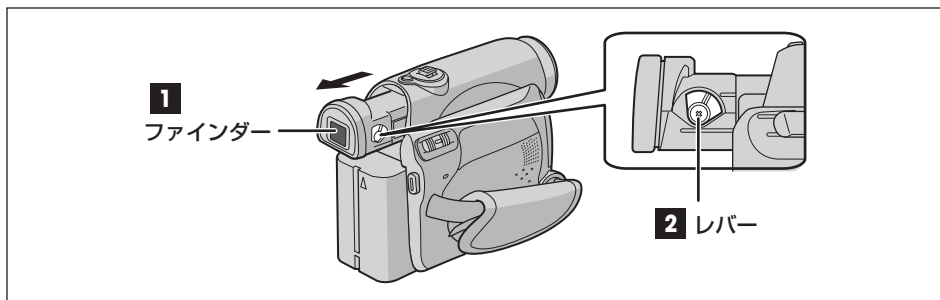
2 上下ボタンを押して、見やすい明るさに調節する

- 明るくする→上（∧）ボタン
- 暗くする→下（∨）ボタン

しばらくすると調節バーが消えます。

液晶画面とファインダー

液晶画面の表示とファインダー画面の表示は同じです。この取扱説明書では、液晶画面を使う場合を例にとって説明します。ファインダーを使う場合は、液晶画面を開く代わりにファインダーを引き出してください。

ファインダーを使うとき

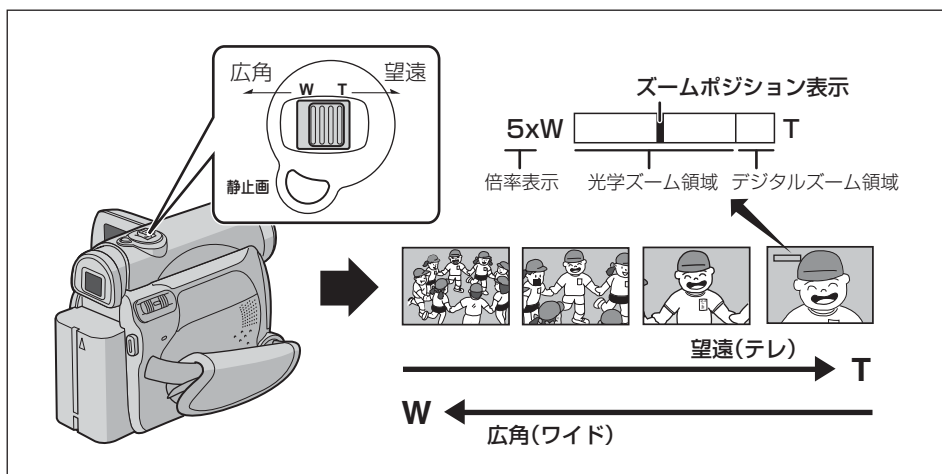
周りが明るすぎて液晶画面が見えにくい場合や、バッテリーで長時間撮影する場合は、ファインダーを使って撮影することをお勧めします。

1 ファインダーを引き出す

2 ファインダーをのぞきながらレバーを動かし、文字がはっきり見えたところで止める

明るさを調節するには

システムメニューの「優先設定」を「ファインダー」に設定します（☞P.81）。次に、液晶画面を使うときと同じ操作で、明るさを調節します（☞P.53）。

撮影する範囲を調節する［ズーム］

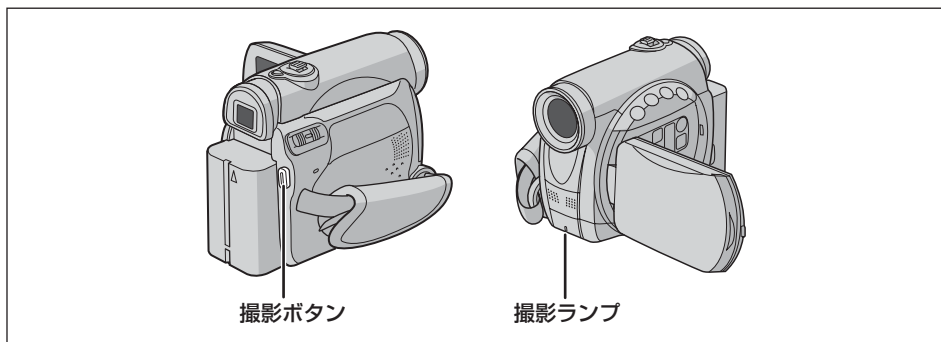
ズームスイッチを押して、撮影する範囲を調節できます。

- 遠くの被写体を大きくしたい　→ T 側（望遠）へ押す
- 撮影範囲を広くしたい　　　　→ W 側（広角）へ押す

- **10 倍以上のズームが使えない**
  メモリーカードで撮影している場合は使えません。また、テープで撮影している場合でも、映像をデジタル処理する機能との併用はできません。
- **勝手に広角（W）になる**
  T 側いっぱいに調節すると、レンズから被写体を 1m 以上離さないとピントがあいません。ピントがあわないときは、自動的に W 側に調節されます。
  テレマクロ機能を設定すると、T 側で約 60cm まで近づいて撮影できます（☞P.79）。

メモ

- **可変速ズーム**
  ズームスイッチを軽く押すとゆっくり、強く押すと速くズームできます。
- **最大ズーム倍率**
  何倍までズーム可能にするかを変更できます。（☞P.77）。
- **10 倍以上のズーム（デジタルズーム）**
  10 倍までの映像に比べて、デジタル処理をするため映像品質が多少劣化します。
- **接写したいとき（マクロ撮影）**
  W 側いっぱいに調節すると、レンズから約 5cm まで被写体に近づいて撮影できます。

動画を撮影する

メモリーカードに記録する場合は、「4 章　メモリーカード」(☞P.109)をご覧ください。

1 **撮影ボタンを押し、撮影をはじめる**

- 「ポン」と音がするまで押してください。

画面に「録画」と表示され、動画の記録がはじまります。ビデオカメラ中央部の撮影ランプが点灯します。

撮影中の画面

2 **撮影をやめるには、もう一度撮影ボタンを押す**

- 「ポポン」と音がするまで押してください。

画面に「ストップ」と表示され、録画が終了します。

撮影を停止した画面

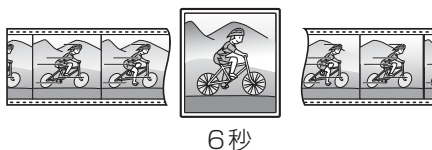
- **電源が切れてしまったら**
  撮影を停止してから 5 分たつと、ビデオカメラの節電とテープ保護のため自動的に電源が切れます。もう一度撮影するには、液晶画面を一度閉じ、再び開いてください。ファインダーをお使いのときは、ファインダーを一度入れ、再び引き出してください。
- **正常に録画できない**
  ビデオヘッドが汚れているかもしれません (☞P.140)。大切な撮影のまえには試し撮りをして、正常に録画、録音されていることを確認してください。

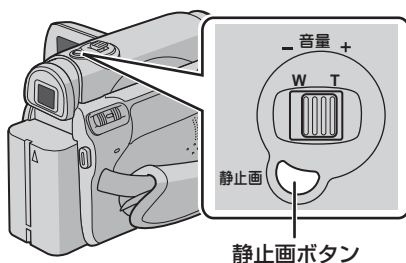
メモ

- 撮影時間については「実撮影時間の目安」(☞P.163) をご覧ください。

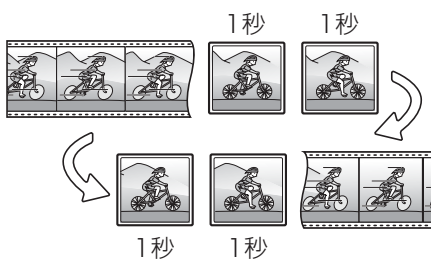
テープに 6 秒間の静止画を記録する

動画の撮影中または撮影停止中に、写真のような静止画を挿入できます。被写体の表情を印象的に撮影したいときなどに効果的です。

6秒

1 静止画ボタンを押す

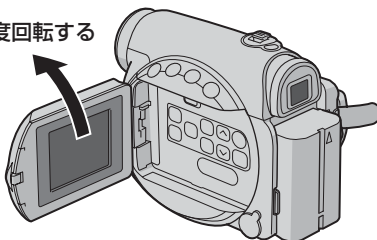
液晶画面の映像が約 6 秒間停止し、音声とともにテープに静止画が記録されます。

静止画を連写するには

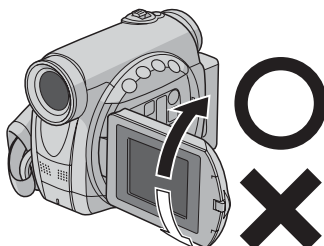
手順 1 で静止画ボタンを押し続けると連写になり、約 1 秒間の静止画が続けて記録されます。

メモ

- 記録選択設定を「➡ ／➡ 」に変更すると、テープへの記録と同時にメモリーカードにも静止画が記録されます (☞P.85)。このときは連写できません。
- テープに記録する静止画には、写真のような演出効果をつけることができます (☞P.77)。

対面撮影をする

液晶画面を回転させて、撮影画面を被写体に見せながら撮影（対面撮影）できます。自分自身を撮影する場合にも便利です。

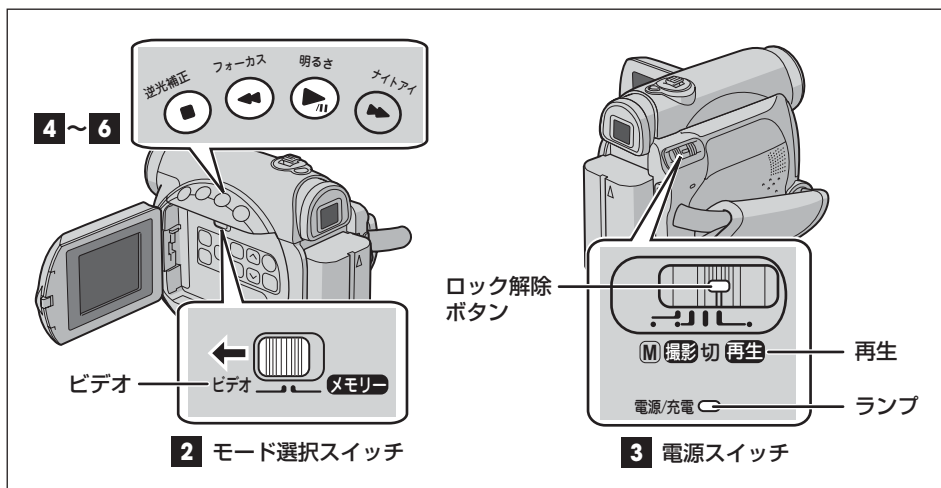
1 液晶画面を開いた状態で、180 度回転させる

ご注意

- 液晶画面を閉じるとき、右図の状態から×の方向へは回転できません。誤った方向へ無理に回転させると故障の原因になります。ご注意ください。

メモ

- 対面撮影中、液晶画面の映像は鏡に映ったように左右が反転しますが、撮影したビデオは左右が反転しません。
- 対面撮影中のファインダーや液晶画面上の表示は簡略化されます。テープ走行表示と、ビデオカメラにトラブルが生じたときの警告表示のみ表示されます。

再生する

動画を再生する

メモリーカードの映像を再生する場合は、「メモリーカードの静止画や動画を再生する」(☞P.112) をご覧ください。

1 液晶画面を開く（またはファインダーを引き出す）

2 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置にあわせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「再生」の位置にあわせる

ランプが点灯し、液晶画面に青い画面が表示されます。

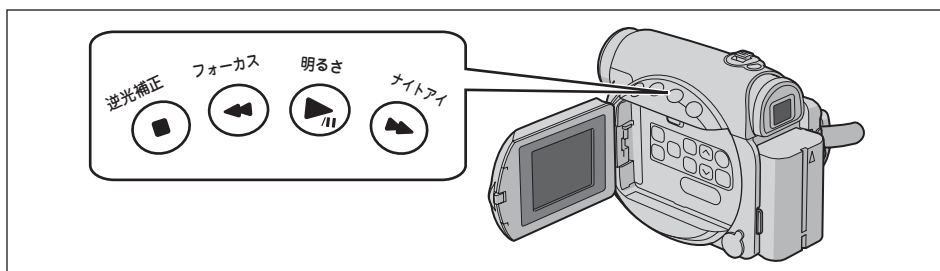
4 「◀◀」ボタンを押して、テープを巻き戻す

5 「▶/II」ボタンを押して、再生する

テープの映像が再生されます。

6 見終わったら「■」ボタンを押して、テープを停止する

早送りやコマ送りで再生する

早送りやコマ送りで再生するには、再生中に次の操作を行います。

早送り再生	**「▶▶」を押す　または　押し続ける**
巻き戻し再生	**「◀◀」を押す　または　押し続ける**
一時停止	**「▶/Ⅱ」ボタンを押す**
コマ送り再生	**「▶/Ⅱ」ボタンを押したあとリモコンの「◀Ⅰ」・「Ⅰ▶」ボタンを押す 「Ⅰ▶」ボタン　正転コマ送り 「◀Ⅰ」ボタン　逆転コマ送り**

通常の再生に戻すには、「▶/Ⅱ」ボタンを押してください。
早送り再生などはリモコンでも操作できます (☞P.19)。リモコンを使うと、スロー再生もできます (☞P.20)。

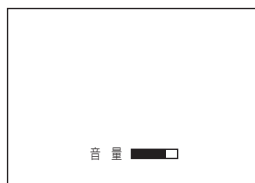
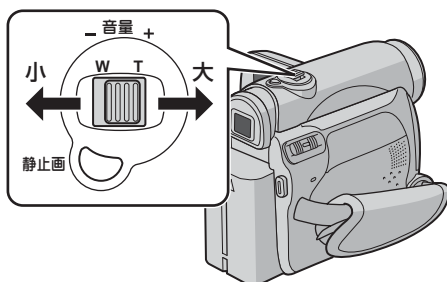
- 早送り、巻き戻し、スローの再生中は、映像がみだれることがあります。
- スロー再生を約 10 分続けると自動的に通常再生に戻ります。
- 「▶/Ⅱ」ボタンを押すと、映像が一時停止します。そのあと、青い画面が表示されることがあります。
- モザイク状のノイズが出たり、青い画面のまま映像が出ないときは、ビデオカメラのヘッドを清掃してください (☞P.140)。

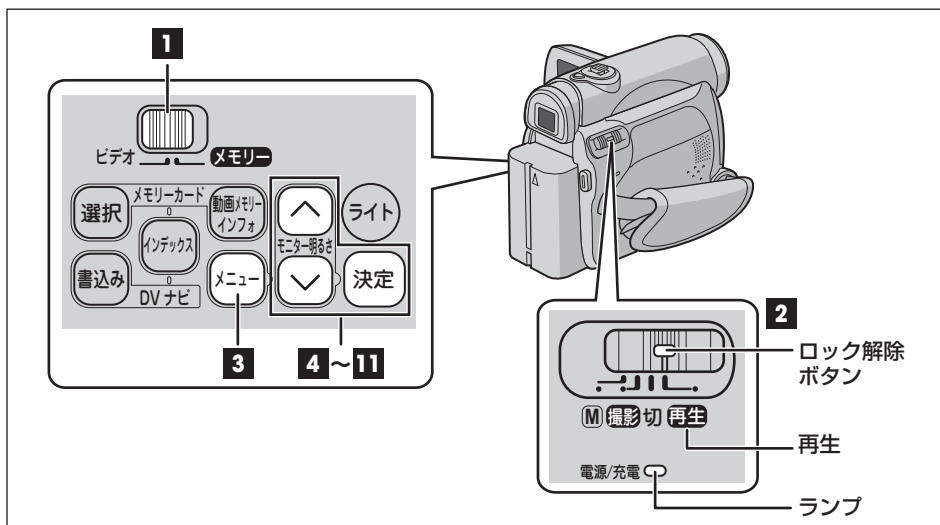
メモ

- 一時停止の状態が約 3 分続くと、自動的に停止します。
- 停止の状態が約 5 分続くと、自動的に電源が切れます (AC アダプターを使っていない場合)。

スピーカーの音量を調節する

動画の再生中は、ズームスイッチで音量を調節できます。

- 大きくする→音量「＋」側へ押す
- 小さくする→音量「－」側へ押す

画面の文字や記号を隠す

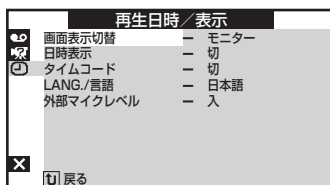
ダビングや編集をする場合、画面の文字や記号が邪魔になることがあります。そのような場合は、文字や記号を隠すように設定します。

1 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置にあわせる

2 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「再生」の位置にあわせる

ランプが点灯し、液晶画面に青い画面が表示されます。

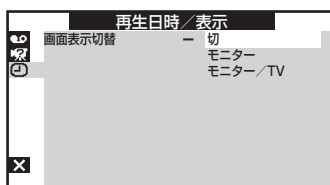
3 メニューボタンを押して、メニューを表示する

4 上下（∧∨）ボタンを押して「⏲」を選び、決定ボタンを押す

再生日時 / 表示メニューが表示されます。

5「画面表示切替」を選び、決定ボタンを押す

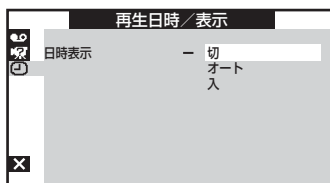
「切」「モニター」「モニター /TV」が表示されます。

6 **「切」または「モニター」を選び、決定ボタンを押す**

- 「切」→画面、TV、ビデオデッキに、文字や記号を出力しない
- 「モニター」→ TV やビデオデッキに、文字や記号を出力しない

7 **「日時表示」を選び、決定ボタンを押す**

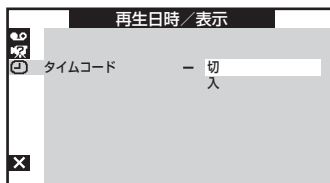
「切」「オート」「入」が表示されます。

8 **「切」を選び、決定ボタンを押す**

- 「切」→日時を表示しない

9 **「タイムコード」を選び、決定ボタンを押す**

「切」「入」が表示されます。

10 **「切」を選び、決定ボタンを押す**

- 「切」→タイムコードを表示しない

11 **再生画面に戻るまで、決定ボタンを押す**

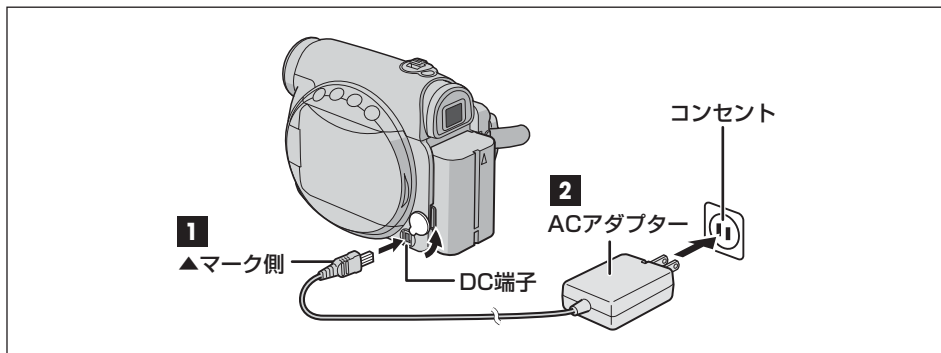
再生中、画面の文字や記号が表示されなくなります。

- 画面表示切替が「モニター」または「切」に設定されていても、「日時表示」や「タイムコード」が「入」に設定されていると、日時やタイムコードは画面に表示されます。

メモ

- 「日時表示」の設定はリモコンの画面表示ボタンでも切り替えることができます（☞P.19）。ダビング中に日時表示を隠すのに便利です。

コンセントの電源で使う

室内で撮影または再生する場合は、AC アダプターを使ってコンセントから電源を取ると、バッテリーの消費を気にせず使えます。

1 AC アダプターをビデオカメラの DC 端子に差し込む

2 AC アダプターをコンセントに差し込む

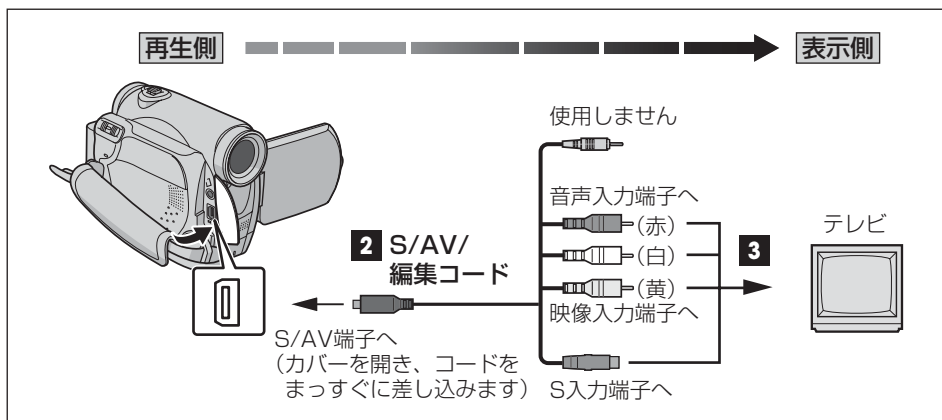
メモ

- AC アダプターは、海外でも使えます (☞P.155)。

テレビで見る

撮影した映像をみんな揃って見る場合は、ご家庭のテレビなどにビデオカメラを接続すると便利です。

接続する

ビデオカメラをテレビやビデオデッキに接続するには、付属の S/AV/ 編集コードを使います。

1 ビデオカメラの電源を切り、AC アダプターを接続する

- ACアダプターの取りつけ（☞P.64）

2 S/AV 端子に、S/AV/ 編集コードを接続する

- S/AV/ 編集コードの▲マークが、レンズ側になるように接続します。

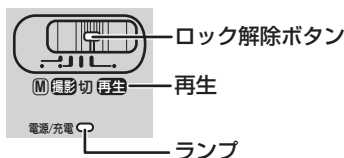
3 テレビなどの映像入力端子と音声入力端子に、S/AV/ 編集コードを接続する

- テレビなどにS 入力端子がある場合は、S 入力端子へも接続します。より高画質の映像をお楽しみいただけます。この場合、テレビの映像入力端子（黄）へ接続する必要はありません。

再生する

ご注意

- お使いになるテレビやビデオデッキによって、入力モードの設定方法は異なります。詳しくはテレビやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

1 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「再生」の位置にあわせる

2 テレビの電源を入れる

- ビデオデッキに接続している場合は、ビデオデッキの電源も入れます。

3 テレビのチャンネルやビデオデッキの入力モードを設定する

- テレビに接続したとき
  テレビの入力モードを、ビデオカメラを接続した端子に切り替えます（たとえば「ビデオ 1、ビデオ 2、ビデオカメラ」など）。
- ビデオデッキに接続したとき
  テレビを、ビデオを見るチャンネルにあわせ、ビデオデッキの入力モードを外部入力に設定します。

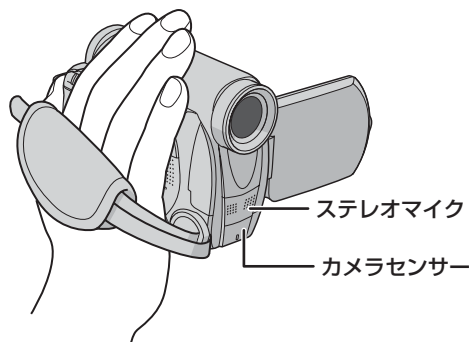
テレビ画面が青くなります。

4 再生する

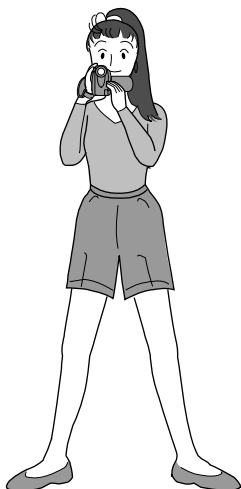
- テープに記録した映像を再生するには（☞P.59）
- メモリーカードに記録した映像を再生するには（☞P.112）

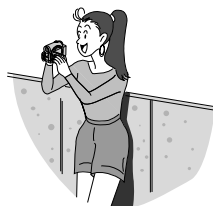
撮影の基本

■ビデオカメラをしっかり構える

安定した映像を撮影するためには、ビデオカメラをしっかり構えることが大切です。そのためには、グリップベルトをしっかり締めてください (☞P.47)。

さらに、撮影中はレンズ、ステレオマイク、カメラセンサーを指などでふさがないようにしてください。

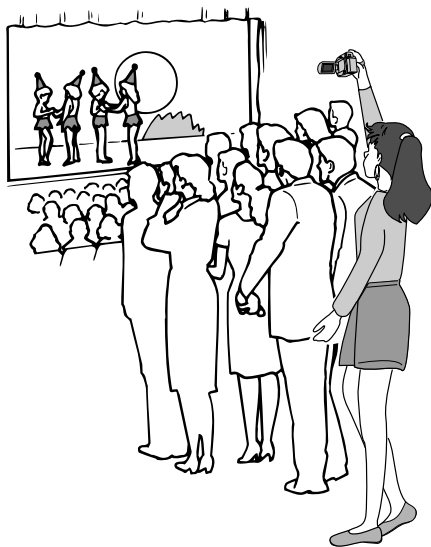
■わきをしめる

わきをしめて、左手もビデオカメラにそえます。足は少し開き、しっかり構えましょう。

■ビデオカメラを安定させる

壁や柱によりかかり、安定させます。

■両手でビデオカメラを持つ

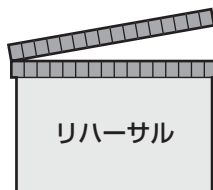
低い姿勢で撮影するときも、わきをしめて、両手でビデオカメラを持ちます。液晶画面を上に向けたり、ファインダーを上に向けて撮影すれば地面に咲いている花なども撮影できます。子供を撮るときは低い姿勢で子供の目線で撮影しましょう。

■高い位置からの撮影

高い位置から撮影する場合は、液晶画面を下に向けて、撮影します。

■ビデオカメラを動かさない

安定した映像で撮影するためには、ビデオカメラを固定して撮ります。左右に動かすとき（パンニング）や上下に動かすとき（ティルティング）は、ゆっくり動かします。撮りはじめと撮り終わりは、ピタッと止めましょう。
三脚（別売）を使うと安定した撮影ができます。

■カメラリハーサルを行う

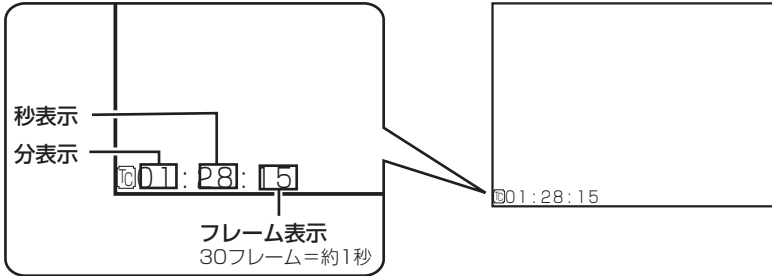
撮影まえにカメラリハーサルを行って、ビデオカメラの操作に慣れておきましょう。事前にシナリオを書いておくことで、本番の撮影がスムーズになります。

■いろいろなアングルで撮影する

正面からだけでなくいろいろなアングルで撮影すると、同じ被写体でも印象の違う映像を撮影できます。液晶画面の傾きを、見やすいように調節してください。

■無記録部分はむやみに作らない

「無記録部分」とは、テープに何も記録されていない部分のことです。ここから撮影を開始すると、タイムコードは必ず「00:00:00」から記録されます。
同じタイムコードが2カ所以上に存在すると、自動編集時に誤動作する原因となります。
また、無記録部分からナビで頭出しすることはできません。
必要のない無記録部分は作らないようにしましょう。

タイムコードとは

撮影中、1 コマ 1 コマに「タイムコード」と呼ばれる数字を記録します。動画の撮影、再生、編集の際にタイムコードを表示すると、映像の位置を確かめる目安になります。

メモ

- 早送り、巻き戻し時のタイムコード表示は、ビデオカメラがテープの位置を確認するため、タイムコードが数秒間前後することがあります。
- 撮影中は分と秒のみ表示されます。

ホームページもご覧ください

ビクターのホームページ (http://www.jvc-victor.co.jp/) では、ビデオカメラの撮影や編集などに役立つさまざまな情報を紹介しています。(2004 年 2 月現在)
是非、ホームページ内のデジタルビデオカメラ「撮影・編集教室」をご覧ください。

撮影のコツ

運動会を撮影する

■1 入場門

はじまるまえに、校舎やタレ幕、はしゃいでいる子供達の様子を撮影します。

■2 入場行進

入場門の横で低い位置に構えて待ちます。人物の動きにあわせてゆっくり撮影。

■3 玉入れ

空を一緒に撮ると、子供達が暗く映るので、高い位置から狙います。

■4 徒競走

ゴールに近い位置からズームインし、ズームアウトをしながらゴールを。

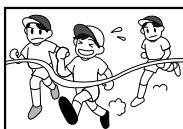
■5 お昼の休憩

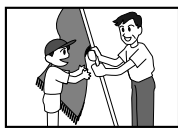
お弁当を食べている様子も撮影しましょう。三脚を使うと全員入ります。

■6 綱引き

まず全員をズームアウトして撮り、子供達の顔や勝利の瞬間をアップで。

■7 リレー

バトンタッチの少し手前で構え、走っている様子を追いかけます。

■8 表彰式

喜びの表情、くやしい表情など、子供達の表情や全体を撮影します。

運動会撮影のポイント

①プログラムは事前にチェックして、演技の順番や場所、スタートの位置などを確認しておきます。

②遠くから撮影する場合やピントが自動的にあわない場合は、ピントを手動であわせる方法もあります (☞P.95)。

海外旅行で撮影する

■1 タイトルを作る

これから撮影するビデオのタイトルを作り、5 秒間程度撮影します。

■2 旅行まえの様子

旅行用ビデオのシナリオを考えます。旅行のポイントを押さえておきます。

■3 出国と入国

出国と入国の際には、ビデオカメラの日時を現地時間に設定しましょう。

■4 観光

観光スポットでは記念写真を撮影。ズームインして、迫力をもたせます。

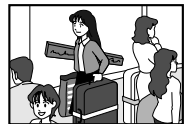
■5 ディナーも記念に

旅行先での豪華な食事。接写してもきれいに撮影できます。

■6 買い物風景

ストリートショップでおみやげを購入。撮影禁止場所には注意しましょう。

■7 帰国

帰国した様子を最後に撮影して締めくくりましょう。

「海外でお使いになるときは」(☞P.155) もご覧ください。

①楽しいビデオアルバムを作るには、撮影まえにシナリオを考えておきます。
②ズームイン、ズームアウトをうまく使ってメリハリをつけましょう。
③人物だけではなく、周囲の様子も撮影し、雰囲気を残しましょう。

結婚式を撮影する

■1 会場

フェードインなどを利用して会場の入口や立て札を撮影しましょう。

■5 余興

余興はズームアウトした全体イメージと、表情のアップを撮影します。

■2 入場シーン

入場の少しまえから撮影をスタート。入場の瞬間をしっかり狙います。

■6 キャンドルサービス

ローソクのアップ、2人の表情、手元のアップ、来賓の顔などを撮影します。

■3 来賓の様子

新郎・新婦だけではなく、来賓の喜びの表情なども撮影しておきます。

■7 花束贈呈

花束のアップ、受け取っている様子、父親の涙などをズームインして。

■4 ケーキカット

ウェディングケーキ入刀の際は、手元のアップも忘れずに。

■8 送賓（お見送り）

お送りしている2人の表情からフェードアウトしてエンド。

結婚式撮影のポイント

①式次第を事前に確認して、式の流れを把握しておきます。
②できれば会場を下見して、広さや照明、明るさ、電源などをチェックしておくと安心です。
③長時間の撮影になるので、AC アダプターや三脚などを用意しましょう。

2章
メニューと設定

メニュー画面の操作方法と基本的な設定について説明します。

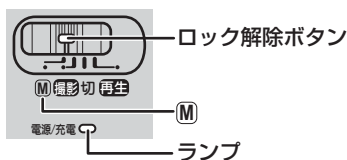
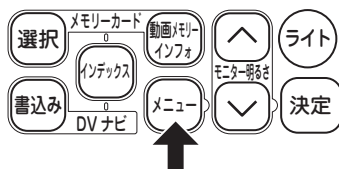
メモ

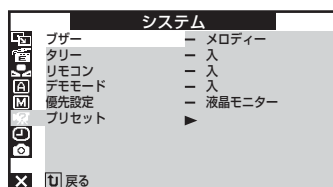
- メモリーカードの動画や静止画を再生する場合のメニューやインデックス画面については、「4 章　メモリーカード」(☞P.109) をご覧ください。

メニュー画面で設定する

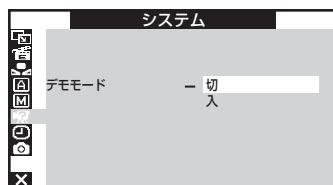
ここでは、デモモードの設定を例にとってメニュー画面の使いかたを説明します。

1 ロック解除ボタンを押したまま、電源スイッチを「M」の位置にあわせる

- 「再生」の位置にあわせても設定できます。

2 メニューボタンを押して、メニューを表示する

3 上下（∧∨）ボタンを押して「⬚」を選び、決定ボタンを押す

システムメニューが表示されます。

4 「デモモード」を選び、決定ボタンを押す

サブメニューが表示されます。

5 項目を選び、決定ボタンを押す

6 撮影画面に戻るまで決定ボタンを押す

サブメニューのない場合には

場面切替メニュー・プログラム AE メニューなどは、サブメニューが表示されません。手順 4 で表示される画面で項目を選び、手順 6 へ進んでください。

撮影時のメニュー

電源スイッチを「Ⓜ」の位置にあわせてメニューボタンを押すと、次のメニューが選べます。

アイコン	メニュー	参照
	場面切替	P.103
	プログラム AE	P.105
	白バランス	P.96
	フルオート	P.77
	マニュアル	P.79
	システム	P.81
	撮影日時 / 表示	P.83
	静止画撮影	P.85
	終了	―

メモ

• メニューを表示したとき、メニューの文字が消えている機能は動作しません。

再生時のメニュー

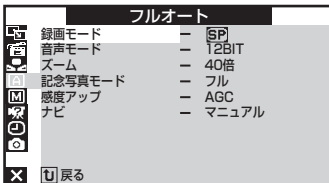
モード選択スイッチを「ビデオ」、電源スイッチを「再生」の位置にあわせてメニューボタンを押すと、次のメニューが選べます。

アイコン	メニュー	参照
	ビデオ再生モード	P.87
	システム	P.81
	再生日時 / 表示	P.84
	終了	ー

メモ

- モード選択スイッチを「メモリー」、電源スイッチを「再生」の位置にあわせてメニューボタンを押すと、メモリーカードについてのメニューが表示されます。詳しくは、「メニューの機能と設定」(☞P.118) をご参照ください。

フルオートメニュー

電源スイッチを「M」の位置にあわせて設定します。
設定項目は、「撮影」および「M」の両方で効果があります。
お買い上げ時は、■に設定されています。

機能	項目	効果	参照
録画モード 録画モードを設定する	SP	SP モード。アフレコ編集・インサート編集できる。	P.135 P.136
	LP	LP モード。撮影時間が SP モードの 1.5 倍。	
音声モード 録音する音声モードを設定する	12BIT	アフレコ編集できる。	P.136
	16BIT	高音質で録音する。	
ズーム ズーム倍率の上限を設定する	10 倍	光学ズーム（画質が劣化しない）。	P.55
	40 倍	デジタルズーム。	
	200 倍	デジタルズーム。	
記念写真モード 静止画の演出方法を設定する	フル	全面に静止画を表示する。	P.57
	ネガ	ネガフィルムのような効果をつける。	
	ピンナップ	白フチと影をつける。	
	フレーム	白フチをつける。	
感度アップ 撮影の感度を設定する	切	自然のままの明るさ。	P.78
	AGC	電気的に感度アップ。	
	オート☀A	映像の明るさを自動的に調節する。	
ナビ 頭出しデータを記録する	マニュアル	ナビ書込みボタンを押したときに記録する。	P.98 P.101
	5 秒、15 秒、30 秒、60 秒	設定した秒数がたつと自動的に記録する。	
	切	頭出しデータを記録しない。	
戻る	ー	前画面に戻る。	ー

録画モード

- LP モードで撮影したテープは、このビデオカメラで再生することをお勧めします。他のビデオ機器ではうまく再生できない場合があります。
- ビデオ再生モードメニューの「録画モード」でも同じ内容を設定できます。

音声モード

- どちらのモードでも、ステレオで録音されます。
- 従来のビクター製ビデオカメラでは、12BIT 音声を 32KHz 音声、16BIT 音声を 48KHz 音声と表現しています。

ズーム

- 10 倍まではレンズの機能で映像をズームしますが、10 倍以上は映像をデジタル処理します。そのため、映像品質が少し劣化します。

記念写真モード

- 動画のなかに写真のような静止画を記録できます。被写体の表情を印象的に撮影したい場合などに効果的です。
- テープに記録する静止画の演出方法は、次のなかから選択できます。

フルモード

ネガモード

ピンナップモード

フレームモード

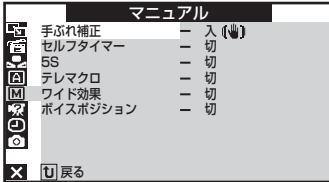
感度アップ

- 「AGC」で撮影した画面は、デジタル映像を処理して実際よりも明るい映像を記録します。ただし、映像がザラザラした感じになります。
- 「オート」で撮影した画面は、自動的にシャッタースピードを調節して、実際よりも明るい映像を記録します。ただし、被写体の動きは多少不自然になります。

ナビ

- メモリーカードに記録されるデータは、1 件につき約 4KB です。

マニュアルメニュー

電源スイッチを「M」の位置にあわせて設定します。
設定項目は、「M」で効果があります。電源スイッチが「撮影」の位置にあっているときは■の設定で動作します。
お買い上げ時は、■に設定されています。

機能	項目	効果	参照
手ぶれ補正 手ぶれ補正を設定する	切	設定しない。	P.80
	入	手ぶれによる映像のブレを低減する。	
セルフタイマー セルフタイマーを設定する	切	設定しない。	—
	入	15 秒後に撮影する。	
5S 5 秒間または 1/8 秒間撮影する	切	設定しない。	P.80
	5S	5 秒間だけ撮影する。 (スナップショットムービー)	
	アニメ	1/8 秒間だけ撮影する。 (アニメーション制作)	
テレマクロ 接写を設定する	切	1m まで接近して撮影できる。	P.55
	入	T 側で60cm まで接近して撮影できる。	
ワイド効果 ワイドテレビにあわせた画面設定にする	切	設定しない。	P.80
	シネマ	映画風に上下に黒い帯が入る。	
	ワイド	ワイドテレビと同じ横長の画面になる。	
	デジタルワイド	撮影できる範囲が広がる。	
ボイスポジション 録音される雑音を軽減する	切	自然な音声を録音する。	—
	入	風による雑音を軽減して録音する。	
戻る	—	前画面に戻る。	—

手ぶれ補正

- 三脚などでビデオカメラを固定して撮影する場合は「手ぶれ補正」を「切」にしてください。「入」のままだと被写体の動きにあわせて必要のない補正を行い、不自然な映像になることがあります。
- 手ぶれが大きい場合、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮る場合、映像をデジタル処理する場合は補正できないことがあります。
- 手ぶれ補正が働かない場合は、液晶画面の「((✋))」表示が点滅、または表示が消えます。

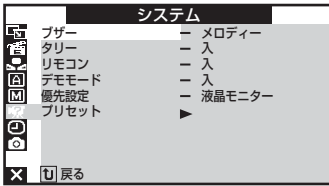
5S

- 「5S」では、撮影ボタンを押してから5秒たつと自動的にテープが一時停止します。短いカットの連続したビデオを撮影したいときに便利です。
- 「アニメ」では、撮影ボタンを押すと1/8秒分だけ撮影されます。人形や切り絵などを少しずつ動かして1コマアニメーションを制作するときに使います。

ワイド効果

- **普通のテレビ（画面比率4:3）やファインダー、液晶画面で見る場合は**
  ワイド映像は、縦長の映像が映ります。シネマ映像は、上下に黒い帯が入った映像が映ります。
- **ワイドテレビで再生する場合は**
  ワイドで撮影した映像には、ワイド用の識別信号が記録されています。S/AV/編集コードで、ビデオカメラのS/AV端子とワイドテレビを接続してください。
  テレビのS2端子に接続すると、ワイド、シネマをテレビが自動判別します。
  テレビのS1端子に接続すると、ワイドを自動判別します。
  テレビ側にS2またはS1端子がない場合は、S端子に接続してください。自動判別はできません。ワイドテレビで見やすい映像に調節してください。(詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書をご覧ください)。
- **ビデオデッキでダビングしたワイド映像を再生する場合は**
  ワイド映像になるようにテレビ側でモードを切り替えてください（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書をご覧ください)。
- **ワイド映像とシネマ映像を混在させて撮影した場合は**
  早送り再生中、巻戻し再生中は、ワイド映像とシネマ映像の切り替わりを判別できません。
- **デジタルワイド**
  ズームスイッチを広角（W）側にすると、ワイドコンバーションレンズを使わなくても0.7倍のワイド撮影になり、室内などの狭いところでも撮影範囲が広がります。ズーム倍率の表示は広角（W）側で0.7倍になり、シャッター速度は常に1/30秒になります。

システムメニュー

電源スイッチを「M」または「再生」の位置にあわせて設定します。
お買い上げ時は、■に設定されています。

機能	項目	効果	参照
ブザー 操作音を設定する	**切**	操作音を消す。	ー
	ブザー	一部の操作のみブザー音。	
	メロディー	操作するごとにメロディー音。	
タリー 撮影ランプを設定する	**切**	点灯しない。	P.81
	入	撮影中にランプが点灯する。	
リモコン リモコン操作を設定する	**切**	リモコン操作を受けつけない。	P.19
	入	リモコンで操作できる。	
デモモード デモモードを設定する	**切**	設定しない。	P.82
	入	プログラム AE などの効果をデモで確認できる。	
優先設定 優先表示を選ぶ	**液晶モニター**	液晶画面を優先的に表示する。	P.53
	ファインダー	ファインダーを優先的に表示する。	
プリセット すべての設定を元に戻す	**実行**	メニューの設定をお買い上げ時の状態に戻す。	ー
	戻る	前画面に戻る。	
戻る	**ー**	前画面に戻る。	ー

タリー

- 「入」では、撮影中であることを撮影ランプを点灯させてお知らせします。

デモモード

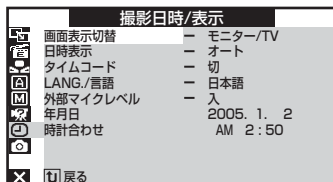
- テープを入れずに電源を入れると、液晶画面にビデオカメラの機能デモを表示します。
- 機能デモの表示中にズームなどの操作を行うと、一時的に機能デモの表示を停止し、約３分後に再開されます。
- 通常はデモモードを「切」にしてお使いください。「入」のままにしていると、設定できない機能があります。

優先設定

- 液晶画面を開いて、ファインダーも引き出した場合、どちらが優先して映像や記号、文字を表示するかを設定します。

日時 / 表示メニュー

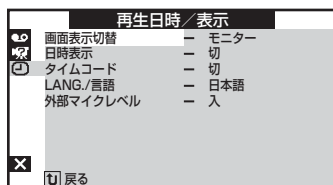
撮影日時 / 表示メニュー

電源スイッチを「Ⓜ」の位置にあわせて設定します。
お買い上げ時は、■に設定されています。

機能	項目	効果	参照
画面表示切替 撮影時の画面表示を切り替える	**モニター**	TV やビデオデッキに、文字や記号を出力しない。	–
	モニター/TV	TV やビデオデッキに、画面と常に同じ表示を出力する。	
日時表示 撮影時の日時表示を切り替える	**切**	表示しない。	–
	オート	電源を入れたときに 5 秒間表示する。	
	入	常に表示する。	
タイムコード 撮影時のタイムコード表示を切り替える	**切**	表示しない。	P.69
	入	表示する。	
LANG./ 言語 メニュー表示の言語を切り替える	**日本語**	メニューを日本語で表示する。	–
	ENGLISH	メニューを英語で表示する。	
外部マイクレベル 外部マイクの入力レベルを表示する	**切**	表示しない。	P.83
	入	外部マイクを接続すると表示する。	
年月日時計合わせ 日付・時刻をあわせる	**年月日、時刻**	年月日と時刻を設定する。	–
戻る	–	前画面に戻る。	–

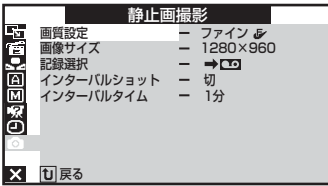
外部マイクレベル

- 外部マイク(市販)を接続した場合、画面に「L------I I------R」と表示されます(☞P.23)。ただし、外部マイクに音声が入力されていない場合は、線 (------) が表示されません。
- 外部マイクの電池の残量がなくなると線(------)が消えます。電池を交換してください。

再生日時 / 表示メニュー

電源スイッチを「再生」の位置にあわせて設定します。
お買い上げ時は、■に設定されています。

機能	項目	効果	参照
画面表示切替 再生時の画面表示を切り替える	**切**	画面、TV、ビデオデッキに、文字や記号を出力しない。	P.62
	モニター	TV やビデオデッキに、文字や記号を出力しない。	
	モニター /TV	TV やビデオデッキに、画面と常に同じ表示を出力する。	
日時表示 再生時の日時表示を切り替える	**切**	表示しない。	P.62
	オート	再生をはじめたとき・日付が変わったときに 5 秒間表示する。	
	入	常に表示する。	
タイムコード 再生時のタイムコード表示を切り替える	**切**	表示しない。	P.62
	入	表示する。	
LANG./ 言語 メニュー表示の言語を切り替える	**日本語**	メニューを日本語で表示する。	－
	ENGLISH	メニューを英語で表示する。	
外部マイクレベル 外部マイクの入力レベルを表示する	**切**	表示しない。	P.83
	入	外部マイクを接続すると表示する。	
戻る	ー	前画面に戻る。	－

静止画撮影メニュー

電源スイッチを「M」の位置にあわせて設定します。
お買い上げ時は、■に設定されています。

機能	項目	効果	参照
画質設定 静止画の画質を設定する	ファイン	高画質（撮影枚数が少ない）。	P.160
	スタンダード	撮影枚数が多い。	
画像サイズ 静止画の画像サイズを設定する	640 × 480	撮影枚数が多い。	P.160
	1024×768	印刷向き（撮影枚数が少ない）。	
	1280×960	印刷向き（撮影枚数が少ない）。	
	1600×1200	静止画をデータ交換して保存する。	
記録選択 静止画の記録方法を設定する	➜テープ	テープのみに記録する。	P.86
	➜テープ／➜カード	テープとメモリーカード両方に記録する。	
インターバルショット 定期的に静止画を撮影する	切	通常の撮影をする。	P.86
	入	定期的に、静止画をメモリーカードに撮影する。	
インターバルタイム	15秒、30秒、1分、2分、5分、10分、30分、60分	インターバルショットの間隔を設定する。	ー
戻る	ー	前画面に戻る。	ー

画質設定

• 「ファイン」では、画像の圧縮率が低いため、高画質になります。「スタンダード」よりもデータサイズが大きくなります。
• 撮影画面では、「ファイン」は F、「スタンダード」は S と表示されます（☞P.24）。

画像サイズ

• モード選択スイッチを「メモリー」の位置にあわせて設定します。
• 1600×1200ドットでは、1280×960ドットで撮影した静止画をデータ交換して保存します。

メニューと設定　2章

記録選択

- テープで静止画を撮影する場合に、静止画をメモリーカードにも記録するかどうかを選択できます。
- 「➡[テープ]／➡[M]」に設定し、ビデオカメラにテープが入っていない場合には、メモリーカードにのみ記録されます。

インターバルショット

- 「入」に設定した場合、静止画ボタンを押してから 2 秒後に、最初の静止画が撮影されます。続いて、インターバルタイムで設定した時間が経つたびに、静止画が自動的に撮影されます。
- インターバルショットを中止するには、もう一度、静止画ボタンを押します。メモリーカードの残り記録枚数がなくなると、自動的に終了します。
- インターバルショットで撮影した静止画とほかの静止画を区別するため、撮影まえに「番号リセット」を行うことをお勧めします（☞P.118)。
- 撮影が長時間になる場合は、ビデオカメラの電源にACアダプターをお使いになることをお勧めします（☞P.64)。
- 撮影した静止画から動画ファイルを作るには、付属ソフトウェア「フォト・ナビゲーター」のアニメーション機能をお使いください（Windows® の場合）。QuickTime Pro（アップルコンピュータ社）をお使いの場合は、QuickTime Player の「イメージシーケンスを開く」機能で動画ファイルを作ることができます。

ビデオ再生モードメニュー

モード選択スイッチを「ビデオ」、電源スイッチを「再生」の位置にあわせて設定します。
お買い上げ時は、▒ に設定されています。

機能	項目	効果	参照
音声切替 ステレオ音声を切り替える	**ステレオ**	左右の音声を両方とも再生する。	P.88
	音声 L	左の音声のみ再生する。	
	音声 R	右の音声のみ再生する。	
アフレコ音声 再生音声を切り替える	**切**	撮影時の音声を再生する。	P.137
	入	アフレコ音声を再生する。	
	ミックス	撮影時の音声とアフレコ音声を同時に再生する。	
シンクロ補正 録画タイミングのズレを補正する	− 1.3 〜±0.0 〜+ 1.3	お使いのビデオデッキにあわせて補正する。	P.134
録画モード 録画モードを設定する	SP	アフレコやインサート編集できる。	P.135 P.136
	LP	撮影時間が SP モードの 1.5 倍。	
→コピー テープからメモリーカードに静止画をコピーする	**切**	コピーしない。	P.117
	入	テープからメモリーカードに静止画をコピーできる。	
ナビ画像削除 頭出しデータを削除する	**画像選択**	頭出しデータを 1 件削除する。	P.100
	テープ選択	同じテープから作成した頭出しデータを削除する。	
	すべて	すべての頭出しデータを削除する。	
	戻る	前画面に戻る。	
ブランクサーチ 無記録部分を探す	**実行**	5 秒間以上の無記録部分を探す。	P.88
	戻る	前画面に戻る。	
アナログ入力 ダビング時の接続方法を指定する	**切**	アナログ入力を無効にする。	P.123
	A/V 入力	再生機の映像出力端子に接続する。	
	S 入力	再生機の S 出力端子に接続する。	
戻る	−	前画面に戻る。	−

音声切替

- ビデオカメラは、常にステレオ音声で録音しています。

録画モード

- フルオートメニューの「録画モード」でも同じ内容を設定できます。

➡コピー

- 「切」に設定している場合、動画の再生中に静止画ボタンを押すと映像が静止します。約 6 秒後に、通常の再生に戻ります。

ブランクサーチ

- 途中まで記録したテープに続きから撮影するときに役立ちます。
- テープを早送りし、無記録部分 (☞P.68) の約 3 秒手前で停止します。
- ブランクサーチを中止するには、「■」ボタンを押します。
- 5 秒間以上の無記録部分があると、その先に映像があっても停止します。停止した位置以降に映像が記録されていないか、録画をはじめるまえによく確認してください。
- 無記録部分の約 3 秒手前で停止しますので、そこから録画をスタートすると、約 3 秒間映像が上書きされてしまいます。必要に応じて再生し、録画スタート位置を確認してください。

3章
撮影活用

画像の明るさや画面の色のバランスを手動で調節する方法や、ビデオで撮影中にさまざまな効果を挿入する方法などを説明します。

メモ

- ほとんどの機能は、メモリーカードに撮影するときにも使えます。

暗い場所で撮影する

暗い場所で撮影する場合は、次の機能を使います。

明るさを補って撮影するには

LED ライトを使うと、明るさがたりない場所でも明るくして撮影できます。詳しくは、次の「LED ライトを使う」をご覧ください。

暗い場所で赤ちゃんをそっと撮影するには

ナイトアイボタンを使うと、暗い場所でも撮影できます。詳しくは、「ナイトアイを使う」(☞P.91)をご覧ください。

薄暗い場所にある被写体を撮影するには

フルオートメニューの感度アップ機能を使います(☞P.77)。

夜景などを自然な感じで撮影するには

プログラム AE メニューの夜景機能を使います(☞P.105)。

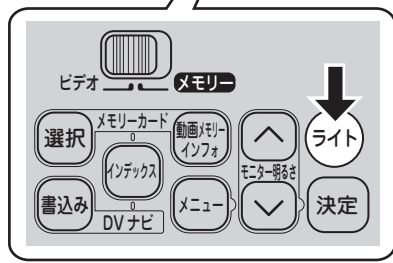
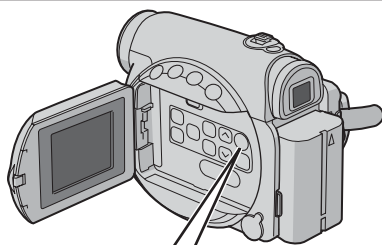
LED ライトを使う

ビデオカメラのLED ライトを点灯させ、明るさを補って撮影できます。

ご注意

- LED ライトを直視しないでください。特に、小さなお子さまの目などに光が直接入らないようにご注意ください。

◆準備◆

- モード選択スイッチ :ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ :撮影または Ⓜ

1 ライトボタンを押す

ライトマーク(☼)が表示され、LED ライトが点灯します。

明るさに応じて点灯させるには

もう一度、ライトボタンを押し、ライトマークに「A」をつけます(☼A)。暗い場所では、LED ライトが自動的に点灯します。明るい場所では点灯しません。

LED ライトを解除するには

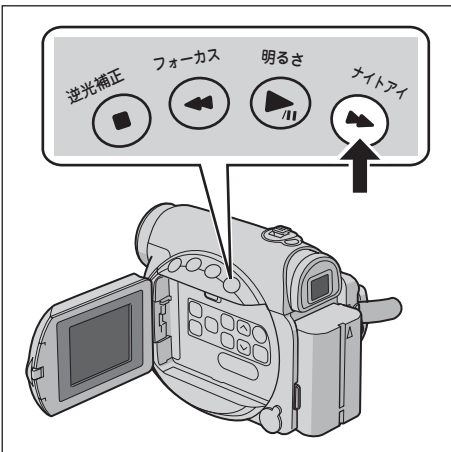
ライトマーク（☀◨）が消えるまで、ライトボタンを押します。

- ナイトアイ使用中は、ライトマークが☀◨のときにLEDライトが点灯し、☀◨Aのときは点灯しません。ただし、ナイトアイで撮影できないほど暗いときは点灯します。
- 画面の中心から離れた被写体や、ビデオカメラから離れた被写体は、暗く撮影されます。
- 常に点灯させるとシャッタースピードが低下し、被写体がブレやすくなります。

ナイトアイを使う

シャッタースピードを自動的に調節し、通常撮影のときよりも被写体を明るく撮影できます。真っ暗な場所で撮影することはできません。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ　　　：Ⓜ

1 ナイトアイボタンを押す

ナイトアイマーク（A）が表示されます。

- 明るい場所では、一時的に通常の撮影に戻ります（通常の撮影に戻っている間は「」の横の「A」が消えます）。

暗い場所で撮影できるようになります。

ナイトアイを解除するには

もう一度、ナイトアイボタンを押します。電源スイッチを「撮影」の位置にあわせると、ナイトアイは一時的に解除されます。

- ナイトアイ機能を有効にした場合、暗い場所では被写体がブレて撮影されることがあります。また、ピントがあいにくくなります。ブレを防ぐためにビデオカメラを三脚などで固定し（☞P.17）、ピントを手動であわせて（☞P.95）撮影してください。

被写体の明るさを調節する

太陽を背にした被写体を撮影するには

そのまま撮影すると、被写体が暗くなります。
逆光補正ボタンを使うと、被写体を明るく補正できます。詳しくは、次の「逆光を補正する」をご覧ください。

スポットライトのあたった被写体を撮影するには

そのまま撮影すると、被写体が明るくなりすぎます。
被写体を暗くするには、プログラムAEメニューのスポットライト機能を使います(☞P.105)。

明るさを調節して撮影するには

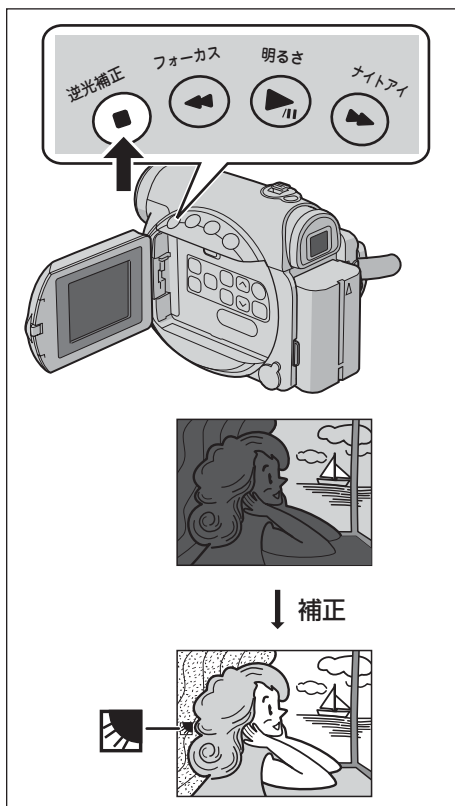
周囲の明るさによっては、逆光補正やスポットライト機能では、被写体が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりすることがあります。
被写体を最適な明るさで撮影するには、スポット明るさ補正を使います。詳しくは、「最適な明るさに補正する」(☞P.93)をご覧ください。
手動でお好みの明るさにするには、明るさ補正メニューを使います。詳しくは、「明るさを手動で補正する」(☞P.93)をご覧ください。

明るさを一定に保って撮影するには

動きのある被写体を撮影するときやズーム操作を行うときなど、画面の明るさを一定に保ちたい場合があります。このような場合は、明るさを調節し、その明るさに固定します。詳しくは、「一定の明るさで撮影する」(☞P.94)をご覧ください。

逆光を補正する

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ：M

1 逆光補正ボタンを1回押す

逆光補正マーク(◪)が表示されます。

- 別のマーク(◙)が表示された場合は、逆光補正マーク(◪)が表示されるまで繰り返し押します。

被写体を明るく撮影できます。

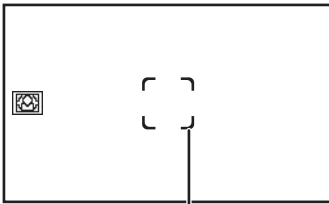
逆光補正を解除するには

マーク（◩または▣）が消えるまで、逆光補正ボタンを押します。

最適な明るさに補正する

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ　　　：M

1 逆光補正ボタンを 2 回押す

エリア枠

エリア枠とスポット明るさ補正マーク（▣）が表示されます。

- 別のマーク（◩）が表示された場合は、スポット明るさ補正マーク（▣）が表示されるまで繰り返し押します。

2 上下（∧∨）ボタンを押して、被写体の近くへエリア枠を動かす

- 右へ動かす→「∧」ボタン
- 左へ動かす→「∨」ボタン

3 決定ボタンを押す

被写体を最適な明るさで撮影できます。

スポット明るさ補正を解除するには

マーク（▣または◩）が消えるまで、逆光補正ボタンを押します。

メモ

- 撮影する場所や環境によっては、最適な結果が得られないことがあります。
- 次の機能を使っているときは、スポット明るさ補正は使えません。
  ワイド（☞P.79）
  ストロボ（☞P.105）
  デジタルズーム（☞P.55）
  明るさ補正メニュー（次項）

明るさを手動で補正する

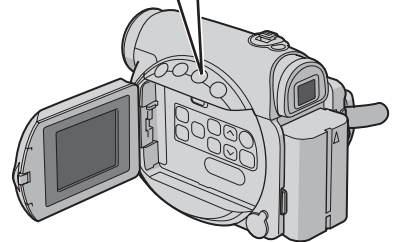
◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ　　　：M

1 明るさボタンを押す

明るさ補正の数値が表示されます。

3章 撮影活用

次へ続く

2 数値を変更する

- 明るくする
  →「上（∧）」ボタン（＋６まで）
- 暗くする
  →「下（∨）」ボタン（－６まで）

3 決定ボタンを押す

撮影画面に戻ります。

明るさ補正を解除するには

明るさボタンを２回続けて押します。
電源スイッチを「撮影」の位置にあわせると、明るさの調節を一時的に自動調節に戻すことができます。

メモ

- 「＋３」は、逆光補正（）と同じ効果です。
- 「－３」は、プログラム AE メニューのスポットライト機能と同じ効果です。

一定の明るさで撮影する

スポット明るさ補正を使う場合

1 「最適な明るさに補正する」（☞P.93）の手順３で、決定ボタンを２秒以上押す

スポット明るさ補正マーク（）の隣にＬと表示され、明るさが固定されます。

明るさを一定に保って撮影できます。

明るさを手動で補正する場合

1 「明るさを手動で補正する」（☞P.93）の手順３で、決定ボタンを２秒以上押す

明るさ補正の数値の隣に、Ｌと表示されます。

- 数値を変更すると、Ｌが消えます。

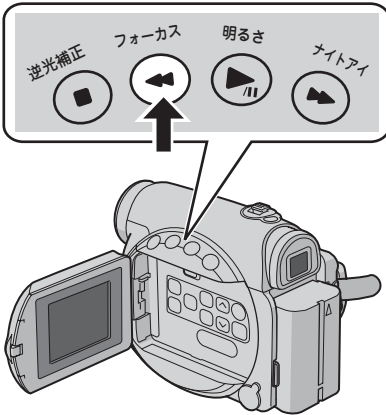
2 もう一度、決定ボタンを押す

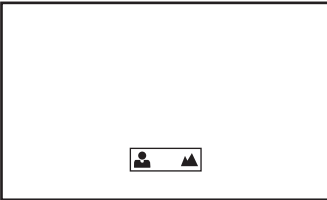
表示がＬに変わり、明るさが固定されます。

明るさを一定に保って撮影できます。

ピントを手動であわせる[マニュアルフォーカス]

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ　　　：Ⓜ

1 フォーカスボタンを押す

2 ピントをあわせる

- ピントをあわせたい被写体が
  遠くにある→「上 (∧)」ボタン (▲)
  近くにある→「下 (∨)」ボタン (👤)

3 決定ボタンを押す

ピントが固定されます。

調節したピントで撮影できます。

マニュアルフォーカスを解除するには

フォーカスボタンを 2 回続けて押します。電源スイッチを「撮影」の位置にあわせると、一時的に自動調節 (オートフォーカス) に戻ります。

メモ

- ズーム操作をする場合は、ピントをあわせるまえに望遠 (T) 側に設定しておき、ピントをあわせてから広角 (W) 側に調節するとピントがずれません。

こんなときには手動でピントをあわせます

- 平らな壁や青空など、コントラスト (明暗差) のほとんどない被写体を撮るとき
- 金網などの障害物が被写体との間にあるとき
- 細かい模様や同じ模様が規則正しく並んでいる被写体を撮るとき
- 蛍光灯などのちらつきのある光源の下で撮影するとき
- 被写体にスポットライトがあたっているとき
- 被写体が画面端にいるとき

画像の色あいを調節する［白バランス］

液晶画面やファインダーで色あいが不自然なときは、白バランスを変更して撮影してください。白バランスの設定は、次のモードから選択できます。

アイコン	モード	効果
—	オート	自動的に色のバランスを調節します。
	ワンタッチ	被写体の色をより正しく撮影したいときに選択します（☞P.97）。
	はれ	晴れた日に屋外で撮影するときに選択します。
	くもり	曇りの日や日陰で撮影するときに選択します。
	ハロゲン	撮影用ライトなどの照明の下で撮影するときに選択します。

お買い上げ時は、▒に設定されています。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ　　　：M

1 メニューボタンを押して、メニューを表示する

2 白バランスメニュー（）でモードを選ぶ

- 「ワンタッチ」については、「任意の白バランスを設定する」（☞P.97）をご覧ください。
- メニュー画面の操作（☞P.74）

3 決定ボタンを押して撮影画面に戻る

設定した白バランスで撮影できます。

白バランスを自動調節に戻すには

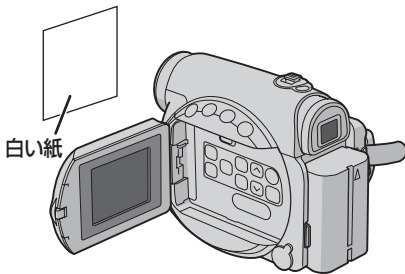
手順２で「オート」を選びます。
電源スイッチを「撮影」の位置にあわせると、一時的に自動調節（オート）に戻ります。

任意の白バランスを設定する

白バランスを手動で調節すると、より正しい色で被写体を撮影できます。

1 白バランスメニューの「ワンタッチ」を選ぶ

• 白バランスメニューの表示(☞P.96)

2 ビデオカメラのまえに白い紙を置き、画面全体に表示する

• 裏の透けない紙（コピー用紙など）をお使いください。

3 決定ボタンを押し続け、「」の点滅が止まったら指を離す

白バランスが記憶されました。紙をはずしてください。

4 撮影画面に戻るまで、決定ボタンを押す

設定した白バランスで撮影できます。

メモ

• 被写体に当たっている光源によって画像の色あいも変わります。被写体に当たっている光源が変わったときは、もう一度白バランスを調節してください。
• 設定した白バランスは、もう一度白バランスを設定するまで有効です。

DV ナビで頭出し再生をする

撮影時に頭出しデータを記録する

頭出しをするためのデータをメモリーカードに記録しておくと、テープの再生時に撮影開始位置の頭出しが簡単にできます。ここでは、ナビ書込みボタンを押して記録する方法を説明します。

ご注意

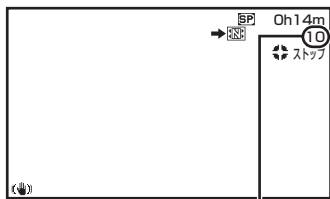
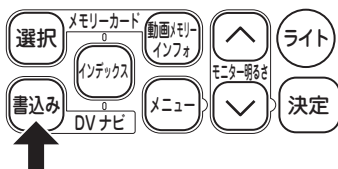
- テープとメモリーカードの両方が入っていないと、頭出しデータは記録できません。両方が入っていることを確認してください。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：撮影または M

1 **撮影ボタンを押して、ビデオを撮影する**

2 **もう一度、撮影ボタンを押して、撮影を停止する**

3 **ナビ書込みボタンを押す**

頭出しデータの残数表示

「N」マークが表示され、頭出しデータが記録されます。

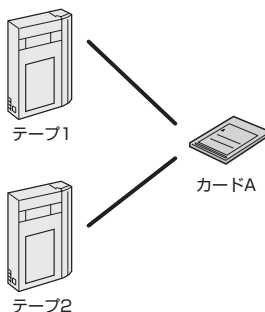
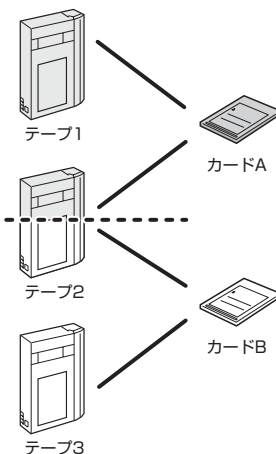
- メモリーカードに記録できる頭出しデータが 10 以下になると、画面に残数が表示されます。

メモ

- DV ナビを使う場合は無記録部分 (テープに何も記録されていない部分) を作らないようにしてください (☞P.68)。誤動作の原因になります。
- 頭出しデータを記録したテープの上に新しく撮影しても、以前に撮影した頭出しデータはメモリーカードに残っています。頭出しデータ (ナビ画像) を削除してから撮影してください (☞P.100)。
- 液晶画面に黄色の「カード表示」(☞P.24) が点滅するときは、カード情報を読み込んでいます。このときに頭出しデータは記録されず、カード読み込み完了後にデータを記録します。
- 「記録選択」(☞P.85) を「➡テープ／➡M」に変更している場合は、静止画の撮影残枚数が表示されます。頭出しデータの残数は表示されません。

テープを交換するときの注意

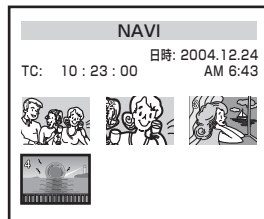
例 1 のように、1 本のテープには 1 枚のメモリーカードが対応するようお使いになることをお勧めします。
1 本のテープの撮影途中にメモリーカードを入れ替えると、例 2 のようにテープ 2 にカード A とカード B の 2 枚のメモリーカードが対応することになります。そのため、テープ 2 の前半を頭出しするときはビデオカメラにカード A を入れ、テープ 2 の後半を頭出しするときはカードBに入れ替えなくてはならなくなります。

例1（こちらをお勧めします）

頭出し再生をする

頭出しデータ（☞P.98）を使って、見たいシーンを頭出しできます。頭出し再生をするには、テープで撮影したときにセットしていたメモリーカードが必要です。

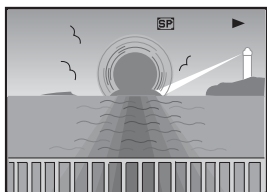
◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：再生

1 ビデオの再生中または停止中に、インデックスボタンを押す

ナビインデックス画面が表示されます。再生中の場合は、再生が自動的に停止します。

2 上下（∧∨）ボタンを押して、頭出しをしたい場面を選ぶ

- ナビインデックス画面のページを変えるには、「◀◀」「▶▶」ボタンを押します。
- 場面の選択を中止するには、もう一度インデックスボタンを押します。

3 決定ボタンを押す

自動的に頭出しを行い、再生を開始します。

- 頭出しを中止するには、「■」ボタンまたは「▶」ボタンを押します。

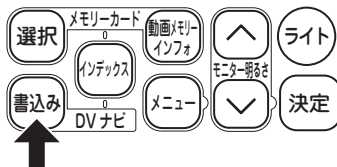
- 記録した頭出しデータの位置と、頭出し再生したときの位置には、誤差がでることがあります。
- メモリーカードのなかにある「NAVI」フォルダを、パソコンを使ってほかのメモリーカードにコピーしても、コピーしたメモリーカードでは頭出しはできません。

頭出しデータを追加する

頭出しデータを追加するには、テープで撮影したときにセットしていたメモリーカードが必要です。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：再生

1 ビデオを再生し、頭出しを行いたい場面でナビ書込みボタンを押す

選択した場面が頭出しデータとしてメモリーカードに記録されます。

- SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置にあわせていると、頭出しデータを追加できません（☞P.45）。
- 他社製のビデオカメラ、およびDVナビ機能がないビデオカメラで撮影されたテープでは、頭出しデータを追加できません。

頭出しデータを削除する

ご注意

- ビデオカメラの電源には、ACアダプターをお使いになることをお勧めします（☞P.64）。途中でバッテリーがなくなると、故障の原因となります。
- 削除中はメモリーカードを取り出したり、電源を切らないでください。故障の原因となることがあります。
- 削除した頭出しデータは元に戻せません。間違えて削除した場合は「頭出しデータを追加する」（☞P.100）の手順でもう一度設定してください。

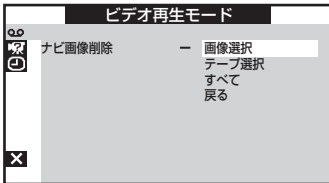
◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：再生

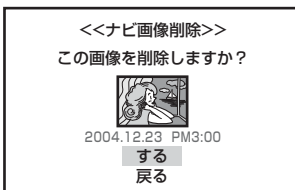
1 メニューボタンを押して、メニューを表示する

2 ビデオ再生モードメニュー（📼）の「ナビ画像削除」を選ぶ

- メニュー画面の操作（☞P.74）

3 「画像選択」を選び、決定ボタンを押す

削除画面が表示されます。

4 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押して、削除する画像を選ぶ

5 上下（∧∨）ボタンを押して「する」を選び、決定ボタンを押す

選択した画像のデータが削除されます。

6 ほかのデータも削除するには、手順４～５を繰り返す

7 「戻る」が選ばれていることを確認し、再生画面に戻るまで決定ボタンを押す

頭出しデータをまとめて削除するには

同じテープから作成した頭出しデータをまとめて削除するには、手順３で「テープ選択」を選んでください。
メモリーカードのなかにある頭出しデータをすべて削除するには、手順３で「すべて」を選んでください。

- SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置にあわせていると、頭出しデータを削除できません（☞P.45）。

頭出しデータを自動的に記録させる

お買い上げ時には、撮影後にナビ書込みボタンを押したときだけ頭出しデータを記録するように設定されています（☞P.98）。撮影時、自動的に頭出しデータを記録させたい場合は、フルオートメニューで設定を変更してください。

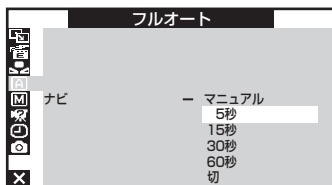
◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：Ⓜ（撮影時は、「撮影」も選べます）

1 メニューボタンを押して、メニューを表示する

2 フルオートメニュー（🄰）の「ナビ」を選ぶ

- メニュー画面の操作（☞P.74）

3 秒数を選び、決定ボタンを押す

• 詳しくは、次の「秒数の選びかた」をご覧ください。

4 撮影画面に戻るまで、決定ボタンを押す

画面上部に「⊡N⊡」マークが表示されます。

• マークが点滅している間は頭出しデータの記録ができません。点灯に変わるまでお待ちください。
• しばらくたってもマークが点滅しているときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください（☞P.44）。

撮影時、頭出しデータが自動的に記録されるようになります。

秒数の選びかた

撮影を開始しても頭出しデータはすぐには記録されず、「頭出しデータを自動的に記録させる」（☞P.101）の手順3で設定した秒数よりも長く撮影したときにだけ記録されます。次の3つの例を参考に、使いかたにあわせて選択してください。

例 1：
どの場面も頭出しできるようにするには

5秒に設定すると比較的短い場面でも頭出しデータが記録されます。そのため、ほとんどの場面をナビ機能で見つけだせます。短い場面をたくさん撮影する場合は、大容量のメモリーカードを使ってください。

例 2：
メモリーカードの容量を節約するには

短い場面をたくさん撮影する場合、すべての場面の頭出しデータがメモリーカードに記録されると、頭出しデータでメモリーカードが一杯になることがあります。60秒に設定すると長さが60秒以上の比較的長い場面の頭出しデータだけが記録され、メモリーカードの容量を節約できます。

例 3：
特定の場面だけ頭出しするには

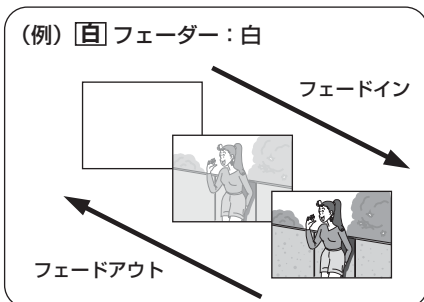
お買い上げ時の設定です。
「マニュアル」の場合、場面の長さに関わらず、撮影停止のあとにナビ書込みボタンを押した場面だけ頭出しデータを記録します。記録する場面を選べるので頭出しデータの数が少なくなり、再生するときに頭出しがより簡単になります。メモリーカードの容量の節約にもなります。

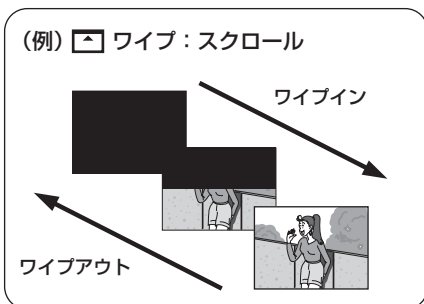
場面の切り替え部に効果を入れる

場面切替の種類 [フェーダー] [ワイプ]

ビデオの場面と場面のつなぎ目に、効果を入れて変化をつけることができます。場面切替の効果は、フェーダー効果とワイプ効果の 2 つに分かれます。

フェーダー効果

撮りはじめは画面が徐々に浮かび上がり (フェードイン)、撮り終わりは徐々に消えていきます (フェードアウト)。

ワイプ効果

撮りはじめは画面がある方向に向かってすべり込むように映し出され (ワイプイン)、撮り終わりは逆の方向に向かって消えていきます (ワイプアウト)。

効果の種類

場面切替には、次の効果があります。

アイコン	モード	効果
—	切	場面切替を使わないときに選択します。
白	フェーダー：白	白い画面でフェードイン、フェードアウトします。
黒	フェーダー：黒	黒い画面でフェードイン、フェードアウトします。
白黒	フェーダー：白黒	白黒画面からカラー画面にフェードインし、カラー画面から白黒画面にフェードアウトします。
	ワイプ：コーナー	黒い画面の右上から左下に向かって映像が徐々にワイプインし、左下から右上に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：ウィンドウ	黒い画面の中央から外に向かって映像が徐々にワイプインし、画面の外から中央に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：スライド	黒い画面の右から左に向かって映像が徐々にワイプインし、左から右に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：ドア	黒い画面の中央から左右にドアを開けるように映像が徐々にワイプインし、閉めるようにワイプアウトします。
	ワイプ：スクロール	黒い画面の下から上に向かって映像が徐々にワイプインし、上から下に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：シャッター	黒い画面の中央から上下に向かって映像が徐々にワイプインし、上下から中央に向かってワイプアウトします。

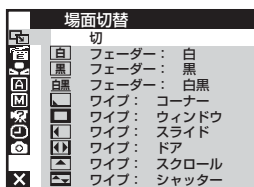
お買い上げ時は、▒ に設定されています。

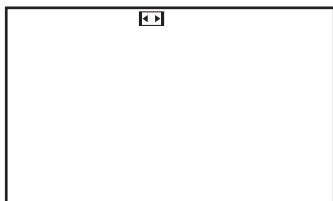
場面切替を設定する

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：M

1 メニューボタンを押して、メニューを表示する

2 場面切替メニュー（ ）でモードを選ぶ

- メニュー画面の操作（☞P.74）

3 決定ボタンを押して撮影画面に戻る

選択したモードのアイコンが画面の上部に表示されます。

映像に選んだ効果をつけて撮影できます。

場面切替の設定を解除するには

手順２で「切」を選んでください。
電源スイッチを「撮影」の位置にあわせると、一時的に場面切替が解除されます。

メモ

- アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は動作しません。
- 場面切替とプログラムAE（☞P.105）を一緒に使うと、さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、プログラムAEと一緒に使えない場面切替があります。
  その場合、場面切替設定アイコンが青く点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

映像に変化をつける［プログラム AE］

プログラム AE の種類

次のプログラム AE を使って、映像に変化をつけて撮影できます。

アイコン	モード	効果
—	**切**	プログラムAEを使わないときに選択します。
1/60	**シャッター 1/60**	シャッタースピードを1/60に固定します。テレビ画面などを撮影するときに出る黒い帯は細くなります。
1/100	**シャッター 1/100**	シャッタースピードを1/100に固定します。蛍光灯や水銀灯の光で撮影するときに出るちらつきは少なくなります。 (50Hz地域のみ)
1/250 1/500 1/1000 1/2000 1/4000	**シャッター 1/250～1/4000** (1/1000～1/4000は、テープのみ)	シャッタースピードを、1/250 から 1/4000 の範囲で選んで固定します。「スポーツ」を選んでお好みの結果が得られなかった場合にお使いください。
	スポーツ (1/250～1/4000)	被写体の明るさにあわせてシャッタースピードを 1/250 から 1/4000 まで自動的に調節して撮影します。スポーツをしている人物やモータースポーツなど、動きの速い被写体を1コマ1コマ鮮明に撮ることができます。
	スノー	晴れた日の雪原など周囲が明るい場所で撮影するときに、被写体を明るく補正することができます。効果としては逆光補正（☞P.92）と同じですが、こちらの方がやや弱い効果になるので逆光補正では効果が強すぎる場合に便利です。
	スポットライト	スポットライトなどがあたって被写体（人物）が明るく写りすぎるときに、被写体を暗く補正することができます。
	夜景	夜景などを撮るとき、映像がザラザラせず、自然な感じで記録することができます。白バランスは☀になりますが、お好みの設定に変えることができます（☞P.96）。 ピントは、10m ～無限遠の間は自動的にあいます。10m 以内の場合は手動であわせてください。
	セピア	古い写真のようなセピア色で映像を記録します。ワイド効果のワイドやシネマ（☞P.79）とあわせて使うと、古い白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
B/W	**白黒**	映像を白黒で記録します。ワイド効果のワイドやシネマとあわせて使うと、白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
	映画効果 (テープのみ)	速いコマ落とし効果をつけて映像を記録します。
	ストロボ (テープのみ)	コマ落としの効果で、連続写真のように記録します。
	ミラー (テープのみ)	画面の左半分に通常の被写体が撮影され、右半分には左右反転した被写体が撮影されます。(☞P.107)

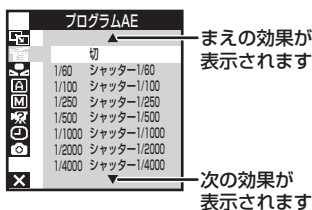
お買い上げ時は、■に設定されています。

プログラム AE を設定する

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオまたはメモリー
- 電源スイッチ　　　：M

1 メニューボタンを押して、メニューを表示する

2 プログラム AE メニュー（）でモードを選ぶ

- メニュー画面の操作（☞P.74）

3 決定ボタンを押して撮影画面に戻る

画面にモードの効果が加えられ、画面の左側にアイコンが表示されます。

映像に選んだ変化をつけて撮影できます。

メモ

- モード選択スイッチが「メモリー」の場合、使えない効果があります。
- アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は使えません（☞P.143）。
- 明るく光っているものや反射の強いものは、縦方向に光のスジが入ることがあります（スミア現象）。スポーツやシャッター（1/250 ～ 1/4000）を選んだ場合は、スミア現象が起こりやすくなります。
- プログラム AE と場面切替（☞P.103）を一緒に使うと、さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、場面切替と一緒には使えないプログラム AE があります。その場合、プログラム AE 設定アイコンが青く点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

プログラム AE の設定を解除するには

手順 2 で「切」を選んでください。
電源スイッチを「撮影」の位置にあわせると、一時的にプログラム AE の設定が解除されます。

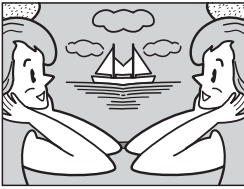
シャッターモードを使うには

シャッタースピードが速くなればなるほど画面が暗くなります（1/60、1/100…1/4000 の順で暗くなります）。できるだけ明るい場所で撮影してください。

スポーツモードを使うには

高速スピードで撮影するために、通常より画面が暗くなります。
明るい場所で撮影してください。

ミラーで被写体が傾く

撮影時のビデオカメラの傾きによって、図のように被写体が傾きます。被写体を平行にするには、撮影時に液晶画面などで確認しながら調整してください。

ビデオカメラが水平の場合

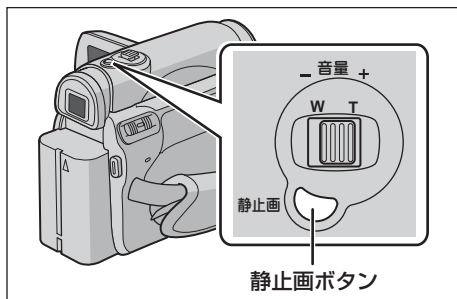
ビデオカメラが右に傾いている場合

4章
メモリーカード

メモリーカードを使った撮影や再生の基本的な手順を説明します。さらに、静止画の一覧表示の方法や、テープからメモリーカードへの画像のコピーなどを説明します。

静止画をメモリーカードに撮影する

◆準備◆

- モード選択スイッチ：メモリー
- 電源スイッチ　　　：撮影または M

1 静止画ボタンを軽く押す（半押し）

画面の上側に黄色のピントアイコン（人）が表示されて点滅し、ピントが自動的に調節されます。

- 撮影を中止するには、半押しの状態から指を離します。

2 人が緑色になったのを確認する

- ピントがあうと、人が緑色になります。

3 そのまま静止画ボタンを押し込む（全押し）

シャッター音がして、静止画が撮影されます。

➡P の矢印が点滅し、メモリーカードに静止画が記録されます。

??

- 静止画の撮影時は、手ぶれ補正機能が働きません。

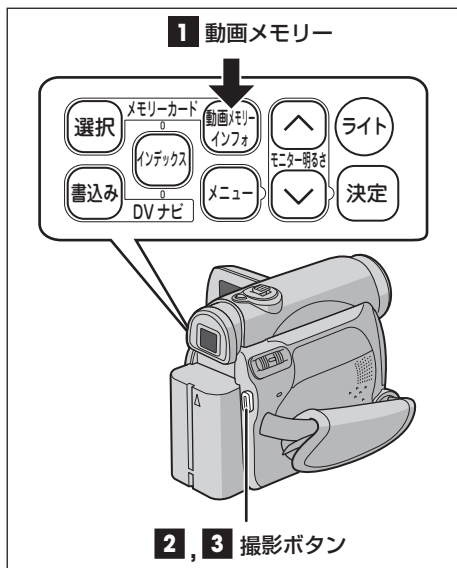
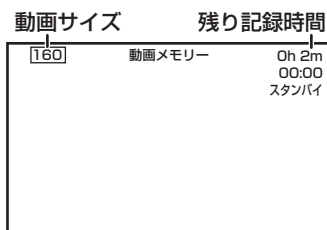
メモ

- 撮影枚数については、「静止画の撮影可能枚数の目安」（☞P.160）をご覧ください。
- 静止画の画質とサイズは、静止画撮影メニューで設定します（☞P.85）。
- 静止画をパソコンに取り込む方法については、『ソフトウェア取扱説明書』をご覧ください。

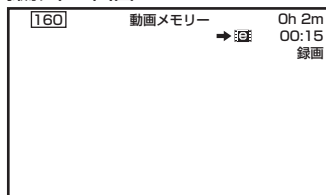
動画をメモリーカードに撮影する

撮影した動画をパソコンに取り込めば、パソコン上で再生したり電子メールに添付して送るなど、いろいろな用途に使えます。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：メモリー
- 電源スイッチ　　　：撮影または Ⓜ

1 動画メモリーボタンを押す

画面上部に動画サイズと残り記録時間が表示されます。

2 撮影ボタンを押し、撮影をはじめる

撮影中の画面

の矢印が点滅し、メモリーカードへの記録をはじめます。

3 撮影をやめるには、もう一度、撮影ボタンを押す

画面に「保存中」と表示され、撮影画面に戻ります。

- 撮影をはじめてから3分たった場合やメモリーカードの残り記録時間がなくなった場合は、自動的に撮影を終了します。

動画撮影の設定を解除するには

手順 3 のあと、もう一度、動画メモリーボタンを押してください。

メモ

- 撮影ごとに最長3分の動画を記録できますが、実際に記録できる時間はメモリーカードの残り記録時間によって異なります。
- 記録可能時間とパソコンで動画を再生する方法については「デジタルスチルカメラ部」(☞P.159) をご覧ください。
- 動画サイズは変更できません。
- 動画をパソコンに取り込む方法については、『ソフトウェア取扱説明書』をご覧ください。

メモリーカードの静止画や動画を再生する

メモリーカードのファイルを一覧表示する

ここでは、メモリーカードの内容を一覧表示したり、ファイル (静止画や動画) の情報を表示したりする方法を説明します。

インデックス画面

メモリーカードの内容を一覧表示します。「静止画」・「動画」のインデックス画面は、再生したい静止画・動画を選ぶときに使います。

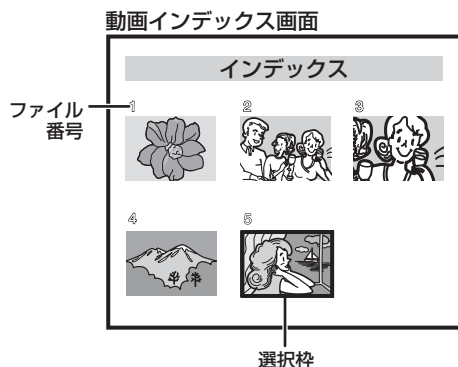
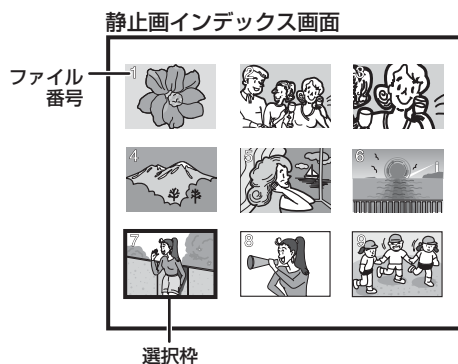
静止画インデックス画面

ファイル番号

選択枠

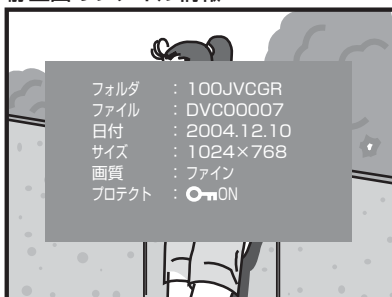
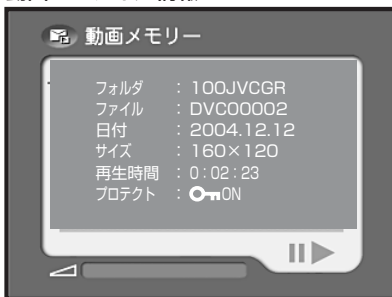
動画インデックス画面

ファイル番号

選択枠

ファイル番号	メモリーカードに記録した順に番号が表示されます。
選択枠	ファイルを選ぶ場合は、上下ボタンでこの枠線を目的の静止画や動画に移動します。

ファイル情報

静止画や動画のファイル情報 (日付や画像サイズなど) を確認できます。

静止画のファイル情報

動画のファイル情報

フォルダ	メモリーカードにあるフォルダ名が表示されます。
ファイル	ファイル名が表示されます
日付	撮影した日付、またはファイルを作成した日付が表示されます。
サイズ	画像サイズが表示されます。

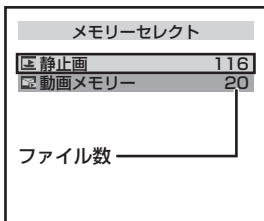
画質 (静止画のみ)	記録した静止画の画質が表示されます。 画質には、画質の良い順に「ファイン」と「スタンダード」の2種類があります(☞P.85)。
再生時間 (動画のみ)	ファイルを再生する場合の再生時間が表示されます
プロテクト	ファイルにプロテクトをかける（間違って削除しないようにする）と、「ON」と表示されます（☞P.118)。

• ほかの機器で撮影した静止画の場合、画質が「－－－」と表示されることがあります。

インデックス画面の表示

◆準備◆

• モード選択スイッチ：メモリー
• 電源スイッチ　　　：再生

1 選択ボタンを押す

メモリーセレクト画面が表示されます。

• 画面の数字は、それぞれのファイル数を表しています。

2 「静止画」または「動画メモリー」を選び、決定ボタンを押す

• 静止画のインデックス画面
　→「静止画」を選ぶ
• 動画のインデックス画面
　→「動画メモリー」を選ぶ

静止画または動画が画面に表示されます。

3 インデックスボタンを押す

インデックス画面が表示されます。

インデックス画面の操作については、「静止画を再生する」(☞P.114) と「動画を再生する」(☞P.114) をご参照ください。

メモ

• はじめから液晶画面に静止画が表示されている場合、静止画のインデックス画面を表示するときは、手順１～２を省略できます。

メモリーカード　4章

静止画を再生する

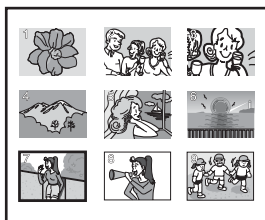
◆準備◆

- モード選択スイッチ :メモリー
- 電源スイッチ :再生

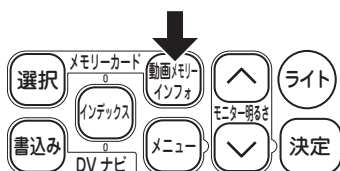
1 静止画のインデックス画面を表示する

- インデックス画面の表示 (☞P.113)

2 上下（∧∨）ボタンで再生する静止画を選び、決定ボタンを押す

- インデックス画面のページを変えるには、「◀◀」「▶▶」ボタンを押します。

選んだ静止画が画面全体に表示されます。

ファイル情報を確認するには

インデックス画面または静止画を表示した状態で、インフォボタンを押します。元の画面に戻るには、もう一度、インフォボタンを押します。

続けて再生するには

静止画を連続して再生するには、手順 2 のあとに次の操作を行います。

連続再生(正方向)	「▶/II」ボタンを押す
連続再生(逆方向)	連続再生中に「◀◀」ボタンを押す
停止	連続再生中に「■」ボタンを押す

メモ

- リモコンでも操作できます (☞P.19)。
- メモリーカードの静止画ファイルはDCF(Design rule for Camera File systems)に対応しています。DCF 対応していない機器との互換性はありません。

動画を再生する

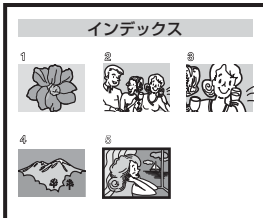
◆準備◆

- モード選択スイッチ :メモリー
- 電源スイッチ :再生

1 動画のインデックス画面を表示する

- インデックス画面の表示 (☞P.113)

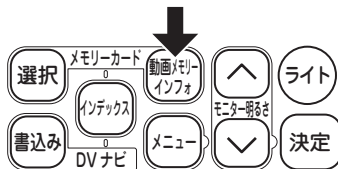
2 **上下（∧∨）ボタンで再生する動画を選び、決定ボタンを押す**

- インデックス画面のページを変えるには、「◀◀」「▶▶」ボタンを押します。

選択した動画が表示されます。

3 **「▶/Ⅱ」ボタンを押して再生する**

- 動画の再生を途中でやめるには、「■」ボタンを押します。

ファイル情報を確認するには

インデックス画面または動画を表示した状態で、インフォボタンを押します。元の画面に戻るには、もう一度、インフォボタンを押します。

再生時に音量を調節するには

動画の再生中に音量スイッチで、スピーカーの音量を調節できます。
- 大きくする→「＋」側へ
- 小さくする→「－」側へ

撮影直後に再生するには

撮ったその場で、ファイル（静止画または動画）を確認できます。

◆準備◆
- モード選択スイッチ：メモリー
- 電源スイッチ　　　：再生

1 **メモリーカードで撮影後、電源スイッチを「再生」の位置にあわせる**

静止画または動画が表示されます。
- 表示するファイルの種類を変更するには、選択ボタンを押します（☞P.113）。

2 **動画の場合は、「▶/Ⅱ」ボタンを押して再生する**

- 動画の再生を途中でやめるには、「■」ボタンを押します。

3 **「◀◀」ボタンを押して、まえのファイルを選ぶ**

- 次のファイルを選ぶには、「▶▶」ボタンを押します。

テープからメモリーカードへコピーする

動画をコピーする

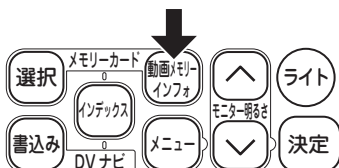
テープの動画からお好みの場面を選び、メモリーカードにコピーします。
コピーした動画をパソコンに取り込めば、パソコン上で再生したり電子メールに添付して送るなど、いろいろな用途に使えます。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：再生

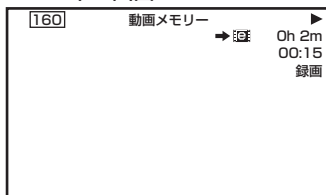
1 テープの動画を再生する

- テープの動画を再生するには (☞P.59)

2 動画メモリーボタンを押す

画面の上部に残り記録時間が表示されます。

- コピーを中止するには、もう一度、動画メモリーボタンを押すか、「■」ボタンを押します。

3 コピーをはじめたい場面で撮影ボタンを押す

コピー中の画面

画面の の矢印が点滅し、「録画」と表示され、テープから動画がコピーされます。

- コピーをはじめてから3分たった場合やメモリーカードの残り記録時間がなくなった場合は、自動的にコピーを終了します。

4 コピーをやめるには、もう一度、撮影ボタンを押す

画面に「保存中」と表示され、手順２の画面に戻ります。

- さらにコピーを続けるには、手順３～４を繰り返します。

動画コピーの設定を解除するには

手順４のあと、動画メモリーボタンまたは「■」ボタンを押してください。

- 動画を記録しているときに、ビデオカメラのスピーカーの音量を変更しても、動画に記録される音量は変化しません。

メモ

- パソコンで動画を再生する方法については「デジタルスチルカメラ部」(☞P.159) をご覧ください。

- メモリーカードにはタイムコードや日時表示などのメッセージ類はコピーされません(☞P.69、84)。
- コピーするときに、映像をセピア色や白黒に変化させることもできます。
  手順３のまえにリモコンを使って再生演出効果を加えてください（☞P.19)。
- 動画をパソコンに取り込む方法については、『ソフトウェア取扱説明書』をご覧ください。

静止画をコピーする

テープの映像からお好みの場面を選び、メモリーカードに静止画としてコピーできます。

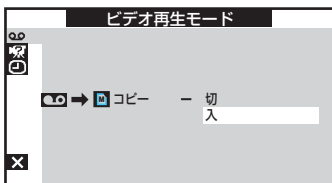
◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：再生

1 メニューボタンを押して、メニューを表示する

2 ビデオ再生モードメニュー（📼）の「📼➡Ⓜコピー」を選ぶ

- メニュー画面の操作（☞P.74)

3 「入」を選び、決定ボタンを押す

4 再生画面に戻るまで、決定ボタンを押す

5 ビデオを再生し、コピーしたい場面で一時停止する

- テープの動画を再生するには（☞P.59)
- 再生中でもコピーできます。

6 静止画ボタンを押す

表示されていた画像がメモリーカードにコピーされ、静止画になります。

メモ

- コピーした画像サイズは640×480ドットになります。
- コピーするときに、映像をセピア色や白黒に変化させることもできます。手順６のまえにリモコンを使って再生演出効果を加えてください（☞P.19)。
- 静止画をパソコンに取り込む方法については、『ソフトウェア取扱説明書』をご覧ください。

メニューの機能と設定

モード選択スイッチを「メモリー」、電源スイッチを「再生」の位置にあわせてメニューボタンを押すと、次のメニューが選べます。

ご注意

- 操作をはじめるまえに、AC アダプターを取りつけることをお勧めします（☞P.64）。
- 操作中はメモリーカードや電源を抜かないでください。ファイルが壊れたり、ビデオカメラが故障する場合があります。安全のため、一部の操作中は電源を切れません。
- 削除やフォーマットを行うと、元に戻せません。操作のまえに内容を確認してください。
- メモリーカードをフォーマットすると、プロテクトしたファイルも消去されます。必要なファイルはパソコンに転送して保存してください。ただし、ファイルが壊れているときは、コピーできないこともあります。

機能	項目	内容
プロテクト 削除できないようにする	**表示ファイル**	表示したファイルをプロテクトする、またはプロテクトをはずす。
	すべてプロテクト	すべてのファイルをプロテクトする。
	すべて解除	すべてのファイルのプロテクトを解除する。
削除 ファイルを削除する	**表示ファイル**	表示したファイルを削除する。
	すべて	すべてのファイルを削除する。
DPOF DPOF を設定する (静止画のみ)	**表示ファイル**	静止画とプリント枚数（最大 15 枚）を指定して印刷する。
	すべて 1 枚	すべての静止画を 1 枚ずつプリントする。
	リセット	すべての静止画のプリント枚数を 0 枚に戻す。
番号リセット ファイル名をリセットする	ー	新たにフォルダを作成し､「0001」からはじまるファイル名（☞P.120）をつけて記録する。これまでの静止画とこれから撮影する静止画の区別がつけやすくなる。
フォーマット メモリーカードを初期化する	ー	メモリーカードのなかにある静止画・動画・頭出しデータをすべて消去する。
画面表示 静止画の再生画面表示を設定する (静止画のみ)	**切**	モード表示( )､フォルダ番号とファイル番号(100-0001 など)、バッテリー表示（ ）の表示や非表示を設定する。
	入	

削除

- ファイルを削除します。ただし、プロテクトしたファイルは削除できません。

DPOF

- DPOF (Digital Print Order Format) 設定で自動プリントの指定ができるのは、メモリーカードに記録された静止画のみです。テープの映像を印刷する場合は、あらかじめメモリーカードへコピーしておいてください (☞P.116)。
- 静止画が 1000 枚以上あると、DPOF 設定を行えません。
- DPOF 対応プリンターを使う場合、DPOF を設定したメモリーカードを入れると選択した静止画だけを自動的に印刷できます。

フォーマット

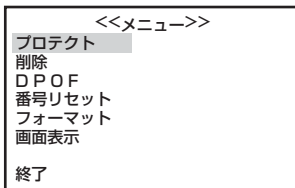
- 万一、一部のファイルが読み書きできなくなったなどの不具合が生じた場合は、メモリーカードをフォーマットすることで機能を回復できることがあります。必要に応じて、フォーマットを行ってください。
- メモリーカードは精密機器です (☞P.150)。フォーマットしても、メモリーカードの機能が回復しない場合は、新しいメモリーカードを購入してください。

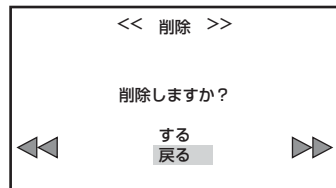
メモ

- SD メモリーカードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置にあわせていると、プロテクト、削除、DPOF、フォーマットを行えません。(☞P.45)

メニュー操作のポイント

メニューでは、上下（∧∨）ボタンで項目を選び、決定ボタンで操作を実行します。

メインメニュー

決定ボタンを押すと、サブメニューを表示します。

サブメニュー

「する」を選び、決定ボタンを押します。「戻る」を選んだ場合は、操作を中止してまえの画面に戻ります。
画面の左右に「◀◀」「▶▶」が表示されている場合は、「◀◀」「▶▶」ボタンでファイルを選びます。

DPOF メニューのみ

この画面では、「00」(枚数) を選んで決定ボタンを押します。右の画面が表示されます。

この画面では、上下 (∧∨) ボタンで枚数を変更し、決定ボタンを押します。

続いて、「戻る」を選んで決定ボタンを押し、「する」を選んで決定ボタンを押します。

ファイル名とフォルダ名について

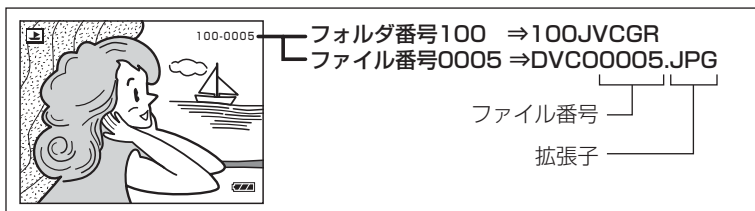
静止画は「DCIM」フォルダの「100JVCGR」フォルダに「.JPG」という拡張子で記録されます。ファイル名は「DVC00001.JPG」「DVC00002.JPG」…の順につけられます。「DVC09999.JPG」を越えると、自動的に新しいフォルダ (例：101JVCGR) が作成され、そのなかに「DVC00001.JPG」として記録されます。
動画は「DCVI」フォルダの「100JVCGR」フォルダに「.ASF」という拡張子で記録されます。ファイル名やフォルダ名のつけかたは、静止画と同じです。

途中の番号の静止画・動画を削除した場合は

削除したファイルの番号は使われません。撮影した最新の静止画・動画は、常にフォルダ内で一番大きな番号を持ったファイル名がつけられます。

ファイル名とフォルダ名を確認するには

インフォボタンを押してファイル情報を表示します (☞P.112)。静止画の場合は、画面右上のフォルダ番号とファイル番号から確認することもできます。

5章
ビデオ編集

撮影したビデオを編集して、個性的な作品に仕上げるための機能について説明します。

■画面の文字や記号

画面の文字や記号が邪魔になる場合は、ビデオカメラの設定を変更して隠すことができます（☞P.62）。

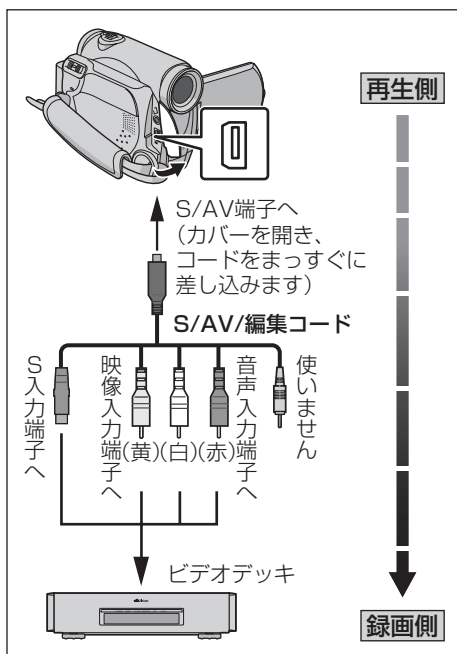
ダビングする

ビデオデッキで録画する [アナログダビング]

ご注意

- 操作をはじめるまえに、ビデオカメラに ACアダプターを取りつけてください（☞P.64）。AC アダプターを使わないと、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ：再生
- 再生日時/表示メニューの「画面表示切替」など：「切」または「モニター」（☞P.84）

1 S/AV/ 編集コードを、ビデオデッキの入力端子とビデオカメラのS/AV 端子に接続する

- S/AV/編集コードの▲マークが、レンズ側になるように接続します。
- ビデオデッキにS入力端子がある場合は、S 入力端子も接続します。この場合、ビデオデッキの映像入力端子（黄）へ接続する必要はありません。
- 必ず、付属のコードをお使いください。

2 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.59）

3 ダビングをはじめたいところで、ビデオデッキの録画ボタンを押す

録画がはじまります。

4 ダビングを終了したいところで、ビデオデッキの停止ボタンを押す

録画が終了します。

メモ

- お使いのビデオデッキの取扱説明書もご覧ください。
- カットしたい映像がある場合は、ビデオデッキの一時停止ボタンを押してダビングを一時停止させ、ダビングしたい場面がテレビや液晶画面に表示されたら録画を再開してください。

ビデオカメラで録画する

◆準備◆

- モード選択スイッチ ：ビデオ
- 電源スイッチ ：再生

1 S/AV/ 編集コードを、ビデオデッキやテレビの出力端子とビデオカメラの S/AV 端子に接続する

- S/AV/編集コードの▲マークが、レンズ側になるように接続します。
- ビデオデッキなどにS出力端子がある場合は、S出力端子も接続します。この場合、ビデオデッキなどの映像出力端子（黄）へ接続する必要はありません。
- 必ず、付属のコードをお使いください。

2 ビデオ再生モードメニュー（📼）の「アナログ入力」を「A/V 入力」または「S 入力」に設定する

- ビデオデッキなどのS出力端子に接続→「S 入力」
- その他→「A/V 入力」
- ビデオ再生モードメニュー（☞P.87）

3 ビデオデッキなどの電源を入れる

- 画面に映像が出ます。

4 ビデオカメラの撮影ボタンを押す

画面に「A/V 入力」または「S 入力」と表示され、録画停止状態になります。

5 ビデオデッキなどでビデオを再生する

6 ダビングをはじめたいところで、撮影ボタンを押す

録画がはじまり、✲ 表示が回転します。

7 ダビングを終了したいところで、撮影ボタンを押す

録画が終了して、✲ 表示の回転が停止します。

8 通常の再生モードに戻るには「■」ボタンを押す

ダビングしたテープを再生するには

電源スイッチを「再生」の位置にあわせ、再生ボタンを押してください。

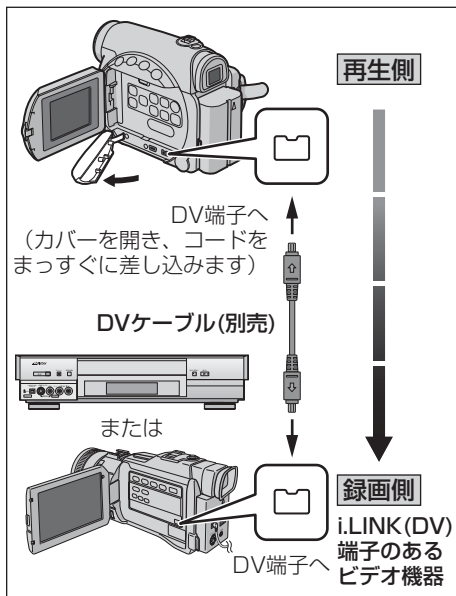
- アナログ入力時、お使いのビデオデッキなどや再生するテープにより、映像が乱れることがあります。
- 「アナログ入力」を「A/V 入力」または「S 入力」に設定したまま再生すると、お使いのビデオデッキなどや再生するテープにより映像が乱れることがあります。

メモ
- お使いのビデオデッキなどの取扱説明書もご覧ください。
- ダビングしたビデオテープをテレビで見るには (☞P.65)。

デジタル機器で録画する [デジタルダビング]

ビデオカメラなど、DV 端子のあるビデオ機器をお持ちの場合、DV ケーブルを使ってダビングできます。デジタル信号でダビングするため、画質と音質はほとんど劣化しません。

ご注意
- 操作をはじめるまえに、ビデオカメラに ACアダプターを取りつけてください (☞P.64)。AC アダプターを使わないと、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。

◆準備◆
- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　：再生
- DV ケーブル（別売：VC-VDV204）

1 DV ケーブルを、ビデオ機器の DV 入力端子とビデオカメラの DV 端子に接続する

2 ビデオカメラでビデオを再生する
- ビデオを再生するには (☞P.59)

3 ダビングをはじめたいところで、ビデオ機器の録画ボタンを押す

録画がはじまります。

4 ダビングを終了したいところで、ビデオ機器の停止ボタンを押す

録画が終了します。

ビデオカメラで録画する

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：再生
- DV ケーブル（別売：VC-VDV204）

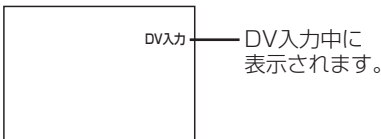
1 DV ケーブルを、ビデオ機器の DV 出力端子とビデオカメラの DV 端子に接続する

- 接続するには（☞P.124）

2 録画モードを選ぶ

- 録画モード（☞P.77）

3 再生側のビデオ機器を再生モードにする

4 ビデオカメラの撮影ボタンを押す

「DV 入力」が表示され、録画停止状態になります。

5 もう一度、撮影ボタンを押す

録画がはじまり、⁜ 表示が回転します。

6 録画を停止するには、撮影ボタンを押す

録画停止状態になり、⁜ 表示の回転が停止します。

7 通常の再生モードに戻るには「■」ボタンを押す

- 再生側が映像の乱れた部分や無記録部分を再生すると、異常な映像が記録されたり、ダビングが停止することがあります。
- ビデオカメラを録画側として使う場合、液晶画面に再生側の映像が表示されないときは、ビデオ再生モードメニューの「アナログ入力」を「切」に設定してください（☞P.87）。

メモ

- お使いのビデオ機器の取扱説明書もご覧ください。
- 再生時に場面切替、再生演出効果、再生ズーム、記念写真、タイムコードを設定していても、DV 端子から出力される映像には、設定が反映されません。
  これらの演出を録画する場合は、S/AV/ 編集コードを使ってダビングしてください（☞P.122）。

編集してダビングする

自動で編集する

撮影済みのビデオからお好みの場面を８つまで選び、ビデオデッキのテープに自動的にダビングできます。次の機能とあわせて使うと、テレビドラマや映画のようなビデオを作成できます。

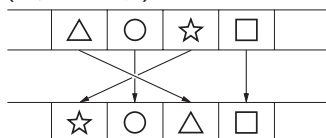
機能	効果	参照
アフレコ編集	ナレーションや音声を追加します。	P.136
場面切替	場面と場面のつなぎ目に効果を加えます。	P.103 P.127 P.132
プログラム AE	映像に変化をつけます。	P.105

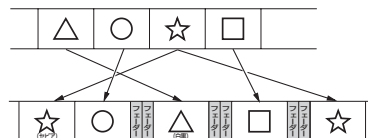
別売のリモコンが必要です

自動編集をするには、別売のリモコン(RM-V717；LY20750-002A) が必要です。最寄りのサービス窓口にてお買い求めください (☞P.156)。

知っておきたい自動編集のしくみ

普通に自動編集した場合

普通に自動編集すると、ビデオは次のようにダビングされます。

効果を入れて自動編集した場合

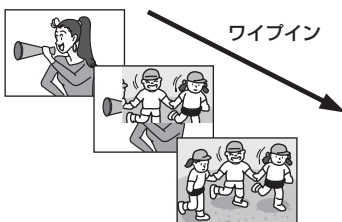
場面切替やプログラム AEの効果を入れて自動編集すると、ビデオは次のようにダビングされます。

自動編集のみで使える場面切替

自動編集では、撮影時に使うことのできる場面切替効果に加えて、場面の終わりに次の場面を重ねる効果も使うことができます。

オーバーラップ

これから録画する映像が、直前に録画した映像から徐々に浮かび上がります。

P のついているワイプ効果

直前に録画した映像に、これから録画する映像をワイプインで重ねてつなぎます。

効果の種類

自動編集では、次の効果を使うことができます。さらに、撮影時と同じ効果も使うことができます（☞P.103、P.105）。

アイコン	モード	効果
P	オーバーラップ	これから録画する映像が、直前に録画した映像から徐々に浮かび上がります。
P	ワイプ：コーナー	これから録画する映像が、直前に録画した映像の右上から左下に向かって徐々にワイプインします。
P	ワイプ:ウィンドウ	これから録画する映像が、直前に録画した映像の中央から外に向かって徐々にワイプインします。
P	ワイプ：スライド	これから録画する映像が、直前に録画した映像の右から左に向かって徐々にワイプインします。
P	ワイプ：ドア	これから録画する映像が、直前に録画した映像の中央から左右にドアを開けるように徐々にワイプインします。
P	ワイプ:スクロール	これから録画する映像が、直前に録画した映像の下から上に徐々にワイプインします。
P	ワイプ:シャッター	これから録画する映像が、直前に録画した映像の中央から上下に徐々にワイプインします。

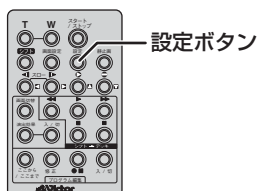
ビデオデッキのメーカーをリモコンに登録する

自動編集をするまえに、ご家庭のビデオデッキのメーカーを別売のリモコン (RM-V717;LY20750-002A)に登録します。

1 ビデオデッキの電源を切る

2 お使いのビデオデッキのメーカー名を確認する

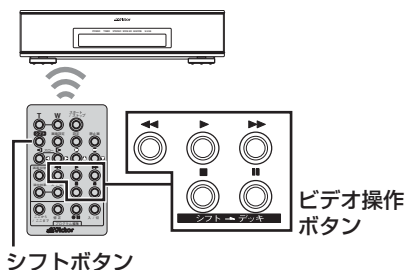
3 「リモコンメーカー設定表」(☞P.129) とメーカー名を対応させる

4 リモコンの設定ボタンを押したまま、設定表の「①」に書かれているボタンを押す

• 設定ボタンを押したまま、「リモコンのボタン 1」を押し、設定ボタンの指を離さずに「リモコンのボタン 2」を押します。

ビデオデッキの電源が入り、登録が完了します。

5 ビデオデッキの電源が入らない場合は、「②」「③」…の組みあわせのボタンを押す

リモコンでビデオデッキを操作するには

シフトボタンを押したまま、各操作ボタンを押します。
ビデオデッキのリモコン受光部に向けて操作してください。

リモコンメーカー設定表

メーカー名	リモコン信号	リモコンのボタン 1	リモコンのボタン 2
ビクター	①	●II (ビデオ準備)	◀◀ (巻き戻し)
	②	●II (ビデオ準備)	■ (停止)
	③	●II (ビデオ準備)	(シフト)
アカイ	①	■ (停止)	▶▶ (早送り)
	②	■ (停止)	▶ (再生)
	③	(ここから / ここまで)	(ここから / ここまで)
サンヨー	①	■ (停止)	▶ (再生)
	②	(シフト)	II (一時停止)
	③	(シフト)	(プログラム編集入 / 切)
	④	(ここから / ここまで)	●II (ビデオ準備)
シャープ	①	◀◀ (巻き戻し)	II (一時停止)
	②	◀◀ (巻き戻し)	(プログラム編集入 / 切)
ソニー	①	■ (停止)	II (一時停止)
	②	■ (停止)	(プログラム編集入 / 切)
	③	(シフト)	●II (ビデオ準備)
	④	(シフト)	◀◀ (巻き戻し)
東芝	①	■ (停止)	●II (ビデオ準備)
	②	■ (停止)	◀◀ (巻き戻し)
NEC	①	(シフト)	(ここから / ここまで)
	②	(シフト)	(修正)
日立	①	■ (停止)	■ (停止)
	②	■ (停止)	(シフト)
フナイ	①	(ここから / ここまで)	(シフト)
松下	①	◀◀ (巻き戻し)	(シフト)
	②	◀◀ (巻き戻し)	(ここから / ここまで)
	③	◀◀ (巻き戻し)	◀◀ (巻き戻し)
	④	●II (ビデオ準備)	▶ (再生)
	⑤	◀◀ (巻き戻し)	(修正)
三菱	①	■ (停止)	(ここから / ここまで)
	②	■ (停止)	(修正)
LG	①	◀◀ (巻き戻し)	◀◀ (巻き戻し)
SAMSUNG	①	●II (ビデオ準備)	▶ (再生)

メモ

- **リモコンの乾電池がなくなった場合は**
  設定したビデオデッキのメーカー設定も消えてしまいます。乾電池を交換してメーカー設定をやり直してください。
- **リモコンでビデオデッキを操作できない場合は**
  機種によっては、リモコンでのビデオデッキのメーカー設定ができないものや、特定のボタンだけ操作できないものもあります。ご了承ください。

好きな場面を選んでダビングする

ビデオから編集したい場面を選び、ビデオデッキのテープへ自動的にダビングします。
場面と場面の間に場面切替の効果を使う方法と、場面にプログラム AE の効果を使う方法については、操作手順のあとで説明しています。自動編集に慣れてからお読みください。

ご注意

- 操作をはじめるまえに、ビデオカメラに ACアダプターを取りつけてください (☞P.64) 。AC アダプターを使わないと、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。

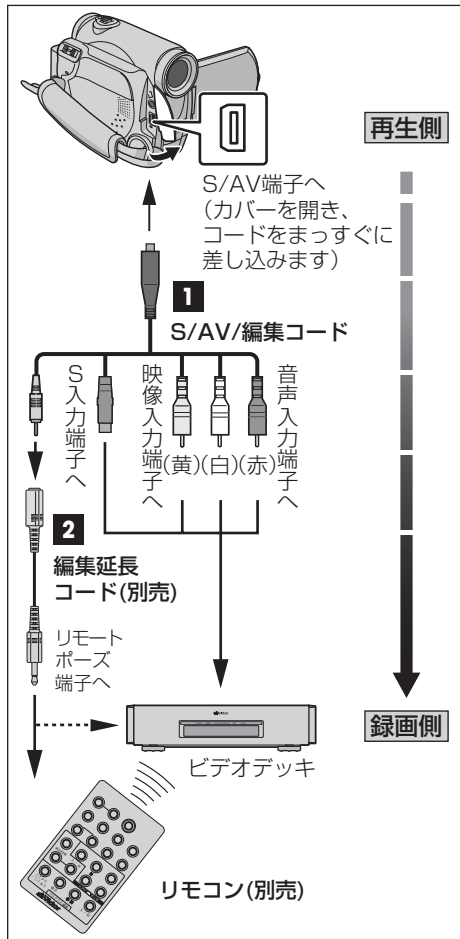
◆準備◆

- モード選択スイッチ :ビデオ
- 電源スイッチ :再生
- 再生日時/表示メニューの「画面表示切替」など :「切」または「モニター」(☞P.84)
- リモコン(別売 : RM-V717 ;LY20750-002A)
- 編集延長コード (別売 : QAM0515-001)

メモ

- S/AV/ 編集コードの編集端子がリモコンなどのリモートポーズ端子へ届かない場合は、編集延長コード (別売) をお使いください。編集延長コードは、最寄りのサービス窓口にてお買い求めください (☞P.156)。

ビクターのリモートポーズ端子つきビデオデッキをお使いのかたへ

S/AV/ 編集コードの編集端子、または編集延長コード (別売) をビデオデッキのリモートポーズ端子に接続してお使いになることができます。
このとき、リモコンには接続しません。

1 S/AV/ 編集コードを、ビデオデッキの入力端子とビデオカメラの S/AV 端子に接続する

- S/AV/編集コードの▲マークが、レンズ側になるように接続します。
- ビデオデッキにS入力端子がある場合は、S 入力端子も接続します。この場合、ビデオデッキの映像入力端子（黄）へ接続する必要はありません。
- 必ず、付属のコードをお使いください。

2 S/AV/ 編集コードの編集端子をリモコンに接続する

- コードの長さがたりないときは、編集延長コード（別売）をお使いください。

3 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.59）

液晶画面とテレビに映像が表示されます。

4 リモコンをビデオカメラのリモコン受光部に向け、「入 / 切」ボタンを押す

液晶画面に自動編集表示画面が表示されます。

- 自動編集表示画面を消すには「入 / 切」ボタンを押してください。

5 ダビングをはじめたい場面で、「ここから / ここまで」ボタンを押す

開始場面のタイムコードが表示されます。

6 ダビングを終了したい場面で、「ここから / ここまで」ボタンを押す

終了場面のタイムコードが表示されます。

7 手順 5 〜 6 を繰り返して、場面を登録する

- 最大 8 つまで登録できます。
- 上の画面は、いくつかの効果を加えた場合の例です（☞P.132）。

8 **ビデオカメラのテープを巻き戻し、最初の場面のタイムコード(例 00:25 よりまえ)付近まできたら一時停止する**

9 **リモコンをビデオデッキのリモコン受光部に向け、「●II」ボタンを押す**

ビデオデッキが録画一時停止の状態になります。

- リモコンで録画一時停止の状態にならないときは、ビデオデッキ本体を操作してください。

10 **リモコンの「スタート / ストップ」ボタンを押す**

自動編集がはじまり、ビデオデッキのテープに映像がダビングされます。ダビングが終わると、ビデオカメラが停止の状態になり、ビデオデッキは録画一時停止の状態になります。

11 **リモコンの「入 / 切」ボタンを押す**

自動編集画面の表示が消えます。

12 **ビデオカメラとビデオデッキを停止する**

自動編集が終了します。

登録した場面を修正するには

リモコンの修正ボタンを押します。ボタンを押すたびに、後ろから登録場面が消去されます。

場面のつなぎ目に効果を加えるには

リモコンの場面切替ボタンを押します。

場面の撮りはじめに変化をつけるには手順5で、場面の撮り終わりに変化をつけるには手順6で、ボタンを押してください。ボタンを押すたびに、液晶画面やテレビに表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンを押してください。フェーダーやワイプを使えます(☞P.103、P.127)。
ただし、デジタルダビングでは変化をつけることはできません。

映像そのものに効果を加えるには

手順6で、リモコンの演出効果ボタンを押します。
ボタンを押すたびに、液晶画面やテレビに表示される効果アイコンが変わります(☞P.105)。
ただし、デジタルダビングでは変化をつけることはできません。

つけた効果を確認するには

つけた効果は、自動編集表示画面で確認することができます。

- 場面のはじめに場面切替を設定した場合は、設定した効果のアイコンがカウンターの左側に表示されます。

- 場面の終わりに場面切替を設定した場合は、設定した効果のアイコンがカウンターの右側に表示されます。
- 場面に再生演出効果を設定した場合は、設定した効果のアイコンが「効果」に表示されます。
- 何も設定していない場合は「－－」が表示されます。

- 同じタイムコード(☞P.69)が2つ以上存在するテープでは、タイムコードを指定しても、どのタイムコードかわからないため誤動作することがあります。
- 編集終了場面のタイムコードの値が編集開始場面の値より小さい場合は自動編集できません。
- 編集終了場面と開始場面までの早送り時間がビデオデッキの一時停止可能時間（ビクター製ビデオデッキの場合約5分以内）を超える場合は、自動編集できません。
- リモコンの「入／切」ボタンを押して「切」にした場合は、自動編集に登録した内容がすべて消えてしまいます。
- 編集開始場面や終了場面の前後に無記録部分がある場合は、ブルーバック（青い画面）を記録してしまうことがあります。
- 自動編集中にビデオカメラを操作すると、ビデオデッキが録画一時停止状態になり、自動編集を中止します。

メモ

- ダビング中、リモコンはビデオデッキのリモコン受光部に向けてください。障害物があるとうまくダビングできません。
- 編集開始場面と終了場面のタイムコードには1秒以下の数値（フレーム）が表示されないため、各場面のタイムコードの時間と合計時間があわないことがあります。
- お使いになるビデオデッキの取扱説明書もご覧ください。

より正確に自動編集する［シンクロ補正］

ビデオデッキには反応の早いものと遅いものがあります。自動編集でビデオカメラの再生とビデオデッキの録画を同時にはじめても、録画開始のタイミングがズレたためにまえの場面が残っていたり、場面の最初が欠けていたりすることがあります。ズレを防ぐには、録画のタイミングをあらかじめ補正します。

録画タイミングのズレを確認する

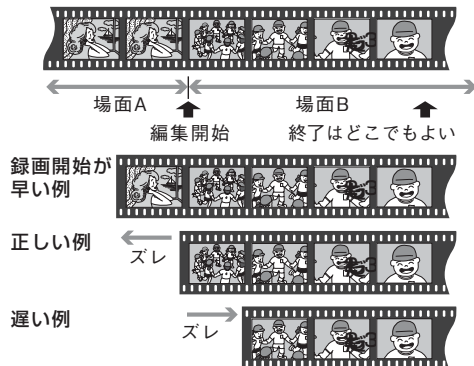
映像の区切りと時間の経過がわかりやすいビデオを用意し、これを自動編集してみます。編集後にビデオデッキのテープを再生して、指定したタイミングからどの程度ズレてダビングがはじまっているかを確認します。

1 場面を1つだけ自動編集する

- 自動編集するには（☞P.126）
- 編集をはじめる場面には、映像の変化がわかりやすいところを選んでください。

正しい例

遅い例

ビデオ編集 5章

2 ビデオデッキのテープを巻き戻し、再生する

3 録画のタイミングのズレ（秒）を確認する

メモ

- 自動編集のテストを数回行って補正値が適切であることを確認してから、最終的な自動編集を行ってください。

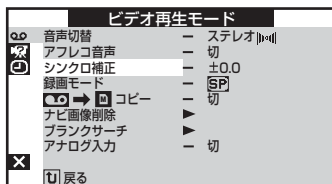
録画タイミングのズレを補正する

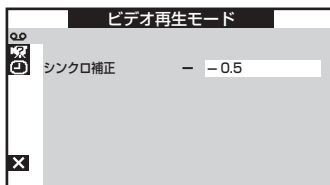
録画のタイミングがズレていた場合は、ビデオカメラでタイミングのズレを補正します。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：再生

1 メニューボタンを押して、メニューを表示する

2 ビデオ再生モードメニュー（）の「シンクロ補正」を選ぶ

- メニュー画面の操作（☞P.74）

3 数値を設定し、決定ボタンを押す

- ビデオデッキの録画開始が
  早い→ －値にする
  遅い→ ＋値にする
  (例) ビデオデッキの録画が 0.5 秒早くはじまっている場合、「∨」ボタンを押して「– 0.5」に設定します。
- 設定範囲は－ 1.3～＋ 1.3 秒です。

4 再生画面に戻るまで、決定ボタンを押す

メモ

- ビデオデッキによっては、録画タイミングのズレを補正しきれないことがあります。ご了承ください。

映像や音声を追加する

映像を追加する [インサート編集]

SP モードで録画したテープに、あとからタイトルなど別の場面を挿入できます。インサート編集を行うまえに、タイトルを書いた紙などを用意してください。

ご注意

- LP モードで撮影したテープ、誤消去防止用ツマミが「SAVE」側になっているテープ、およびテープの無記録部分ではインサート編集できません (☞P.147、150)。画面に「インサート録画できません」と表示されます。

◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ　　　：再生
- 撮影日時 / 表示メニューの「タイムコード」：「入」(☞P.83)
- 再生日時 / 表示メニューの「タイムコード」：「入」(☞P.84)
- リモコン (RM-V720 または RM-V717)

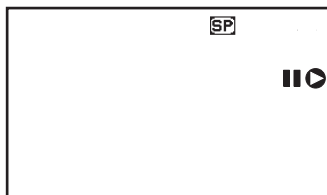
1 ビデオカメラでビデオを再生する

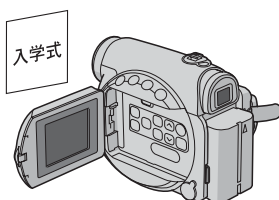
- ビデオを再生するには (☞P.59)

2 インサート編集を終える場面で一時停止する

- 終える場面のタイムコードを確認してください。
- タイムコード表示が出ていない場合は (☞P.84)

3 リモコンの「◀◀」ボタンを押してインサート編集をはじめる場面まで巻き戻し、「❚❚」ボタンを押す

4 「❚❚」ボタンを押したまま、「▶」ボタンを押す

「❚❚▶」アイコンが表示されます。

5 インサートするタイトルなどをビデオカメラに映るようにして、「スタート / ストップ」ボタンまたはビデオカメラの撮影ボタンを押す

6 手順 2 で確認したタイムコードの位置で、「スタート / ストップ」ボタンを押してインサートを終了する

7 「■」ボタンを押して、インサート編集を終了する

挿入する画面にプログラム AE の効果を加えるには

インサート編集を行うまえに、プログラム AE を設定してください (☞P.105)。

メモ

- インサート編集したあとの映像と日時は、新しい映像と日時が上書きされます。

音声を追加する [アフレコ編集]

録画したテープに、あとからナレーションを追加したり、吹き替え音声を録音したりできます。

ご注意

- LPモードで撮影したテープ、または16BITの音声を記録したテープではアフレコ編集できません（☞P.77）。

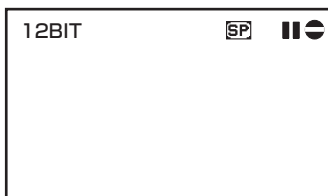
◆準備◆

- モード選択スイッチ：ビデオ
- 電源スイッチ：再生
- リモコン（RM-V720 または RM-V717）

1 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.59）

2 アフレコ編集をしたいところで一時停止する

3 「❚❚」ボタンを押したまま、「⊖」ボタンを押す

「❚❚⊖」アイコンが表示されます。

4 「▶」ボタンを押し、ビデオカメラのマイクに向かって音声を吹き込む

アフレコ編集がはじまり、音声が記録されます。

5 「■」ボタンを押して、アフレコ編集を終了する

別の場面からアフレコ編集を再開するには

リモコンの「❚❚」ボタンを押すと、ビデオが一時停止状態になります。リモコンの「■」ボタンを押してアフレコ編集を終了し、アフレコ編集を再開したい場面を表示させてから編集を再開してください。

外部機器を使ってアフレコ編集するには

外部機器をS/AV 端子に接続して、ビデオ再生モードメニューの「アナログ入力」を「A/V 入力」または「S 入力」に設定してください（☞P.87）。

- テレビから「ピー」「ウワーン」というノイズ音が出る場合は、テレビからビデオカメラを離すか、テレビの音量を下げてください。

アフレコ音声を再生する

アフレコ編集したビデオでは、撮影時の音声とアフレコ時に録音した音声（アフレコ音声）の再生を選択できます。

アフレコ音声の切り替え

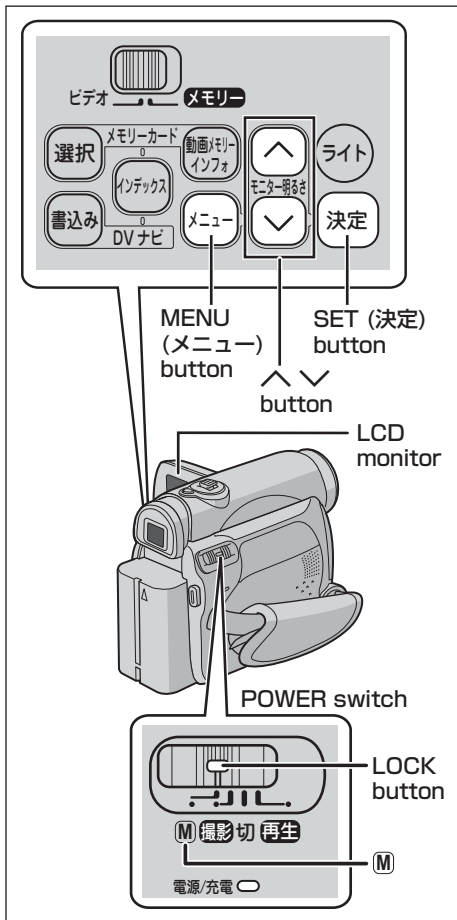
ビデオ再生モードメニューの「アフレコ音声」で、撮影時の音声を再生するか、アフレコ音声を再生するか設定します(☞P.87)。アフレコ音声のみを再生するには、「入」を選んでください。

設定	画面表示	意味
切	12BIT	撮影時の音声のみ
入	12BIT/アフレコ	アフレコ音声のみ
ミックス	12BIT/ミックス	撮影時の音声とアフレコ音声 (同時に再生)

メモ

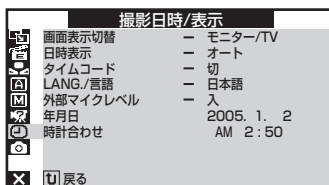
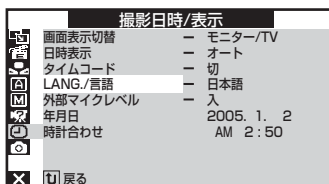
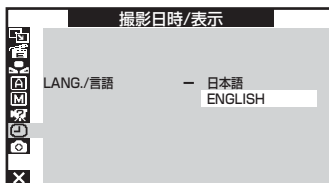
- ビデオカメラは、ビデオの音声モードを自動判別して再生します。ビデオを再生すると、画面の左上端に再生中の音声モードが表示されます。早送り再生中や巻戻し再生中は自動判別できません。

For non-Japanese users

To change the Menu indications etc. to English

1 Open the LCD monitor.

2 Set the POWER switch to "M" while pressing down the LOCK button located on the switch.

3 Press MENU (メニュー) button.

4 Press "∧" or "∨" button to select "🕘" and press SET (決定) button.

5 Press "∧" or "∨" button to select "LANG./ 言語 " and press SET (決定) button.

6 Press "∧" or "∨" button to select "ENGLISH" and press SET (決定) button.

The Menu indication changes to ENGLISH.

7 Press SET (決定) button twice.

The Menu screen closes.

6章 その他

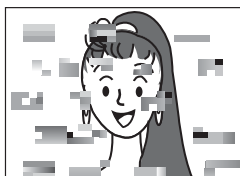
故障かなと思ったときの対処方法や、使用上のご注意、日常のお手入れ、おもな仕様などについて説明します。

故障かな？と思ったら

再生中、映像にノイズが出たり音声が途切れたら

ビデオヘッドが汚れている

ビデオヘッドが汚れると、撮影・再生時に以下の症状が出ます。汚れがひどくなると、正常な録画や再生ができなくなりますので、ビデオヘッドをクリーニングしてください。大切な撮影をする場合は、クリーニングカセットを持ち歩かれることをお勧めします。

- 再生すると映像にモザイク画（ブロック状のノイズ）が出たり、音声が途切れる。
- 再生すると映像に黒色やモザイク画の横しまが出る。
- 再生しても音や映像が出ない。または青い画面になる。
- 撮影時に「⊗クリーニングカセットを試して下さい」と表示される。

ご注意

- **クリーニングカセットの使いかた**
  ミニ DV ヘッドクリーナー（M-DVSCL）を長時間繰り返し再生すると、ヘッド磨耗の原因になりますのでご注意ください。
  ビデオカメラでヘッドクリーナーを再生すると、20 秒後、自動的に再生を停止します。詳しくはヘッドクリーナーの取扱説明をご覧ください。

ミニ DV ヘッドクリーナー
（M-DVSCL）別売

クリーニングが終わったら

撮影・再生して上記の症状が消えていることをお確かめください。

数回、クリーニングしても正常に再生できない

撮影時にビデオヘッドが汚れていたために正常に記録できなかったと考えられます。新たに撮影してみて、正常に再生できれば、ビデオヘッドはきれいになっています。

試し撮りをお勧めします

撮影時、液晶画面やファインダーには記録まえの映像が表示されるため、記録時の映像ノイズや音声の途切れは確認できません。
大切な撮影をする場合は、試し撮りをお勧めします。

定期点検をお勧めします

1ヶ月に1回程度、電源を入れてお使いになることをお勧めします。また、ビデオカメラの性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくために、使用時間およそ1000時間を目安に定期点検に出されることをお勧めします。定期点検は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

症状ごとの対処のしかた

雑音やノイズによる不具合

このビデオカメラでは、マイコンを使っているため雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。そのような場合は、ビデオカメラから電源（バッテリー、AC アダプターなど）をはずし、あらためてお使いください。
それでも不具合があり、以下の処置をしても改善されない場合は、お買い上げ販売店、またはビクターサービス窓口（☞P.156）にご相談ください。

	現象	対処	参照
電源	**電源が入らない**	● 電源コードを正しく接続してください。 ● バッテリーを充電してください。 ● 液晶画面を開くか、ファインダーを引き出してください。	P.64 P.41 P.48
	「日時を設定して下さい」が表示される	● 内蔵の時計用電池がなくなっています。AC アダプターなどの電源を24 時間以上接続したあと、日時を設定してください。	P.83
撮影中	**撮影できない**	● モード選択スイッチを正しく設定してください。 ● テープの誤消去防止用つまみを「REC」側にしてください。 ●「テープ終り」と表示されていませんか？表示されている場合は、テープを交換してください。 ● 電源スイッチを「撮影」または「M」の位置にあわせてください。 ● カセットカバーを閉じてください。	P.51 P.150 P.42 P.48 P.42
	映像が出ない	● 電源をもう一度入れ直してください。	P.48
	メニューの機能が使えない	● 電源スイッチを「M」の位置にあわせてください。	P.48
	自動でピントがあわない	● 電源スイッチを「撮影」の位置にあわせてください。「M」のまま撮影する場合は、フォーカスボタンを押してマニュアルフォーカスを解除してください。 ● 暗いところや明暗差のないものを撮影していませんか？ ● レンズにゴミや水滴などがついていませんか？	P.95 P.90 P.153
	撮影中、液晶画面に日時が出ない	● 撮影日時／表示メニューの「日時表示」を「入」にしてください。	P.83
	撮影中、映像の縦に明るい線が出る	● 強い光の当たる被写体を撮影しませんでしたか？被写体に強い光が当たると、コントラストの違いで線が出ることがあります。故障ではありません。	－
	太陽光が映ると、画面が一瞬赤くなったり、黒くなったりする	● 故障ではありません。	－
	撮影中の被写体が暗い	● 逆光補正ボタンを押してください。	P.92

	現象	対処	参照
撮影中	撮影中の被写体が明るい	● プログラム AE の「スポットライト」を選択してください。 ● 逆光補正を使っている場合は解除してください。 ● 明るさ補正が「＋」側に設定されている場合は、明るさ補正を解除してください。	P.105 P.92 P.94
	撮影中の被写体の色がおかしい	● 照明の色や被写体に白い部分がない場合、または被写体の背後にいろいろな光源がある場合に色がおかしくなるときがあります。白い被写体を画面内に入れて撮影してください。	P.97
	デジタルズームできない	● メモリーカードで撮影する場合、ズームは 10 倍までしか使えません。 ●「ズーム」が「10 倍」に設定されている場合、10 倍までしか使えません。	P.55 P.77
	手ぶれ補正機能が働かない	●「手ぶれ補正」を「入」にしてください。	P.79
	プログラム AE・場面切替が使えない	● 電源スイッチを「Ⓜ」の位置にあわせてください。	P.104 P.106
	場面切替の「フェーダー：白黒」が使えない	● プログラム AE の「セピア」や「白黒」を選択している場合は使えません。	P.105
	白バランスが設定できない	● プログラム AE の「セピア」や「白黒」を選択している場合は使えません。	P.105
	液晶画面の映像が暗い、または白くなる	● 液晶画面の角度や明るさを調節してください。 ● 寒い所でお使いの場合、多少、液晶画面が暗くなります。故障ではありません。 ● 液晶画面の寿命が短くなっている可能性があります。お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。	P.53 P.156
	液晶画面の裏側が熱くなる	● 液晶画面を長時間使っていませんか？長時間使うと、液晶画面裏のバックライトが熱くなります。故障ではありません。液晶画面を切るか電源を切ってしばらく放置しておくと元に戻ります。	−
	液晶画面に表示ムラが出る	● 液晶画面やそのまわりを押しませんでしたか？液晶画面を圧迫すると映像ムラが生じます。手を離してしばらく放置しておくと元に戻ります。	−
	画面のアイコン表示が点滅または消える	● 場面切替・プログラム AE・手ぶれ補正のうち、同時に使えない機能を選択している場合は、各機能のアイコンが点滅または表示されません。	P.103 P.105 P.79
	「露が付きました」と表示される	● メッセージが消えてからお使いください。	P.146
	「クリーニングカセットを試して下さい」と表示される	● 別売のミニ DV ヘッドクリーナーでビデオヘッドを清掃してください。	P.140

	現象	対処	参照
再生中	画面の映像が乱れる	● テープの無記録部分の再生、高速再生、および静止画再生中は画面の映像が乱れることがあります。故障ではありません。	－
	テープの、巻戻し、早送りができない	● 電源スイッチを「再生」の位置にあわせてください。	P.59
	メモリーカードの再生ができない	● モード選択スイッチを「メモリー」、電源スイッチを「再生」の位置にあわせてください。	P.114
	テープは回っているが再生されない	● テレビのチャンネルをビデオ用に設定してください。	P.66
	映像にモザイク状のノイズが出る	● 別売のミニ DV ヘッドクリーナーでビデオヘッドを清掃してください。	P.140
	映像が映らず青い画面になる	● 別売のミニ DV ヘッドクリーナーでビデオヘッドを清掃してください。	P.140
	画面に「E01」または「E02」、「E06」と表示される	● なんらかのエラーが発生しています。この間ビデオカメラは操作できません。バッテリーと電源を取りはずしてつけ直し、表示が消えてからお使いください。2、3回繰り返しても表示が消えない場合は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。また、傷がつきますので、カセットテープは取り出さないでください。	P.156
	画面に「E03」または「E04」と表示される	● なんらかのエラーが発生しています。この間ビデオカメラは操作できません。カセットテープを取り出して入れ直し、表示が消えてからお使いください。2、3回繰り返しても表示が消えない場合は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。	P.156
その他	液晶画面の映像が暗い	● 寒い場所でビデオを再生していませんか？寒い場所では、多少液晶画面が暗く見えます。故障ではありません。 ● 液晶画面の明るさを調節してみてください。	－ P.53
	液晶画面が見にくい	● 直射日光下など周囲が明るいところでは液晶画面が見にくくなります。ファインダーの使用をお勧めします。	P.54
	液晶画面に映像が表示されない	● システムメニューの「優先設定」を「ファインダー」に設定した状態で、ファインダーを引き出していませんか？ ● 液晶画面の明るさを調節してみてください。 ● 液晶画面を180度回転している場合は、液晶画面を一度確実に開いてください。	P.81 P.54 P.53 －
	液晶画面やファインダーに黒い点、赤、青、緑の光る点が出る	● 故障ではありません。	P.149
	充電中にランプが点滅しない	● 低温や高温の環境で充電していませんか？ 許容動作温度の範囲内の環境で充電してください。周囲の温度が低すぎたり高すぎたりすると、バッテリー保護のため充電が中止されることがあります。	P.162
	テープが入らない	● テープの向きを確かめてください。 ● バッテリーの残量を確かめてください。	P.42 P.52
	メモリーカードが入らない	● メモリーカードの向きを確かめてください。	P.44

	現象	対処	参照
その他	**メモリーカードのファイルを削除できない**	● プロテクトを解除してください。	P.118
	通信時エラー表示が出る	● パソコンケーブルを正しく接続してください。 ● ソフトを正しくインストールしてください。	－ －
	DV ケーブルで接続しているとき、操作ができない	● 電源が入った状態で DV ケーブルを抜き差ししませんでしたか？一度電源を切り、接続をやり直してから操作してください。	P.124
	リモコンがきかない	● システムメニューの「リモコン」が「切」になっていませんか？ ● リモコンをビデオカメラのリモコン受光部に向けていますか？ ● 電池が消耗していませんか？	P.81 P.22 －
	ファインダーに映像が表示されない	● システムメニューの「優先設定」を「液晶モニター」に設定した状態で、液晶画面を開いていませんか？	P.81

メッセージが表示されたら

「露が付きました」と表示されたら

よく冷えたビールをコップに注ぐと、コップのまわりに徐々に水滴が付着します。このような状態を「つゆつき」といいます。ビデオカメラでつゆつきが発生すると、心臓部のヘッドドラムのまわりに水滴が付着し、テープが貼りついてしまいます。

つゆつきはこんなときに起こる

- ビデオカメラを寒いところから暖かいところに急に移動した。
- 湿気の多い場所でビデオカメラを使っている。
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷風がビデオカメラに直接当たる。

つゆつきが発生すると

- 液晶画面に「露が付きました」と「しばらくお待ち下さい」が交互に表示され、ビデオカメラが停止します。
  この間、テープの出し入れはしないでください。
- 通常、つゆつきは徐々に発生するため、10 ～ 15 分間はメッセージが表示されないことがあります。メッセージが表示されるまえでもレンズや保護ガラスに水滴がついている場合は、ヘッドドラムにも水滴が付着している可能性があります。カセットカバーを開けないでください。
- つゆつきはレンズの内側にも発生します。レンズに水滴が付着しているときれいに撮影できませんので、つゆつきがなくなってから撮影してください。

再び使いはじめるには

メッセージが消えてからお使いください。メッセージが消えない場合は点検が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。
寒冷地帯ではつゆが凍結し、霜になることがあります。寒冷地帯ではメッセージが消えるまでに、さらに時間がかかることがあります。

つゆつきのトラブルを防ぐには

寒いところから暖かいところ、冷風の効いたところから温度、湿度の高い場所に移動した場合は、ビデオカメラとテープをしばらく放置して、環境になじませてからお使いください。
例えばスキー場で撮影後、暖房の効いた部屋に入る場合は、ビニール袋などにビデオカメラを入れて空気が入らないように密封し、しばらくその状態で室温になじませてからお使いください。

メッセージごとの対処のしかた

メッセージ	対処	参照
E01、E02、E06 保護回路が働きました バッテリーを外して付け直して下さい	バッテリーと電源をはずして、つけ直してください。 動作させて同じメッセージが表示されなければ問題ありません。	P.39 P.41
E03、E04 保護回路が働きました テープを取り出し入れ直して下さい	テープを取り出して、入れ直してください。 動作させて同じメッセージが表示されなければ問題ありません。	P.42
露が付きました しばらくお待ち下さい	1 時間以上待ってください。	P.146
クリーニングカセットを試して下さい	クリーニングカセットをお使いください。	P.140
レンズキャップ	レンズキャップを取りはずしてください。 LED ライトを点灯してください。	P.46 P.90
インサート録画できません	モード選択スイッチを「ビデオ」の位置にあわせてください。 テープのツマミが「REC」側になっていることを確認してください。 「録画モード」を「SP」にして撮影したテープに交換してください。	P.51 P.150 P.135
音声 16BIT（12BIT）	撮影時の音声モードを表示しています。	P.77
音声アフレコできません	テープのツマミが「REC」側になっていることを確認してください。 「録画モード」を「SP」、「音声モード」を「12BIT」にして撮影したテープに交換してください。	P.150 P.136
メモリーカードエラー	メモリーカードを入れ直してください。 メモリーカードを初期化してください。	P.44 P.118
静止画（動画）がありません	メモリーカードに静止画、または動画を記録してください。	P.110
ナビできません	このビデオカメラで録画したテープを入れてください。	P.99
テープへ記録できません テープの誤消去防止ツマミを確認して下さい	テープのツマミを「REC」側にしてください。	P.150
コピーガードがかかっています	コピーガードのかかっていないテープに交換してください。	P.150
未対応のファイルです	ほかの機器で再生してください。このビデオカメラで再生できない形式のファイルです。	－
しばらくお待ち下さい	しばらくお待ちください。	－
テープ終り	テープを交換するか、巻き戻してください。	P.42
テープを入れて下さい	テープを入れてください。	P.42
日時を設定して下さい	日時を設定し直してください。	P.83
メモリー容量がありません	メモリーカードを交換するか、ファイルを削除してください。	P.44 P.118

メッセージ	対処	参照
メモリーカードへ記録できません	メモリーカードを交換するか、ファイルを削除してください。 SD メモリーカードのライトプロテクトをはずしてください。	P.44 P.118 P.45
メモリーカードを入れてください	メモリーカードを入れてください。	P.44
メモリーカードをフォーマットして下さい	メモリーカードを初期化（フォーマット）してください。	P.118
ライトプロテクトがかかっています	メモリーカードを交換するか、SD メモリーカードのライトプロテクトをはずしてください。	P.44 P.45
プロテクトがかかっています	ファイルのプロテクトをはずしてください。	P.118
このメモリーカードではできません **ナビ画像がありません**	テープを撮影したときに入れていたメモリーカードに交換してください。	P.44 P.99
ナビできません **検出できませんでした**	このビデオカメラで録画したテープを入れてください。	P.42 P.98
バッテリー残量がありません	AC アダプターを接続してください。	P.64
撮影中は変更できません	テープへの撮影をいったん停止してから操作してください。	P.56
撮影を一時停止しナビ書込みボタンを押してください	録画を一時停止してから、ナビ書込みボタンを押してください。	P.98

使用上のご注意

ビデオカメラについて

■この製品は DV 方式のデジタルビデオカメラです。
従来式のビデオ、および DV 方式以外のデジタルビデオとは互換性がありません。

■電源（バッテリーや AC アダプター）をはずすときは、必ず電源スイッチが「切」の位置にあっていることを確認してください。
ビデオカメラの動作中に電源をはずすと、テープやメモリーカードを傷めたり誤動作の原因になります。

■長時間使わない場合は、電源スイッチを「切」の位置にあわせてください。
長時間電源を入れたままにしておくと、ビデオカメラの表面が温かくなります。

■ビデオカメラを保管する場合は、カセットテープを取り出し、電源を切り、バッテリーを取りはずしてください。
ときどき電源を入れて動作を点検してください。

液晶画面について

■表面を強く押したり強い衝撃を与えないでください。
傷がついたり割れたりして故障の原因となることがあります。

■小さな光る点や黒い点が出ることがあります。
ファインダーや液晶画面には 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01% 以下の小さな光る点（赤、青、緑）や黒い点が出ることがあります。故障ではありません。これらはテープやメモリーカードには記録されません。

時計用電池について

日時を記憶するために充電式の電池が内蔵されています。ビデオカメラに、バッテリーや AC アダプターなどの電源を接続すると常に充電されますが、お買い上げ時や、約 3ヵ月間使わずに保管していると電池が放電され、日時が消えてしまうことがあります。
このような場合は、AC アダプターなどの電源を 24 時間以上接続してください。電源の入／切に関係なく電池が充電されますので、日時をあわせてビデオカメラをお使いください (☞P.83)。日時をあわせなくても、ビデオカメラで撮影できます。

テープおよびメモリーカードについて

■ **この製品は DV 方式のデジタルビデオカメラです。また、デジタルスチルカメラとしてもお使いになれます。**

MiniDV マークのついたデジタルビデオカセットテープをお使いください。

SD マーク、または *MultiMediaCard* マークのついたメモリーカードをお使いください。

■ **大切な録画を消してしまわないように注意してください。**

保管しておきたい録画済みテープは、背面のツマミを「SAVE」の矢印方向に引いてください (ツマミを「REC」の方向に引くと、再び録画できます)。

■ **事前に試し撮りをしてください。**

大切な録画をする場合は、事前に試し撮りを行い、正常に録画、録音されていることをご確認ください。

■ **内容の補償についてはご容赦ください。**

万一、ビデオカメラ、テープおよびメモリーカードなどの不具合により正常に録画、録音や再生ができなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ **権利者に無断で使用できません。**

あなたがビデオカメラで録画、録音したビデオは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■ **撮影を制限している場所があります。**

鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。

■ **モザイク状のノイズが出る場合があります。**

LP モードで録画されたテープは、ほかの LP モードのあるデジタルビデオで再生した場合、モザイク状のノイズが出ることがあります。また、LP モードのないデジタルビデオでは正常に再生できません。

■ **テープおよびメモリーカードは湿気が少なく風通しのよい、カビの発生しない場所に保管してください。**

■ **メモリーカードは精密機器です。曲げたり、落としたり、強い力、衝撃、振動を与えないでください。**

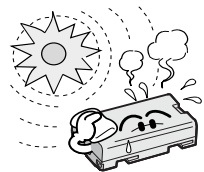
バッテリー（充電式電池）をご活用いただくために

■リチウムイオンバッテリーの特性をご理解ください。

リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーです。しかし、冬場の屋外などの低温（10℃以下）でバッテリーが冷えている場合、バッテリーの使用時間が短くなる特性があり、動作しないことがあります。このような場合は、バッテリーをポケットに入れるなどして温かくし、撮影まえにビデオカメラに取りつけてください。
カイロなどをお使いになっている場合は、カイロが直接バッテリーにふれないようにご注意ください。

■リチウムイオンバッテリーの保管にご理解ください。

充電された状態で長期間保管すると、特性が劣化することがあります。
長期間保管する場合は、あらかじめ次の操作でバッテリーを使いきってください。
①テープを入れずに、電源スイッチを「撮影」または「Ⓜ」の位置にあわせる
②ビデオカメラの電源が自動的に切れるまで待ってから、バッテリーを取りはずす

- 長期間保管する場合は、半年に１回程度充電し、再び使いきってから保管してください。
- ビデオカメラを使わないときは、必ずバッテリーをビデオカメラから取りはずしてください。
  取りつけたままにしておくと、電源が切れていても微量の電流が流れていますので、バッテリー残量が少なくなります。
- ビデオカメラから取りはずしたバッテリーには、バッテリーキャップを取りつけてください。
- 涼しい所で保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥した所をお勧めします。
- 暑い所や極端に寒い所は避けてください。

リチウムイオンバッテリー（充電式電池）のリサイクルについて

**美しい環境維持にあなたも一役。リサイクルに協力しましょう。
ご使用済みの電池は廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。**

安全のため、充電式電池にはバッテリーキャップを取り つけるか、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店に関するお問いあわせ先
小形二次電池再資源化推進センターホームページ　http://www.jbrc.com/

ホームページがご覧になれない場合は、裏表紙のお客様ご相談センターにお問いあわせください。

日常のお手入れ

ビデオカメラの汚れを取る

バッテリー、AC アダプターまたは電源プラグをはずして電源を切ってから、次のようにお手入れしてください。

- 汚れを乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
- 汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布を浸し、固く絞ってから汚れを拭きます。そのあと、乾いた布で水分を拭き取ってください。

ご注意

- ベンジンやシンナーは使わないでください。損傷や故障の原因になります。
- 化学ぞうきんや洗剤をお使いになる場合は、お使いになる製品の注意書きに従ってください。
- ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。

レンズや液晶画面の汚れを取る

レンズの汚れを取るには

市販のレンズブロワーでほこりを落とし、市販のクリーニングクロス、または市販のレンズクリーニングペーパーなどで汚れを落としてください。汚れたまま放置しておくと、カビなどが発生することがあります。

液晶画面の汚れを取るには

市販のレンズブロワーでホコリを落とし、市販のクリーニングクロスなどで汚れを落としてください。

保証とアフターサービス

保証書 (別途添付しています)

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。受け取った保証書は、内容をよくご覧のうえ、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ビクターでは、デジタルビデオカメラの補修用性能部品を、製造打ち切り後、最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口 (☞P.156) にお問いあわせください。

修理を依頼される場合 (持込修理)

ご依頼のまえに、P.140 ～ 148 に従ってお調べください。なお異常のある場合は、電源を切り、必ずバッテリーまたは AC アダプターを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
ビデオカメラ、テープなどの万一の不具合により、正常に録画・録音・再生ができない場合、内容の補償についてはご容赦ください。

ご連絡していただきたい内容

品　名	デジタルビデオカメラ
型　名	GR-D230
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	
お名前	
電話番号	(　)　－

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店にて修理させていただきます。

保証期間が過ぎている場合は

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料修理させていただきます。

愛情点検 ●長年お使いのビデオカメラの点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか	●再生しても映像や音声が出ない ●異常な臭いや音がする ●水や異物が入った ●その他の異常や故障がある

➡

ご使用を中止	故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検をご相談ください。

海外でお使いになるときは

ビデオカメラを海外で使う

AC アダプターを使ってバッテリーを充電したり、コンセントから直接電源を確保できます。ただし、コンセントの形状は国によって異なります。訪問国のコンセントにあった変換プラグをご用意ください。詳細は旅行代理店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

現地のテレビで再生画像を見る

NTSC 方式の映像・音声入力端子つきテレビが必要です。NTSC 方式を採用している国、および地域は以下のとおりです。

●アメリカ合衆国
●プエルトリコ
●バルバドス
●キューバ
●フィリピン
●チリ
●コロンビア
●台湾
●バミューダ
●バハマ
●カナダ
●米領サモア
●韓国
●コスタリカ
●メキシコ
●ニカラグア
●パナマ
●エルサルバドル
●ペルー
●グアム
●グァテマラ
●ミクロネシア
●スリナム
●ハイチ
●エクアドル
●ベネズエラ
●ミャンマー
●ボリビア
●ホンジュラス
●ドミニカ
●トリニダード･トバコ

再生できるテープは

日本と同じ NTSC 方式で撮影したミニ DV テープが再生できます。

海外で故障したときは

サービス窓口案内（☞P.156）の「海外主要都市でのビデオムービーご相談窓口」にご相談ください。日本語での対応ができない窓口もあります。海外では日本の保証書は適用されません。
その他の地域に関しては、日本にお持ち帰りになった後、お買い上げ販売店にご相談ください。

サービス窓口案内

ビクターサービス窓口案内

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご用命ください

ご贈答品等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、機種名をご確認の上、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

●修理についてのご相談窓口

ビクターサービスエンジニアリング株式会社

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東五条1丁目2-29
	旭川S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路S.S.	(0154)24-0797	085-0005	釧路市松浦町3-3
	帯広S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東6条南12-11
	函館S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北				
青森	青森S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわきS.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101号
	福島S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	新潟S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越S.S.	(025)545-1734	942-0081	上越市五智1-11-2
長野	長野S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	前橋S.C.	(027)255-5921	371-8543	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター㈱ 前橋工場第2棟1F
栃木	宇都宮S.C.	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸S.C.	(029)246-1560	310-8528	水戸市元吉田町1030 日本ビクター㈱ 水戸工場技術棟1F
	土浦S.S.	(029)821-8756	300-0813	土浦市富士崎1丁目10-1
山梨	甲府S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉				
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	**(03)5803-2888**	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏S.C.	(04)7175-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京				
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	**(03)5803-2888**	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷S.C.	(03)5684-8254	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原S.S.	(03)3251-2128	101-0021	東京都千代田区外神田1-6-6
	練馬S.C.	(03)3993-7520	176-0014	東京都練馬区豊玉南1-19-1
	大田S.C.	(03)3727-9385	145-0062	東京都大田区北千束2-20-6
	八王子S.C.	(0426)46-6914	192-0045	東京都八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	CSセンター	(03)3874-5231	110-0003	東京都台東区根岸5-4-3
埼玉				
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	**(03)5803-2888**	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮S.C.	(048)654-5241	331-0814	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川				
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	**(03)5803-2888**	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4
	横浜T.C.	(046)234-4500	243-0401	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
静岡				
静岡	静岡S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31 中田ビル1階
	沼津S.S.	(055)922-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
東海・北陸				
愛知	名古屋S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市柱曙3-10-12
	豊橋S.S.	(0532)64-0815	440-0028	豊橋市多米東町1丁目1-1
岐阜	岐阜S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町4丁目1-3
石川	金沢S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本4丁目65-17
福井	福井S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0401

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
		近畿		
滋賀	滋賀S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	**(06)6304-5731**	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31番地の1
京都北部	福知山S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	**(06)6304-5731**	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良S.C.	(0742)35-0935	630-8115	奈良市大宮町六丁目3-10 藤本ビル1階
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	**(06)6304-5731**	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺S.C.	(072)254-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	**(06)6304-5731**	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
		中国		
岡山	岡山S.C.	(086)243-1566	700-0926	岡山市西古松西町8-23
広島	広島S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山S.S.	(084)931-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山S.S.	(0834)27-1331	745-0042	周南市野上町2-35
	下関S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
		四国		
香川	高松S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知S.S.	(088)882-0546	781-8122	高知市高須新町4-1-43
愛媛	松山S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
		九州・沖縄		
福岡 佐賀	福岡S.C.	(092)431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米S.S.	(0942)39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保S.S.	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分S.C.	(097)543-1422	870-0822	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見8-1-10
宮崎	宮崎S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡S.S.	(0982)35-7077	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上7丁目9-8
沖縄	沖縄S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16
		山陰		
山陰ビクター販売（株）				
島根	松江S.C.	(0852)31-8900	690-0825	松江市学園1丁目16-39
鳥取	鳥取S.S.	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1

●海外主要都市でのビデオムービーご相談窓口

カナダ　**JVC CANADA INC.**
・トロント　〔416-293-1311〕
21 Finchdene Square, Scarborough, Ontario, M1X 1A7

アメリカ　**JVC SERVICE & ENGINEERING COMPANY OF AMERICA**
・ロサンゼルス　〔714-229-8011〕
5665 Corporate Avenue Cypress, CA 90630-0024
・ニュージャージー　〔973-396-1000〕
10 New Maple Avenue, Pine Brook, NJ 07058-9641
・ホノルル　〔808-833-5828〕
2969 Mapunapuna Place, SUITE 105, Honolulu, HI 96819-2040

イギリス　**JVC (U.K.)LTD.**
・ロンドン　〔020-8450-3282〕
JVC House, JVC Business Park, Priestley Way, London, NW2 7BA

フランス　**JVC FRANCE S.A.S.**
・パリ　〔0825-800-811〕
BP50, 78422 Carrieres Sur Seine Cedex, FRANCE

シンガポール　**JVC ASIA PTE. LTD.**
・シンガポール　〔6255-8155〕
31Kaki Bukit Road 3, #06-18 Techlink, Singapore 417818

（注）・その他の地域に関しては、おでかけの前にお客様ご相談センターにご相談ください。
・海外では日本の保証書は適用されません。
・日本語での対応はできないサービスセンターもございます。

おもな仕様

一般

項　目	仕　様
電源	DC 11 V（AC アダプター使用時）、DC 7.2 V（バッテリー使用時）
消費電力	3.3 W（ファインダー使用時）、4.1 W（液晶画面使用時） 3.6 W(ファインダー＋ LED ライト使用時)、4.4 W(液晶画面＋ LED ライト使用時)
外形寸法	62 mm × 96 mm × 110 mm（幅×高さ×奥行き）（レンズリング含まず）
質量	本体質量　　約 460 g 撮影時質量　約 550 g（バッテリー BN-V408-H、60 分テープ、メモリーカード、レンズキャップ含む）
許容動作温度	0 ℃～ 40 ℃
許容相対湿度	35 %～ 80 %
許容保存温度	－ 20 ℃～ 50 ℃

カメラ部

項　目	仕　様
撮像素子	1/4 型 133 万画素 CCD 撮像エリア　69 万画素（ビデオ時）、125 万画素（静止画時）
レンズ	F1.8 ～ 2.4 *f* = 3.8 mm ～ 38 mm （35 mm カメラ換算：ビデオ時：49 mm ～ 490 mm 静止画時：36.7 mm ～ 367 mm）
フィルター径※	27 mm（ネジピッチ 0.5 mm）
ズーム倍率	光学 10 倍、最大 200 倍（デジタル使用）
最低照度	15 ルクス（ナイトアイ時：約 1 ルクス）

※コンバージョンレンズや各種フィルターを取りつけるときは、レンズリングを取りはずしてください。

液晶画面／ファインダー部

項　目	仕　様
液晶画面	2.5 型、12.3 万画素　ポリシリコンカラー液晶
ファインダー	0.3 型、12.3 万画素　ポリシリコンカラー液晶

撮影・再生時の仕様

	項　　目	仕　　様
再生	拡大再生	20 倍まで
撮影	ズーム撮影	10 倍まで（光学ズーム）、200 倍まで（デジタルズーム）

デジタルビデオカメラ部

項　　目	仕　　様
録画／再生方式	DV 方式（SD 仕様） 映像：デジタルコンポーネント記録 音声：PCM デジタル記録、32 kHz 4 チャンネル（12BIT）、 48 kHz 2 チャンネル（16BIT）、44.1 kHz（再生のみ）
信号方式	NTSC 日米標準信号方式
使用カセット	ミニ DV カセット
録画／再生時間	SP モード：80 分、LP モード：120 分（80 分テープ使用時）
早送り／巻き戻し時間	約 3 分（60 分テープ使用時）

デジタルスチルカメラ部

項　　目		仕　　様
記憶メディア		SD メモリーカード、マルチメディアカード
圧縮方式	静止画	JPEG 準拠
	動画	MPEG4（ASF 形式）準拠
画像サイズ	静止画	1600 × 1200 ドット 1280 × 960 ドット 1024 × 768 ドット 640 × 480 ドット
	動画	160 × 120 ドット
静止画画質		2 モード（ファイン／スタンダード）

メモ

- パソコンで動画ファイルを再生する場合は、Windows Media™ Player（Windows 版、Macintosh 版ともに Ver6.4 以降）をお使いください。詳しくは、『ソフトウェア取扱説明書』をご覧ください。
- Windows Media™ は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

静止画の撮影可能枚数の目安

画像サイズ	画質モード	マルチメディアカード		SD メモリーカード			
		16MB (別売)	32MB (市販)	8MB (付属)	16MB (市販)	32MB (市販)	64MB (市販)
640×480	ファイン	約 105 枚	約 215 枚	約 47 枚	約 95 枚	約 205 枚	約 425 枚
	スタンダード	約 320 枚	約 645 枚	約 160 枚	約 295 枚	約 625 枚	約 1285 枚
1024×768	ファイン	約 50 枚	約 100 枚	約 21 枚	約 47 枚	約 95 枚	約 200 枚
	スタンダード	約 160 枚	約 320 枚	約 65 枚	約 145 枚	約 310 枚	約 640 枚
1280×960	ファイン	約 32 枚	約 60 枚	約 13 枚	約 29 枚	約 60 枚	約 125 枚
	スタンダード	約 105 枚	約 215 枚	約 45 枚	約 95 枚	約 205 枚	約 425 枚
1600×1200	ファイン	約 21 枚	約 42 枚	約 8 枚	約 19 枚	約 41 枚	約 80 枚
	スタンダード	約 65 枚	約 135 枚	約 28 枚	約 60 枚	約 130 枚	約 275 枚

動画の記録可能時間の目安

マルチメディアカード		SD メモリーカード			
16MB (別売)	32MB (市販)	8MB (付属)	16MB (市販)	32MB (市販)	64MB (市販)
約 17 分	約 34 分	約 7 分	約 15 分	約 33 分	約 68 分

メモ

- 撮影可能枚数と記録可能時間は、メモリーカードの購入時のものです。ナビの頭出しデータなどを記録すると、減少することがあります。
- ナビ機能を使った場合やメモリーカードに動画や静止画を記録した場合は、撮影枚数や記録時間が減少します。

端子部

項　目	仕　様
DV 端子	4 ピン（i.LINK/IEEE1394 準拠）
S/AV 端子	S2 映像端子 アナログ入力（Y:0.8 V (p-p) ～ 1.2 V (p-p)、75 Ω　C:0.2 V (p-p) ～ 0.4 V (p-p)、75 Ω） アナログ出力（Y:1.0 V (p-p)、75 Ω　C:0.29 V (p-p)、75 Ω） 映像端子 アナログ入力（0.8 V (p-p) ～ 1.2 V (p-p)、75 Ω） アナログ出力（1.0 V (p-p)、75 Ω） 音声端子 ステレオ／アナログ入力（300 mV（rms)、50 kΩ） ステレオ／アナログ出力（300 mV（rms)、1 kΩ） 編集端子
USB 端子	ミニ USB-B タイプ
マイク端子	φ3.5 mm ミニジャック（ステレオ）

LED ライト

項　目	仕　様
推奨撮影距離	1.5 m 以下

AC アダプター（AP-V14）

項　目	仕　様
電源	AC 100 V − 240 V、50 Hz ／ 60 Hz
入力容量	23 VA（100V)、31 VA（240 V）
出力	DC 11 V、1 A
許容動作温度	0 ℃～ 40 ℃（充電時は 10 ℃～ 35 ℃）
外形寸法	50 mm × 27 mm × 71 mm（幅×高さ×奥行き） （コード、AC プラグ含まず）
質量	約 100 g

リモコン（RM-V720）

項　　目	仕　　様
電源	DC 3 V（ボタン電池　CR2025）
電池寿命	約 1 年（使用頻度によりかわります。）
動作距離	約 5 m（正面軸上）
許容動作温度	0 ℃〜 40 ℃
外形寸法	45 mm × 11 mm × 105 mm（幅×高さ×奥行き）
質量	約 40 g（ボタン電池含む）

バッテリー（BN-V408-H）

項　　目	仕　　様
電圧	DC 7.2 V
容量	800 mAh
外形寸法	38 mm × 22 mm × 55 mm（幅×高さ×奥行き）
質量	約 60 g

充電時間の目安

室温 10 ℃〜 35 ℃の範囲を想定しています。

バッテリー	時　　間
BN-V408-H	約 1 時間 30 分
BN-V416 ／ BN-V416-H（別売）	約 3 時間
BN-V428（別売）	約 5 時間
BN-V438（別売）	約 6 時間 30 分

実撮影時間の目安

バッテリー	ファインダー使用時	液晶画面使用時
BN-V408-H	約 50 分	約 40 分
BN-V416 ／BN-V416-H (別売)	約 1 時間 35 分	約 1 時間 20 分
BN-V428（別売)	約 2 時間 55 分	約 2 時間 20 分
BN-V438（別売)	約 3 時間 55 分	約 3 時間 10 分
VU-V840KIT ※（別売)	約 4 時間	約 3 時間 15 分
VU-V856KIT ※（別売)	約 5 時間 45 分	約 4 時間 40 分

バッテリー	ファインダー+ LED ライト使用時	液晶画面＋ LED ライト使用時
BN-V408-H	約 45 分	約 35 分
BN-V416 ／BN-V416-H (別売)	約 1 時間 30 分	約 1 時間 15 分
BN-V428（別売)	約 2 時間 40 分	約 2 時間 10 分
BN-V438（別売)	約 3 時間 35 分	約 2 時間 55 分
VU-V840KIT ※（別売)	約 3 時間 40 分	約 3 時間
VU-V856KIT ※（別売)	約 5 時間 15 分	約 4 時間 20 分

連続撮影時間の目安（最大撮影時間)

バッテリー	ファインダー使用時	液晶画面使用時
BN-V408-H	約 1 時間 40 分	約 1 時間 20 分
BN-V416 ／BN-V416-H (別売)	約 3 時間 15 分	約 2 時間 40 分
BN-V428（別売)	約 5 時間 50 分	約 4 時間 40 分
BN-V438（別売)	約 7 時間 50 分	約 6 時間 20 分
VU-V840KIT ※（別売)	約 8 時間 5 分	約 6 時間 30 分
VU-V856KIT ※（別売)	約 11 時間 30 分	約 9 時間 20 分

バッテリー	ファインダー+ LED ライト使用時	液晶画面＋ LED ライト使用時
BN-V408-H	約 1 時間 35 分	約 1 時間 15 分
BN-V416 ／BN-V416-H (別売)	約 3 時間	約 2 時間 30 分
BN-V428（別売)	約 5 時間 20 分	約 4 時間 20 分
BN-V438（別売)	約 7 時間 10 分	約 5 時間 55 分
VU-V840KIT ※（別売)	約 7 時間 25 分	約 6 時間 5 分
VU-V856KIT ※（別売)	約 10 時間 30 分	約 8 時間 40 分

※ VU-V840KIT および VU-V856KIT は、バッテリーを付属のバッテリーポーチに入れ、別売のDC コード（VC-VBN800）でバッテリーポーチとビデオカメラを接続して使います。バッテリーをビデオカメラに直接取りつけることはできません。

メモ

- 撮影時間は、ズームを使ったり、撮影と撮影停止を繰り返すことなどで短くなります。バッテリーは撮影予定時間の約 3 倍分ご用意されることをお勧めします。
- 実撮影時間は撮影、撮影停止、電源の入／切、ズーム動作などを繰り返した場合の撮影時間です。実際には、これよりも短くなることがあります。十分に充電しても撮影できる時間が短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーに交換してください（☞P.14、151）。

●仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがありますので、ご了承ください。

ビデオカメラの取扱いについて

この製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。
製品は、家庭環境で使うことを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使われると、受信障害を引き起こすことがあります。この取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

索引

❒ アルファベット / 数字

❒ あ

❒ い

❒ え

❒ お

❒ か

❒ き

❒ く

❒ こ

❒ さ

❒ し

❒ す

❒ せ

❒ た

❒ つ

❒ て

❒ と

❒ な

❒ に

❒ や

❒ ゆ

❒ よ

❒ ら

❒ り

❒ れ

❒ ろ

❒ わ

アンケートおよびユーザー登録のお願い

このたびは、ビクターデジタルビデオカメラをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。
お客様の貴重なご意見を参考に、今後のよりよい商品の開発に努力したいと存じます。
つきましては、お手数ですが、本機をおもにお使いになる方に、アンケートおよびユーザー登録にご協力いただきたく、お願い申し上げます。

●下記アドレスのホームページより、ご回答ください。

http://www.victor.co.jp/reg/dvc/

なお、同梱されているはがき（ご愛用者カード）でもアンケートに回答していただけます。
ご愛用者カードにご記入後、ポストへ投函してください。

※お客様の個人情報は弊社の責任で保管し、お客様の承諾なしに公表することは一切ありません。

製品についてのご相談や修理のご依頼は

お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング**	本製品についての技術的なお問い合わせは **DVご相談窓口**
P.156をご覧ください。	電話：(045)450-2770

お買い物情報や製品についての全般的なご相談
お客様ご相談センター

フリーダイヤル 0120-2828-17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電話：(03) 5684-9311
FAX：(03) 5684-9317
〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル

ビクターホームページ　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

AV＆マルチメディアカンパニー
〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

M4D2 DSC　0204HOH-HT-VP